

トガアードノ獄内ニ於テ五年以上ノ時間驅役スルノ刑(乙)ヲアトウヘ
 一シスバルシノ獄内ニ於テ五年以下ノ時間驅役スルノ刑(丙)幼少ノ犯
 人ニシテ嘗テヘルフロンノ獨囚獄ニ禁錮セラレシヲナキ者ニ四週間
 以上科スヘキ懲役及ヒ禁獄等ノ刑(丁)ホール及ヒロツテンバルクノ獄
 内ニ於テ四週間以上禁獄スルノ刑(戊)ホールノ幼兒獄ニ於テ年齢十八
 以下ノ幼少ノ犯人ヲ四週間以上拘留スルノ刑(癸)六十四ノ州獄ニ於テ
 四週間以下拘留スルノ刑等ヲ設ク然レ婦人ハ總テコツテルスイルノ
 懲治場ニ禁錮シ其刑ノ種類ヲ分ツテ懲役禁錮并ニ幼少ノ婦女ニ科ス
 ル獨囚ノ三種トス
 獨囚ノ禁獄ハ獨リベルフロンノ獨囚獄ニ於テノミ之レヲ施行ス然レ
 モ學校拜神堂遊園等ニ出ルキニハ相混同セシム然レ其他ノ場所ニ於
 ハ總テ囚人ヲ混同セシム

メツケンハルクスイーリン 此國ニ於テ諸種ノ刑ニ處セラレタル
 者ヲ禁錮スルノ場所ハ左ノ如シ(一)懲役ニ處セラレタル者ハバツツテ
 一ニ近キトレバルセンノ獄内ニ(二)短期ノ禁獄ニ處セラレタル者ハ此
 最後ニ掲クル所ノ獄内ニ(三)城寨ノ拘留ニ處セラレタル者ハドヲミル
 ノ城寨内ニ(四)短期ノ拘留ニ處セラレタル犯人ハ其刑ノ言渡ヲ爲シタ
 ル裁判廳附屬ノ獄内ニ禁錮スルモノトス
 懲治ノ法ハ國法并ニ右初ノ三ヶ所内ニ設ケタル規則中ニ之ヲ定ム然
 ノ短期ノ拘留ニ付テ施行スヘキ一般ノ規則ハ僅カニ其三分ノミトス
 下レバルセンノ懲役獄ニ於テハ在刑ノ全時間囚人ヲ獨囚シ且ツ囚房
 内ニ於テ勞役ヲナサシム然レモ囚人ノ身体強壯ナルカ罪刑ノ長期ナ
 ルカ又ハ其品行ノ正シキキハ其中ノ一ヲ以テ獨囚ノ期限ヲ減シ獄外
 ニ於テ通常ノ驅役ヲ受ケシムルコトアリ

グランドジャッジー、チフバアーデン 此國ニ於テハ日耳曼刑法ノ行ハレ
サル以前ヨリ獨囚ノ禁獄ヲ設ケリ

一千八百七十一年十二月二十三日ノ法律ヲ以テ懲役獄ノ囚人ハ最初
三年ノ間囚房ニ獨囚スヘク且此規則ハ獄内ノ囚房充塞スルニ至ル迄
ハ禁獄ノ刑ニ處セラレタル者ニモ亦適用スヘキノ規則ヲ設ケリ然レ
禁獄ノ刑ハ何レノ場合ニ於テモ其最初ノ一年間ハ囚人ヲ異ニシ獨房
セシム

此規則ヲ適用スルノ方法ハ右全日頒布ノ法律ヲ以テ之レヲ定ム但シ
其規則ハ他ノモノ、内ニ掲ク

懲役ニ處セラレタル男子ハブルウチサルノ懲役獄ニ禁錮シ六週間以
上ノ禁獄ニ處セラレ男子ハメーンヘイム及ヒブルウチサル等ノ懲治
獄ニ禁錮シ懲役又ハ六週間以上ノ禁獄ニ處セラレタル婦人ハブルウ

チサルノ婦女拘留獄ニ禁錮シ六週間以下ノ禁獄ニ處セラレタルモノ
ハ郡裁判所附屬ノ郡獄ニ禁錮シ拘留ニ處セラレタルモノモ亦此郡獄
内ニ禁錮シ城塞ノ拘留ニ處セラレタルモノハバフテートノ城塞中ニ
禁錮スルモノトス

ブルウチサルノ懲役獄及ヒ其他ノ懲治獄等ニ於テハ最初三年ノ間囚
人ヲ獄内ニ獨囚シ其以後ノ時間ハ往々囚人ノ望ミニ由リ其刑中ノ何
年ヨリ何年迄ノ獨囚時間ヲ撰取セシム然レ己ニ獨囚ヲ免レタル囚人ニ
ハ日中混同ノ驅役ヲ科シ夜ノ時間ハ相分散セシム又獨囚ノ囚人ハ一
日毎ニ四度巡察ス又郡獄ニ於テハ實決ノ囚人ト未決ノ囚人トヲ區別
ス然レハ裁判廳内ニ於テハ暫時間相混同セシム
城塞中ノ囚人ニハ一定ノ許可ヲ與フルモノトス
懲役獄ノ囚人ニハ規則中ニ定メラレタル驅役ヲ科ス然レ此驅役ノ時

間ハ運動學校及ヒ食事等ノ時間ノ外午前六時夏ノ時間ハ五時ヨリ午後七時半迄ヲ限リトシ囚人ヲソ日々科スル所ノ役事ヲ成就セシム
 懲治獄ノ囚人ニモ亦之ト比シキ規則ヲ適用ストイヘル其驅役ハ囚人ノ所好ニ從テ使役ス郡獄ノ囚人ニハ一ノ職業ヲ科ス又ハ囚人ヲシテ已レニ相當ナル職業ヲ選マシム
 拘留ノ囚人ニハ職業ヲ科セス然レモ囚人ノ好ニ因テハ隨意ニ之ヲ爲サシム

ニ達蘭 ニイデルラント 此國ニ於テハ一千八百十三年十二月十一日ノ法律ヲ以テ懲治法ヲ改正シ終身徒刑ノ法ヲ廢止シ更ニ拘留ノ刑ヲ設ケ終身苦役ノ刑ヲ廢シテ五年ヨリ少カラス二十年ヨリ多カラサル懲役ノ刑ヲ設ケ有期苦役ノ刑ヲ廢シテ五年ヨリ少カラス十五年ヨリ多カラサル懲役ノ刑ヲ設ケ懲治獄ノ内ノ終身懲役ノ刑ヲ廢シテ五年ヨリ少カラス十

年ヨリ多カラサル懲役ノ刑ヲ設ケタリ

此國ニ於テハ懲役獄ノ外他ニ十三ノ監獄二十三ノ拘留場及ヒ百二十五ノ警察獄アリ然レ此等ノ監獄及ヒ拘留場ノ内アマステルダム、ロツトルタム及ヒユトレツトノ三ヶ所ノモノニ於テハ全ク囚人ヲ獨囚房ニ禁錮ス一千八百五十一年六月二十八日頒布ノ法律ヲ以テ獨囚ノ禁獄ハ一年以下ノ懲治ノ刑ニ處セラレタル者ニハ囚人ノ所好ニ因ルヘシトイヘル若シ獨囚ノ禁錮ヲ用フルルハ其期限ヲ六ヶ月ニ輕減スヘキノ規則ヲ定メ又同年六月二十九日ノ法律ヲ以テ二年間混同ノ禁獄ニ處セラレタルモノニハ其期限ノ半ヲ減スヘキノ規則ヲ追加シ又更ニ全年七月二十四日ノ法律ヲ以テ四年間ノモノハ其期限ヲ二年ニ減スヘキノ規則ヲ定メタリ然レ當時尙ホ且混同ノ禁獄六年ノモノハ獨囚ノ禁獄ニ代ルル期限ヲ三年ニ減スヘキ建言書ヲ下院ヘ上申セリ

白耳義 此國ノ法律中ニ設ケシ所ノ刑ハ死刑苦役拘留懲役禁獄等トス
 但シ此等ノ刑名ハ其刑法ノ第七條ニ掲ク
 苦役ノ刑ハ終身科スルモノアリ又ハ十五年ヨリ少カラス二十年ヨリ
 多カラサル時間科スルモノアリ然シテ此ノ囚人ハ懲治獄ニ禁錮ス
 又懲役ノ刑ハ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラスト定ム而シテ此囚人
 ハ懲役獄ニ禁錮ス但シ此規則ハ刑法第十二條ヨリ第十四條迄ノ條中
 ニ掲ク
 囚人ハ各々役事ヲ定メテ使役シ其使役ヨリ生シタル利益ノ分配金ハ
 出獄ノ時若クハ出獄ノ後定マリタル時ニ於テ囚人ニ付與スルノ貯金
 トス然レモ此分配金ヲ與フルノ割合ハ懲役ノ囚人ニ於テハ十分ノ四ヨ
 リ多カラス苦役ノ囚人ニ於テハ十分ノ三ヨリ多キヲナシ他ノ殘額ハ
 之ヲ政府ニ徵収ス然レモ政府ニ於テ其金ノ半額ハ禁獄中囚人ニ歡娛ヲ

得セシムルノ費用ニ充ツルコトアリ又ハ窮乏ナルヲ認メタル時ハ囚人
 ノ家族ニ付與スルコトアリ但シ此規則ハ刑法第十五條ニ掲ク
 拘留ノ刑ハ無期ト有期トアリ有期ノ拘留ハ通常五年ヨリ少カラス十
 五年ヨリ多カラスト雖モ特別ナル場合ニ於テハ十五年ヨリ少カラス
 二十年ヨリ多カラサルコトアリ然レモ此囚人ハ王國內ニ在ル城塞中若ク
 ハ法律ニ於テ定メラレタル懲役場或ハ感化場内ニ禁錮ス但此規則ハ
 刑法第十六條及ヒ第十七條ニ掲ク
 禁獄ノ刑ハ八日ヨリ少カラス五年ヨリ多カラス然シテ此囚人ハ感化
 場内ニ禁錮シ政府ノ寬宥ヲ得シ者ノ外場内ニ定メラレタル事業ニ使
 役シ其使役ヨリ生シタル物ノ囚人ニ與フヘキ分配金ハ十分ノ五ヨリ
 多カラストス

佛蘭西 此國ノ懲治法ハ刑法并ニ一千八百五十年六月八日全五十一

年十二月八日全五十四年五月三十日全五十五年八月二十九日決定ノ
 法律其他諸般ノ公布等ニ依テ之ヲ定ム然シテ刑法ニ設ケタル重罪ニ
 科スヘキ刑ニハ死刑終身苦役ノ刑流刑五年ヨリ少カラス二十年ヨリ
 多カラサル苦役ノ刑五年ヨリ少カラス二十年ヨリ多カラサル拘留ノ
 刑五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル懲役ノ刑等トシ懲治ノ刑ニ
 ハ六日ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル禁獄ノ刑トス
 苦役ノ刑ニ處セラレタルモノハ其刑ノ有期ト無期トヲ論セス總テア
 ルシウール、ケイーン及ヒニウカレドニア等ノ場所ノ外佛蘭西所領地ニ
 アル獄舎ニ禁錮シ耕植其他總テ公益ト爲ル煩重ノ苦役ヲ受ケシメ其
 苦役ニ因テハ保護ノ爲メ囚人ノ兩脚ヘ彈丸ヲ繫ケ又ハ鎖ヲ用ヒテ兩
 人毎ニ聯接シ又婦女ハ獄内ニ於テ其性ト年齢トニ相當ナル使役ヲ受
 ケシム然レヒ此規則中一二ノ異同ヲ設ケ此刑ニ處セラレタル婦女ハ

總テ懲役獄内ニ於テ其刑ヲ受ケシメ又此刑ニ處スヘキモノト雖ヒ其
 年齢六十以上ノ男子ハ懲役ノ刑ニ代フ然シテ此刑ノ八年以下ノ言渡
 ヲ受ケタル者ハ其刑期ノ終リタル後其刑ノ期限ト比シキ時間其刑ヲ
 受ケタル所ノ場所ニ住居セシメ八年以上ノ言渡ヲ受ケタルモノハ終
 身住居セシム

流刑ハ法律ニ於テ定メラレタル歐羅巴大陸ノ佛蘭西領地外ノ場所ヘ
 遷徙シテ終身住居セシムルノ刑トス若シ此刑ニ處セラレタルモノハ
 歐羅巴大陸ノ所領内ヘ歸リ來ルキハ終身苦役ノ刑ヲ科スルモノトス
 拘留ノ刑ニ處セラレタルモノハ歐羅巴大陸ノ佛蘭西所領内ニ在ル城
 塞中ニ禁錮ス

懲役ニ處セラレタルモノハ男女ヲ論セス懲役獄ニ禁錮シテ使役ヲ受
 ケシメ其使役ヨリ生シタル利益ハ其一部ヲ囚人ノ所得ト爲サシム

此國ニ於テハ當時十六ノ懲役獄アリ然シテ其三ヶ所ニ於テハ耕作ヲ爲サシメ之ヲ男子ヲ入レ置クノ場所トシ其七ハ婦人ノ場所トス短期ノ禁獄ニ處セラレタルモノハ感化場ニ禁錮シ其獄内ニ於テ定メラレタル驅役中囚人ノ所好ニ從テ使役シ其使役ヨリ生シタル利益ハ一部ヲ獄舎ノ費用ニ供シ一部ヲ囚人ニ相當ナル勸娯ヲ爲サシムルノ用ニ充テ一部ヲ出獄ノキ囚人ニ與フルノ貯金トス一年以上ノ禁獄ニ處セラレタルモノハ一千八百三十年六月六日ノ法律頒布以來之ヲ懲治場ニ禁錮ス然シテ此一年以上ノ禁獄ニ處セラレタル者ヲ懲治スルト比シキ方法ヲ以テ懲役ノ刑ニ處セラレタルモノ等ノ爲メニモ獄内ニ於テ更ニ懲治場ヲ設ケ之レヲ平常品行ヲ磨勵シ善性ニ感化スヘキノ望アル証ヲ顯シタル囚人等ヲ禁錮スルノ場所トス

軍事及ヒ航海裁判所等ニ於テ前條ニ記列セシ刑ヲ用フルルハ軍事ノ懲治場ニ於テ公事ニ使役スルノ刑ヲ附加スルモノトス年齢十六以下ノ囚人ハ刑法ノ第六十六條及ヒ六十七條ノ規則ヲ以テ之ヲ懲治教化場ニ禁錮シ其年齢二十歳ニ充ル迄教化場内ニ於テ通常農事ニ使役ス但シ此規則ハ一千百六十九年十一月二十五日ノ法律ヲ再用スル所ナリ此教化場ニハ官立ト私立トアリ私立ノ内男子ヲ禁錮スルノ場所ハ五ヶ所女兒ノ場所ハ十五ヶ所アリ然シテ此等ノ場所ニ於テハ一千八百五十年八月五日ノ法律ヲ以テ制定セシ幼少ノ囚人ヲ教化保護スルノ規則ヲ設ケ其後尙又數多ノ規則ヲ設ケタリ

葡萄牙 此國ノ法律中ニ設ケシ所ノ刑ハ禁獄及ヒ亞非利加内ニアル葡萄牙所領地へ追放スル等ノ刑トス然シテ禁獄ノ刑ハ一千八百六十七年七月一日ノ法律ヲ以テ刑法ヲ改正シ更ニ獨囚ノ禁獄ヲ設ク又追

放ノ刑ハ一千八百五十二年ノ刑法ニ於テ之ヲ設ケ同六十七年十二月九日法律ヲ以テ亞非利加内ニ在ル葡萄牙所領地ノ懲治場へ遷徙スルノ規則ヲ定ム

幼年ノ囚人ハリスボンノ感化場ニ禁錮ス然シテ此感化場内ニハ園圃ヲ設ケ囚人ヲ種藝及ヒ農業等ニ使役シ又建築業ノ一二手工ヲ教授ス西班牙 此國ニ於テハ終身足械ヲ繫ルノ刑ニ處セラレタル者ヲ亞非利加内ニ定メタルカナリ島又ハ其海洋外ニ遷徙ス然シテ此刑ニ處セラレタル者ハ其刑期ノ無期有期ヲ論セス公益ノ爲メニ驅役シ各箇ニ鎖ヲ足ヨリ腰ニ繫ケ苦難ノ驅役ヲ受ケシメ他ヨリ救助物ヲ受クルヲ許サズ但シ有期ノ時間科セラレタル者ハ造兵所内ニ於テ之ヲ使役ス

懲役ノ刑ニ處セラレタル者ハ其刑期ノ無期有期ヲ論セス之ヲ西班牙

地方内若クハ地方外ノ獄舎ニ禁錮シ徒刑ハ六年ヨリ少カラス十二年ヨリ多カラス此刑ニ處セラレタルモノハ西班牙地方内若クハベネーリツツ島若クハカナリ島内ニアル懲治場ニ禁錮シ懲治ノ刑ハ六月ヨリ少カラス六年ヨリ多カラス此刑ニ處セラレタルモノハ西班牙地方内ノ獄舎ニ禁錮ス然シテ此等ノ囚人ハ獄内ニ於テ使役シ其使役ヨリ生シタル物ノ一部ハ囚人ニ與フルノ時金トス
禁獄ノ言渡ヲ受ケシモノハ六年ヨリ少カラス十二年ヨリ多カラステ爾時同西班牙地方内ノ獄舎ニ禁錮シ懲治獄ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ六月ヨリ少カラス六年ヨリ多カラスサル時間其刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判廳所轄内ノ獄舎ニ禁錮ス然シテ此等ノ囚人ノ使役ヨリ生シタル物ハ總テ囚人ノ所得ト爲サシム
拘留ノ刑ニ處セラレタルモノハ一月ヨリ少カラス六月ヨリ多カラス

ル時間郡中ノ首タル場所内ニ在ル獄舎ニ禁錮ス
 伊太利 此國ニ於ケル一千八百五十九年ノ刑法中ニ設ケシ所ノ刑ハ
 徒刑場内ニ禁錮スル無期又ハ有期ノ苦役ノ刑懲役獄内ニ禁錮スル懲
 役ノ刑及ヒ城寨中ニ禁獄スル追放ノ刑等トス
 禁獄ニ處セラレタルモノハ其刑期ノ一年以下ナル者ニ限り裁判廳ノ
 獄内ニ禁錮シ其他ハ懲役獄ニ禁錮ス
 タスカチーノ刑法ヲ以テ頒布セシ所ノ刑ハ終身徒刑場内ノ禁錮懲治
 獄内ノ禁錮及ヒ單獨ナル禁錮等ノ刑トス
 タスカチーノ懲治場ニ於テハ囚人ノ望ニ依リ又ハチーバロンニ於テ
 設ケラレシモノ、方法ヲ以テ囚人ヲ分ツテ獨囚スルノ規則ヲ設ケ又
 伊太利政府ニ於テモ之ニ訂正ヲ加ヘテ施行セリ然シテ他ノ地方ノ徒
 刑場及ヒ懲治場ニ於テハ場所狹少ナルカ故ニ一般ノ規則トシ囚人ヲ

混同セシムルノ法ヲ用ヒサルヲ得ス然レモ囚人ノ男女及ヒ其年齢罪
 刑ノ期限等ヲ以テ區別ヲ定ム然レモ懲治獄内ニ於テ混同ノ使役ヲナス
 ニハ囚人ニ發言ヲ禁シ囚人ヲ教化スルノ法ハ頗ル其美ヲ盡シ使役ヨ
 リ生シタル物ノ囚人ノ所得トナスヘキ分配金ハ出獄ノ片ニ之ヲ給與
 ス
 一千八百七十三年ニ於テ伊太利中禁獄ニ處セラレタル者ヲ禁錮スル
 ノ獄數ハ八、追放人ヲ禁錮スルノ獄數ハ四、懲役人ノ獄數ハ十六、農業ヲ
 ナサシムル場所ハタフカチーニアルゴルコナア及ヒヒアノサア島ノ
 ニケ所多年刑ノ連續スル犯人ヲ禁錮スルノ獄數ハ二、諸種ノ犯人ヲ禁
 錮スルノ獄數ハ五、徒刑場ノ數ハ二十四、婦女ヲ禁獄スル獄數ハ六、幼少
 ノ犯人ヲ禁スルノ獄數ハ三、私立懲治教化場ハ三十六、裁判廳附屬ノ獄
 數ハ二百五十六、地方ノ獄數ハ一千四百九十九ナリ

懲治場ノ設ケ未タ充分ナラサルニ因リ數多ノ犯人ヲ裁判廳附屬ノ獄舍ニ禁錮スルコトアリ然レモ此獄内ニ於テハ囚人ヲ教化スルノ法頗ル美ヲ盡セリト云フヘカラス

懲治法ハ司法卿及ヒ内務卿其全權ヲ握リ之ヲ處置スルモノトス因テ今茲全國ノ懲治法ヲ廢止シテ近者委員總會ヘ呈セシ刑法ノ如ク之ヲ訂正セントス

希臘 此國ニ於テハ一千八百三十六年十二月三十一日ノ法律ヲ以テ更ニ囚獄ノ規則ヲ設ケシトイヘモ獄舍ノ形狀ニ關スルカ爲メ總テ此規則ヲ施行スルヲ得ス然レモ此國ノ獄舍ハ獨リコルスノ懲治場ノミニシテ他ハウチシヤ人及ヒ土耳其人等ノ建築セシ城塞ヲ用ヒ苦役ノ刑ニ處セラレタルモノハ其刑期ノ終身ト有期トヲ論セス此城塞中ニ禁錮ス但シ此城塞ハ他ノ場所ヨリ一等堅固ナルニ因リ此等ハ犯人ヲ禁

錮スルノ場所トス

セルウイア 此國ニ於テハ苦役拘留及ヒ一月以上懲役等ノ刑ニ處セラレタルモノハ其旨ニ原イテ設ケシ所ノ懲治場ニ禁錮シ一月以下ノ懲役ニ處セラレタルモノハ裁判上或ハ警察上ニテ刑ノ言渡ヲ受ケシ者ヲ論セス郡或ハ州ノ鎮臺所ニ禁錮シ再犯人トイヘモ更ニ異ナルナシ然レモ外出鑑札ヲ下付スルノ期限ニ於テ獨リ其區別ヲ設ケ初犯ノ囚人ニハ其刑ノ半ヲ經過セシ後下付スルトイヘモ再犯人ニハ其刑ノ三分二ヲ經過セシ上ニ非ケレハ下附セス又其罪ノ三犯以上ニ涉ル者ハ在刑中下付セス但シ此規則ハ外出免許ノ規則第二條及ヒ第七條ニ掲ク

ローマニア 此國ニ於テハ一千八百七十四年一月十六日ノ法律ヲ以テ懲治ノ法ヲ定メ夜間ハ囚人ヲ異ニシ晝間ハ囚人ニ發言ヲ禁シ混同

ニシ使役スルノ規則ヲ設ク然シ囚人ヲ禁錮スルノ獄舎ハ(一)感化場(二)懲役場(三)苦役場等ノ三トス

此等ノ獄舎ハ各々三百五十人ヨリ乃至四百人ノ囚人ヲ禁錮スルヲ得ヘシ然シ獄中ニハ各々園圃ヲ設ケ之ニ囚獄ノ囚人ヲ使役ス

幼少ノ囚人ハ懲治教化場ニ禁錮シテ農事ヲ爲サシメ夜ニ入レハ各々囚房ヲ異ニシ睡眠セシム

再犯ノ囚人ハ再犯人ノ懲治場ニ禁錮スヘキノ規則アリ然シ此囚人ハ晝夜囚房ヲ異ニシ各自獄内ニ獨囚ス

○第二 瑞西囚獄制規改進ノ形跡

ニウチヤートル懲治場ノ幹事ドクトルギルラアーム氏述フ

倫頓府公會以來熟々我國獄制上ノ進歩ヲ視ルニ各「カントン」區分地ニ稱名ニ

囚リ其多少アリト雖モ爾來大ニ改進セシ所アリ蓋シ該公會ノ囚獄上ニ其進歩ヲ誘導セシトハ我國ニ於テモ亦豈ニ他ニ異ナランヤ然リ而シテ後章ニ記名セル其委員官ヨリ該公會ヘ呈上セラレシ報告書ノ如キハ立法官ニ於テ之ヲ印行シ既ニ瑞西各「カントン」ニ頒布シ該公會ノ事務録モ亦其數冊ヲ出版シ中央政府ヨリ之ヲ各「カントン」ノ司法省及ヒ首タル書籍館等ニ分派スルト近キニアリ又其公會問題ノ如キニ至テハ出版ノ上之ヲ輿論ニ附シテ大ニ公説ニ合シ且其意ヲ未ダ會テ了認セサリシ所ノ便益ニ任カシムルニ至レリ
爾來更ニ聯邦政治ノ憲法ヲ制定スルノ際ニ當リ其會議中聯邦ノ刑法テ一ニスヘキ論ノ如キハ議事院ニ於テハ其憲法中幼童ノ犯人ヲ待遇スルノ場所ハ各「カントン」ニ於テ之ヲ設立スヘキノ一條ヲ設クルニ至レリ然レモ一千八百七十二年五月十二日人民ヨリ其憲法ヲ抗拒シ執

政官ニ於テモ其法ノ行レサルヲ看破セシテ以テ終ニ刑法ハ各「カント」ノ適宜ニ任ストイヘ其規則ニ至テハ新タニ頒布セシ所ノ憲法ニ從テ之ヲ設クヘキノ允許ヲ與ヘ然シテ更ニ其憲法ノ第六十五條ニ於テ死刑及施体ノ刑ヲ廢止ス但シ軍事刑法ノ規則開戰中ニ於テ施行スヘキノ規則ヲ設ケリ

蓋シ此規則ノ如キハ我國囚獄上ノ進步及輿論趨向ノ現狀等ヲトスルニ足ル可シ然リ而シテ其等死刑及ヒ施体ノ刑等ハ實際上已ニ之ヲ廢止セリトイヘ其憲法中ニ其規則ヲ編入セシニ因リ各「カント」ノ刑法ニ於テハ是ヨリ其改訂ヲ爲スニ至ルヘシ然シテ聯邦ノ刑法チ一ニスル如キハ各「カント」ニ於テ之ヲ認メテ中央集權トシ之カ爲メ全ク「カント」ノ政權ヲ失フヘキノ説ヲ主張シ深ク之ニ抗拒セシニ因リ犯罪ヲ預防スルノ方法及ヒ懲治ノ良法等ヲ施行スルハ爲メニ其時期ヲ遷延ス

ルノ恐レナキニアラス然リト雖モ時勢ノ改進スルハ人手ノ能ク得テ支ユヘキ所ニアラス故ニ各「カント」ニ於テモ亦其改進スルニ從ヒ漸次其法ヲ變改シ恰モ百戰ノ後勝利ヲ得ルカ如ク終ニ舊法ヲ變スルニ至ルヘシ然レ其設クヘキ方法ノ同シカラサル一事ニ至テハ長ク其妨害ヲ刑事上ニ留ムヘシ

各「カント」中ウリ及ヒアツペンゼーノ如キハ已ニ其刑法ヲ改訂シウリニ於テハ新タニ懲治場ヲ設ケ其刑法中罪狀ヲ告白セシムル爲メ犯人ヲ拷問ニ附セシ往時ノ規則ハ之ヲ刪去シテ更ニ陪審官ノ口書ヲ以テ其罪ヲ決定スルノ規則ヲ置キ新タニ編纂スル所ノ刑法ハ已ニ其草ヲ脱シ然シテ此刑法ニ於テハ未タ曾テ設ケサル處ノ一條ヲ舉ケテ科スヘキ刑罰ノ種類ヲ掲ケ且囚徒ノ禁獄中特別ニ行狀ノ正シキ者ハ其刑期ノ三分一ヲ輕減スヘキノ規則ヲ設ケリ然レ其制限試免ノ規

則ニ至ツテハ未タ之ヲ設ケスアツペンゼーニ於テハ其憲法中罪刑ノ
 言渡ハ其控訴ヲ禁スルノ規則ヲ刪去シ治罪ノ方法ハ其規則ヲ設ケ往
 時ノ糾問ハ之ヲ訂正シテ更ニ審理ノ法ヲ制定セリシントゴールニ於
 テハ一千八百七十二年八月其州會ニ於テ怠惰放蕩ニシテ且ツ不良
 ナル者ハ之ヲ感化場ニ禁錮スヘキノ法ヲ定メ新タニ編纂スル所ノ刑
 法ニ於テハ制限試免ノ規則ヲ設ク然レモ未タ其草ヲ脱セスアルコウ
 井一ニ於テハ一千八百七十二年二月中其州會ヨリ新タニ出獄囚徒ヲ
 監督スルノ規則ヲ頒布シ然シ其監督ハ出獄囚徒居住ノ地方會所ニ於
 テ爲スヘキノ規則ヲ定メタリシイ子ワニ於テハ其刑法改正ノ會議ヲ
 開キニウチヤールニ於テハ立法官ヨリ布告書ヲ頒布シテ其獄制ニ
 制限試免ノ規則ヲ追加シ又其州會ニ於テハイム、フランシス、ポーレル
 氏ヨリ該「カントン」獻納セラレシ佛蘭西金八百万ヲ資本トシ英國ノ

感化農場ニ比シキ方法ヲ以テ怠惰不長ナル幼童ヲ感化教育スヘキ
 農場ヲ設立スヘキノ議ヲ決セリ蓋シ該「カントン」ノ如斯ニ至リシハ
 全ク倫頓府公會ノ致ス處ニシテ且ツ其後ドクトル、ウアイチス、氏及ヒ
 カアーベンソル氏等ノ此地方ニ巡回セラレシヨアルヲ以テナリ
 メア、チールタル、シラフトン氏ノ制定セラシ獄制ノ我國ニ其愛好ヲ得
 タルコトハ一日ヨリ多クシテサルコトニ於テハ其獄制ニ等級ノ異
 法ヲ追加スルコト蓋シ近キニアルヘク制限試免規則ノ如キハ已ニ其司
 法省ニ於テ之ヲ頒布スヘキノ布告ノ草按ヲ整頓セリ又テツセンニ於テ
 ハ一千八百七十二年中更ニ其体裁ノ懲治場ヲ設ケウリーニ於テモ亦
 已ニ其同制ノ懲治場ヲ開設セリ然シテ其他ノ「カントン」ニ於テハ獨リ
 其懲治場ノミナラス拘留獄ニ至ル迄全ク之ヲ改正スルノ時期又近キ
 コアリ就中バロン、ノ如キハクラフトン制ヲ採リ已ニ其改正ニ着手セ

リ又瑞西獄制改正黨ニ於テハ常ニ其意ヲ辯制ノ改正ニ注キ聯邦二十
五「カントン」中ノ刑政各々異ナルヲ以テ深ク其妨害ヲ憂ヒ政表課ト共ニ
倫頓府公會ノ万国小會議ノ節討論セラレシ如ク各「カントン」ノ刑事上
其方法ヲ一ニスヘキノ改正ニ着手スヘキ説ヲ起セリ

一千八百七十二年開筵ノ万国囚獄改正ノ公會タルヤ我國ニ其便益ヲ
與ヘシ遲速多少ノ如何ハ宜シク前條ニ記列セシモノヲ視テ之ヲ知ル可シ

○第三 瑞典囚獄上現今ノ景狀

囚獄幹事總長イム、アルムンイス氏述フ

凡ソ他國ニ於テハ費府及ヒチーバロン制等ノ如ク獨囚ノ制及ヒ夜間
ハ囚徒ヲ異ニシ晝ノ時間ハ彼ノ沈黙混同セシメテ驅役スル制等ヨリ
モ尙良好ノ獄制ヲ設ケン爲メ諸種ノ論說アリシトイヘキ我國ニ於テ
ハ近來ニ至ルマテ如此論說ノ起リシコト之ナク唯舊來ノ慣習ヲ以テ重

罪犯ニハ施体ノ刑ヲ用ヒ其他ノ實決及ヒ未決ノ犯人ニハ晝夜ヲ論セ
ス均ク混同群集セシメシヲ以テ我國人民ノ如キハ文明各國ニ行ハル
、如此獄制アルヲ識ラサリキ然レモチラスカル帝第一世ノ治世ニ當リ
刑法及ヒ讞獄ノ法ヲ訂正シテ一層囚徒ヲ待遇スルノ方法ヲ寬ニシ且ツ
獄舎ノ制ヲ改正スヘキノ詔書ヲ人民ニ頒布セラレタリ是ヲ以テ人民
ニ於テハ舊習ノ迷夢全ク醒メ始メテ大ニ自己ノ愚ナルヲ悟レリ
是ニ於テカ議事院ニテハ獨囚ノ刑ヲ設クヘキノ議ヲ決シ且其目的ノ
獄舎ヲ建築セン爲メ數百万弗ノ資本ヲ整頓シ然シテ其三ケ年ノ間ハ
施体ノ刑ヲ廢止シ新タニ編纂セシ所ノ刑法ハ一千八百六十四年ニ至
テ之ヲ施行セリ故ニ禁獄ノ刑ニ於テハ國內ノ諸州中ニ獨囚獄ヲ設ケ
シ外他ニ其問題ニ報答スヘキノ一事アラサリキ蓋シ此獄舎ノ如キハ
當時國內ノ諸州中ニテ於其獄數四十ニシテ其内總計二千一百ノ囚房

アリ然レ此等獄舎ノ一部ハ未決ノ犯人ヲ監護スルノ場所トシ他ノ一部ハ二年ヨリ多カラサル刑期ノ犯人ヲ禁錮スルノ場所トス
 長期禁獄ノ囚徒ヲ禁錮スル混同制ノ都府獄ニ於テハ監督使役ノ法及ヒ獄内ニ新鮮ノ空氣ヲ流通スルノ方法等ニ至ル迄蓋シ大ニ改進セヨト雖ヒ晝夜囚徒ヲ混同スル一事ノ如キハ尙ホ依然ト存セシテ以テ一千八百七十年ニ至リ夜間ハ囚房ヲ設ケテ囚徒ヲ異ニスヘキノ論說湧起シ議事院ニ於テモ之ヲ允許セテレシヲ以テ當時其囚房ノ建築ニ着手セリ又此他ガゼンバルクニ近キ場所ニ於テ凡ソ三百人ヨリ乃至四百人ノ囚徒ヲ禁錮スルニ足ルヘキ目的ノ獄舎ヲ建築スル爲メ一千八百七十一年乃チ倫頓府公會以前議事院ニ於テハ已ニ其資本ヲ整備セリ然レ此獄舎ノ如キハ特ニ幼童ノ犯人其他重罪犯ニアラスシテ二年以上ノ刑期ニ處セラレタル犯人等ヲ禁錮スルノ場所トシ勤メテ囚徒

ヲ待遇スルノ良法ヲ設ケントス

一千八百七十二年倫頓府開筵ノ万国囚獄公會以來立法官及ヒ公衆ノ論專ラ其意ヲ囚徒ニ注キ一層之ヲ待遇スルノ良法ヲ設ケントスルノ舉ヲ爲スニ至リシコトハ全ク該公會ノ致ス所ナリ然シテ該公會ニ列セシ我委員ヨリハ公會開筵中ノ論說及ヒ公會準備ノ書類ヨリ摘要シテ英國及ヒアイルランド中ノ尤モ有名ニシテ且ツ全備ナル諸獄制ヲ報告セシテ以テ大ニ獄制上ノ知見ヲ廣メ且獄内未ダ曾テ設ケサル所ノ良法ニ至ルマテ之ヲ認知スルヲ得タリ又該公會ノ書記官イトウサソ、ヒイールス氏ノ出版セシ該公會ノ事務課及ヒドクトル、ウアイチス氏ノ該公會并ニ其後合衆國「ハルチモール」ニ開筵ノ公會へ呈上セシ氏ノ報告書等ノ如キニ至ツテモ爲メニ容易ク各國獄舎上ノ報告ヲ普ク國內ニ公布スルヲ得且ツ輿情ヲ獎勵シ其意ヲシテ未ダ曾テ輿論ノ着目セ

サリシ所ノモノニ注カシムルニ至レリ
 夫レ該公會タルヤ大ニ我國內ノ進歩ヲ誘導セシムル諸般ノ証跡ニ因
 テ既ニ之ヲトスルニ足ルヘシ然リ而シテ該公會ニ於テハ各國委員ノ我
 獄制上ニ討論アリシヲ以テ之カ爲メ其改正モ亦大ニ其時期ヲ促カニ
 セリト云フヘシ此時ニ當テヤ余ハ勸メテ懲治ノ爲メ長期ノ刑ニ處セ
 ラレタル犯人及ヒ全ク其精神ヲ失ハサル囚徒等ハ先非テ悔悟シ改心
 ノ証跡ヲ顯スノ日ニ至ル迄其處刑ノ初期他ノ囚徒ト相異ニスヘキノ
 說ヲ主張セリ是ニ於テカ我政府ハ速カニ其議案ヲ下シ一千八百七十
 三年五月三十日議事院ヨリ少カラス十二月ヨリ多カラサル條例ヲ以
 テ二年以上ノ禁獄ニ處セラレタル者ハ其刑期六分一ノ時間之ヲ囚房
 ニ獨囚スヘキノ決議書ヲ頒布セラレタリ是レ我獄制中ニ良法ヲ設ケ
 シ一事ニシテ其規則ハ直ニ之ヲ施行セリ然シテ獄内ヲ設立スル所

ノ寢室及ヒ工業場等ノ建築充分ナル上ハ之レニ處刑ノ初期囚房ニ獨囚
 スヘキノ者ヲ禁錮シ獄内ノ囚徒ヲ分チ十八ヨリ乃至十五人ヲ以テ一組
 トシ其各組ニハ成ルヘキ丈ケ工業ニ長シタル首長ヲ附シ專ラ此等ノ
 囚徒ニ工業ヲ教授シ傍ラ其工業ノ監督ヲ爲サシメ一組毎ニ各異ナル
 工業場ヲ與ヘ以テ晝ノ時間ハ此等ノ囚徒ヲ使役セントス又老年ノ囚
 徒ヲ待遇スルノ獄則及ヒ年齢十八以下ノ囚徒ハ獨囚ノ刑ヲ用ヒ之ヲ
 感化學校ニ送致スヘキ規則等ノ如キハ己ニ昨年ノ議事院開筵ノ日ニ
 於テ之ヲ設ク可キノ商議アリ然シテ其商議ハ特ニ命セラレタル議事
 院委員ノ裁決ニ付セリ

英國又アイルランド制等ノ如キ之ヲ我國ニ施行スルハ甚タ難事
 ナキニアラス蓋シ我國ノ法律ニ於テハ期限ノ二年ヨリ少カラサル刑
 ニハ判事ノ意見ヲ以テ其刑期ニ數月ヲ増加スルモ之レヲ禁セスト雖

五年以上ノ刑ニ至テハ之ヲ科スルヲ甚ク稀ナリ故ニ囚徒ヲシテ恭
 順勉勵漸次其良心ヲ起サシムルノ方法ヲ施行セント欲スルモ其時期
 甚ク短ク加之多クハ制限試免ノ制ヲ施スニ足ルヘキ刑期ノ囚徒アラ
 ハレハナリ然レモ其制規中我國ヲ比較シ其尤モ適宜ナルモノヲ識認
 セシ上ハ立法官ノ徒ラニ之ヲ默視ニ付セサルヲ敢テ疑ヲ容レテル所
 ナリ然リ而シテ我國ニ於テハ囚徒ノ待遇上其良法ヲ得ン爲メ更ニ監獄
 生徒ヲ教育スルノ方法ヲ設ケストツクホルムニ近キ懲治場ニ連接シ
 テ其教育場ヲ設立シ生徒ノ學科及ヒ教育ノ等ヲ分ツテ之ヲ二級トシ
 下級ハ下等官吏タルモノ、級トシ上級ハ上等官吏ノ級トシ各級六ケ
 月ヲ以テ其卒業ノ期限トス然レ下級ニハ監獄人ノ内相當ノ學識アル
 者ニシテ其行狀正シク且此學業ヲ成就スヘキ性質ヲ具ヘタル幼童ヲ
 選舉シ上級ニハ下級生徒抜群ナル者及ヒ其他相當ノ教育ヲ受ケタル

者ニシテ監獄事務志願ノ幼童ヲ選舉シ其學科ノ如キハ他ノ教育場ニ
 於テ教フル處ノ普通學刑法ノ一部逮捕ノ法囚徒ヲ管理待遇スルノ法監
 獄規則等ノ如キ專ラ監獄事務ニ緊要ナルモノ等ヲ設ク然レ卒業ノ上
 ハ其教育ノ恩ニ報セシムル爲メ之レ等生徒ヲ老練ナル教官及ヒ官吏
 等ニ附シ以テ各所ノ獄舎ニ使用スルコトス又此等生徒ハ其運動ノ自
 由ヲ得且身體強壯ナラシムル爲メ体操及兵術等ヲ習ハシム然リ而シ
 此等二級ノ學業ヲ成就シ終ニ卒業ノ免狀ヲ得タル者ニ於テハ定メタ
 ル期限ノ二年前ヨリ俸金ヲ給與シ且此學業ヲ履行セサル官吏ヨリ優
 等ノ位地ニ補任スルコト定ム

又囚獄上ノ書類及ヒ獄制等ノ世ニ著名ナルモノハ之ヲ國語ヲ譯シ他
 國ノ獄制改正ノ報告ノ如キハ逐次ニ之ヲ編纂シテ各々其名目ヲ附シ
 然シテ之ヲ出版シ監獄吏員ヲシテ其知見ヲ廣メ且益々職務ニ熟達セ

シメノ爲メ之ヲ吏員ノ見聞ニ供セントス蓋シ堪任當器ノ者ニシ且事務熟達ノ吏員ヲ得ル時ハ囚徒ヲ待遇スルノ方法モ亦從テ宜シキヲ得ルニ至ルヘシ

倫頓府公會以來禁獄ノ刑ニハ囚徒ノ行狀ヲ正シ且其藝業ヲ獎勵スヘキ一果ソ如何ナル良法ヲ設クヘキカ囚徒ノ改良勉勵ノ進歩ハ果ソ如何ナルヘキカノ問題起レリ囚テ視ルニ我學識アル四人ノ縉紳ヲ拔擢シテ之ヲ全王國ノ囚獄幹事總長ニ選舉シ且會議ヲ開キ囚徒ヲ感化スルノ尤モ適當ナル論說及ヒ其方法其他國々ニ於テ己ニ施行セル所ノ方法等ヲ議シ之ヲ建言スヘキ旨ヲ命セリ既ニシテ此會議ヨリ其方法ヲ建言シテ云フ凡ソ囚徒ハ先ツ其入獄ノ日ヨリ數日ノ間使役セシメテ之ヲ別房ニ獨囚シ其己往ノ行事ト及ヒ現在ノ分位トヲ回顧セシメ然ル後之レニ囚獄法教師ヲ附シテ諸種ノ口話ヲ爲サシメ法教師ヲシ

テ囚徒ノ心性ト其景狀トニ適宜ナル教諭ヲ爲サシムヘシ然ラハ則其教諭ト教官々吏等ノ交通等ニ因リ漸次其鬱閉ヲ解散シ是ニ於テ工業ニ就カシムルキハ自カラ己レノ意思ヲ慰ムルニ至ルヘシ然ソ其工業ノ如キ最初ハ偏頗ナリ且容易ナル工業ヲ爲サシムヘシ然レモ漸次其行狀正シ且工業ヲ勉勵スルノ日ニ至テハ出獄ノ後其産ヲ立ルノ手藝ヲ教フヘシ囚徒ニハ其工業ノ勤怠ヲ示シ精勵勉勵セル者ニハ其利益ヲ賞與スヘシ然ラハ則官吏ノ囚徒ニ施行スルモノ、目的ハ專ラ囚徒ヲ感化スルニ在ルヲ了解スルニ至ルヘシ然レモ囚徒ノ其獄ヲ出ルノキニ當リ入獄ノ日ヨリ一層ノ良民トナリ且不羈獨立ノ道ヲ得ルト否サルトノ一事ニ至テハ專ラ囚徒ノ工業ヲ管理スル監獄吏員ノ能シ其意ヲ注テ囚徒ヲ教導スルニアルヘシ然レモ尙囚徒ヲ感化スルハ出獄ノ囚徒ヲ扶助スルノ場所ヲ設クルニ在リトス

凡ソ囚徒ヲシテ能ク其身ヲ保護スルノ方法ヲ曉ラシメ且其レヲシテ
 社會上一時ノ怨言ヲ受ルコト有無ニ關セス之ニ激怒シ其怨恨ヲ報シ
 トスルノ意ヲ制止スルニ足ルヘキ道德上ノ忍耐力等ヲ供ヘシムル時
 ハ出獄ノ後獨リ囚徒ノ爲メノミナラス社會上ニ於テモ亦甚々緊要ナ
 ルコトハ近來大ニ之ヲ發悟シ其目的ノ爲メ此二三年ノ間ニ於テ國內三
 個ノ會社ヲ設クルニ至レリ然レモ此等會社ヲ連結シ其輿論ヲ一變シ
 事物ノ誘惑ニ因リ固有ノ性質ヲ誤リ屢々正路ニ戻リタル犯人ヲ懲治
 スルノ方法ハ徒ラニ之ヲ譴責スルコトナリ事ヲ道德ニ依テ感化スヘキ
 ノ目的ヲ以テ昨年中女帝陛下ヲヨセヒンノ保護ニ由リ更ニ一ノ會社
 ヲ設ケリ然レモ女帝陛下ヨリハ其建築ノ資本トシテ三万七千五百弗ヲ
 此會社ヘ下附セラレ其他士族人民等ヨリモ亦許多ノ喜捨金アリシヲ
 以テ佛蘭西メットレー制ノ模範ヲ採リ速カニニケ所ノ感化場ヲ設立

セントス又此會社ニ於テハ地面五百「イール」ノ贈遺ヲ受ケ然レ其三
 分一ノ場所ハ耕作地ニシテ他ノ場所ニハ大約百三十人ノ幼童ヲ住居
 セシムヘキ家屋并ニ諸工業ノ首長教官等ニ供スヘキ居室等ヲ設ケタリ
 其他學校工業場ノ如キモ亦其場所内ニ在リ

夫レ此會社ノ設ケタルヤオスカル第一世ノ大ニ希望セシ處ノ者ニシ
 之レヲ設立スルノ日ニ當テハ女帝ヨセヒンヨリ其資本ヲ下付セラレ
 シヲ以テ其尊号ヲ採リ此社名ヲオスカル及ヒシニヒン會社ト名シ
 我國感化場ノ如キ國內未ダ嘗テ設ケタル所ノモノヲ設立スルニ至リ
 シコトハ己ニ記列セシ所ヲ以テ宜シク之ヲ察スヘシ然レ如斯感化場ヲ
 設クルニ至リシコトハ全ク我國委員ノ倫頓府公會ヨリ携齋セシ報告書
 ノ致ス所ト云フモ豈ニ之ヲ溢言ト爲スヘケンヤ蓋シ該公會タルヤ其
 再會ノ我國ニ便益ヲ與ヘシコト已ニ如此大ナリ然レハ則將來公會ノ刑

事上一層ノ便益ヲ與ヘンヲ推シ知ルヘキ也因テ此ニ該公會ノ發起人タルドクトルウアイチス氏ニ對シ深ク斯ル無上ノ便益ヲ得シ所以ノ謝辭ヲ陳述スルヲ爾リ

○第四 ノルウユーノ囚獄上現今ノ景況

シリスチアナ懲治場ノ幹事リチャードペタルセン氏述フ嘗テ倫頓府ニ於テ萬國囚獄公會ノ開筵アリシ時ニ當リ余ハ該公會ノ報告書中左ノ一報ヲ掲ケテ云ヘリ夫レ我國ノ現狀ハ萬緒變換シテ全クホウアード治世ノ景狀ト異ナリ故ニ當時改正スヘキモノモ亦彼治世ニ於ケル如ク許多ナラス然リト云ヘレ當時ノ勢尙數事ノ改正ヲ爲スヘキモノアルヲ以テ我囚獄上ノ現狀ニ於ケル弊害モ亦之ヲ一變スルノ時期蓋シ近キニアルヘシ然シテ其改正ヲ爲カントスルモノ、先ツ

國內八ヶ所ノ獄舎ヲ合併シテ更ニ四ヶ所若クハ五ヶ所ノ巨大ナル獄舎ヲ設ケントスル說ノ如キハ又經濟ノ一端ト雖モ是ヨリ一層要且ツ切ナルモノハ我カ混同獄舎ノ制規ヲ改正シテ年齡ニ拘ハラヌ總テノ囚徒ヲ混同スルノ弊害ヲ去ルコト囚徒ヲ待遇スル一般ノ規則ヲ制定スルコト囚獄上ノ良法ヲ設クルノ豫備ヲナスコト及ヒ懲治場ノ獄制ヲ改正スルコト等ノ數項トス又司法省ニ於テハ全國ノ獄制ヲ改正スルノ權アラサルヲ以テ司法卿ヨリ更ニ上等ナル懲治場ヲ設立スヘキノ建言アリシト云ヘレ議事院ニ於テハ之ヲ允許セラレカリ然レモ余ハ此建言ノ全ク畫餅シ屬セスシテ且倫頓府公會ノ誘導ニ因リ再ヒ此建言ノ我議事院ニ起ランコトヲ望ム然レモ司法省ヨリ上等ナル位置ヲ占ムヘキ囚獄ノ官衙ヲ設クルハ果シテ其方法ノ宜シキヲ得ヘキヤ如何ノ問題ニ至ツテハ余ノ敢テ贅スルヲ須ヒサル所ナリ

爾來我國ノ景狀ヲ視ルニ尙余ノ前條ニ掲ケシ報告ヲ記シタルトニ異
 ナラス故ニ一千八百七十三年ドクトル、ウワイチス氏ヨリ書翰ヲ以テ
 我國囚獄上ノ概報ヨリシテ倫頓府公會以來制定セシ獄舍制規ノ報告
 等ヲ請レシキニ當リ余ハ其書翰ヲ落手スルヤ直チニ之ヲ我司法卿ニ
 呈上セシニ司法卿ニ於テモ亦一千八百七十四年二月十日付ノ書翰ヲ
 以テ余ハ更ニ舉ケテ報告スヘキ一事ヲ見ス然レモ倫頓府公會ノ事務
 録ハ其寫ヲ國中ノ囚獄幹事ヘ送致シ置キシニ依リ此等幹事ヘ書物ヲ送
 リ尙報告スル所ヲ議ス可シト答ヘテレタリ抑我國七ヶ所ノ舊獄ニ施行
 スル制規ノ如キハ司法省ノ特別ナル命令ヲ得ルニアラサレハ其幹事
 自ラ之ヲ改正スルノ權ナク又一千八百七十二年以来ハ其制規中嘗テ
 改正ノ一事ヲ見ス此等舊獄ニ於テハ其改正ヲ爲スノ難キト如是ノ弊
 害アリ然レモ余ノ管理スル當時ノ懲治場ニ至テハ之ト異ナリ其外部

ノ妨礙アル如キハ暫ク之ヲ置キ場内ニハ囚房ヲ設ケテ在刑中囚徒ヲ
 獨囚スルノ制ヲ用フ然レモ右同年以來ハ此場所ニ於テモ亦嘗テ報ス
 可キ改進ノ一事ナク彼倫頓府公會以來爲メニ改進セシ尤モ著ルキモ
 ノハ出獄ノ囚徒ヲ扶助スル爲メ私立會社ヲ設立シシ一事ニシテ此會
 社タル囚獄幹事囚獄法教師囚獄監長書記官及ヒ三人ノ教官等ト共ニ
 之ヲ設ケシ者ナリ此他シリスチアナニ於テモ亦其三ヶ所ノ獄舍ニ附
 屬スル一ノ公立扶助社アリ然レモ囚獄ヲ扶助スルノ方法ハ我等會社
 ノ如ク囚徒ニ工業ヲ與ヘ且之ヲ憐恤教諭シ全社ヲ巡回シテ其工業ヲ
 獎勵スル等ニアラスシテ唯金額ヲ施給スルニアリ故ニ余ノ管理スル
 懲治場ト他ノ七ヶ所ノ舊獄ニ於ケル景況ハ其平等ヲ失フテ恰モ舊垢
 ノ衣服ニ新衣ノ切片ヲ著ケシニ異ナラス然レモ懲治場ノ全獄制ヲ改
 正スル上ハ其一層ノ便用ヲ得ルノミナラス從テ他ノ獄舍トニ於ケル

モ亦其平等ヲ得ルニ至ルヘシ然ノ其獄制中ニ於テハ改正ヲ爲スヘキ
 モノ數事アリト云ヘル全國ノ獄制ヲ改正シテ更ニ之ヲ編纂スルニア
 ラサレハ充分ノ改正ヲ得ルコト恐クハ難カル可シ蓋シ此編纂ノ如キ其
 着手ノ日ハ能ク得テ之レヲ預知スル所ニ非スト雖ヒ余ハ其時日ノ近
 キアリテ且ツ其着手ノ日ニ至ツテハ倫頓府公會ノ輿論ニ基キ以テ編
 纂ニ着手アラシムコト望ミ且該公會ヨリシテ文明各國ノ獄制ニ至ル迄
 之ヲ窺フヲ得シヲ以テ當時此編纂ヲ爲スヤ舊時ニ比スレハ一層容易
 ナルヲ疑ハサルナリ蓋シ當時ニ至テハ各國ノ獄制之ヲ鏡中ニ視ル如
 シ其長ヲ取り短ヲ捨テ各國ニ於テ唯其民情景狀等ニ尤モ適シタルモ
 ノヲ決定スルノミナレハナリ

我國ニ於テ費府制トナシハロン制トノ間ニ議論ノ未タ決セザリシ
 ニ當テハ大ニ囚獄事務上ノ進歩ヲ導キシト云ヘル今日ニ至テハ當時

ニ比スレハ此問題上ノ進歩甚少ナク從テ報告スヘキ事件モ亦解少ナ
 リ

嘗テ倫頓府公會ヘノ報告書中ニ於テ余ハ幼童ヲ感化スルノ方法ヲ論
 シ怠惰放蕩ナル幼童ノ男女ヲ以テ之ヲ僅カニ開墾セシ農業場ニ譬ヘ
 リ蓋シ此農業場ノ如キハ之ヲ耕作シ得ヘキ者ニシテ且後來ノ改進黨
 希望スヘキノ場所トス故ニ余ハ罪惡ヲ預防制止スルノ方法ヲ改正ス
 ルハ先ツ其意ヲ幼童ノ犯人ニ注クヲ以テ尤モ緊要ナリトス然レ我カ
 シリスチアナノ如キ昨冬中年齡十八以下ニシテ竊盜罪ヲ犯セシモノ
 其數實ニ夥シク又其犯ス處ノ狀ヲ視ルニ各徒黨ヲ結ヒ夥多群ヲ爲シ
 且之ヲ犯スト云ヘル更ニ慚愧悔悟ノ心ナシ故ニ此等幼童ヲ感化スル
 ノ方法ヲ設クルコト是ヨリ緊要ナルモノアラストス然リ而シテ我國ニ
 於テハ一二ノ際ニ因リ年齡十歲以上十五以下ノ幼童ヲ徒刑ニ處スル

モ敢テ之ヲ禁セズ又年齢十五以上十八以下ノ人ニ至テハ屢々此刑ヲ科スルコトアリ然シテ余ノ管理スル所ノ懲治場ニハ獨リ年齢十八以上ノ犯人ノミチ禁錮シ未タ其年齢ニ至ラサル幼童ハ總テ之ヲ混同獄ニ送致スル者トス故ニ余ハ各國ニテ設ケタル如ク我國ニ於テモ亦此等幼童ノ爲メニ感化場及ヒ藝業學校等ノ如キ場所ヲ設ケ又年齢十八以上ニシテ短期ノ刑ニ處セラレタル犯人ハ之レヲ獨囚獄ニ禁錮ノ重罪人及ヒ刑期ノ六年ヨリ少カラサル犯人等ニ至リテハ之ヲ夜房ヲ設ケタル感化場ニ送り且制限試免ノ規則ヲ設ケクヲフトン制ヲ以テ之ヲ待遇セントス又余ハ丁抹ノ獄制ヲ以テ尤モ我國ニ適シタルモノト云レ余ハ倫頓府公會ニ於テ大ニ數事ノ感得セシコアルヲ以テ今茲ニ其論辭ヲ述ヘサルヘカラス然リ而シテ該公會ニ於テハ各國囚獄上ノ便益トナスヘキ討論且ツ其改正ヲ爲スノ意ヲ起スヘキ陳說等少カラス就中

凡ソ道理ハ永久變更スルコトナク又各個自由ノ權ハ得テ之ヲ剝奪スルモノニアラスト云ヘク國家ノ連續スル間ハ尙一定ノ法律ヲ設ケ且之ヲ管理スルノ首長ヲ置テ其法ヲ一ニシ其政ヲ同フセサルヘカラス各獄内ノ囚徒ヲ待遇スルニ至リテモ亦如是獨リ幹事ノ意見ノミニ倚ラズシテ必ス一般ノ制規ヲ設ケ其待遇ヲ同フセサルヘカラス又幹事ノ如キハ頗ル世事ニ達シ人情ニ適セサルヘカラスモノニシテ其懲治ヲナスノ日ニ當テハ能ク已レノ心ヲ警戒シ其適度ヲ失ヒ過等ノ懲治ヲナスヘカラス若シ最初ヨリシテ尤モ苛酷ナル懲治ヲナスハ囚徒ノ心ヲシテ其譴責ニ慣レ反テ惡意ヲ起サシムルノ恐レアルノミナラス又之ヲ感化スルノ大ナル妨害トナルヘシ然レバ獄舍ノ制規ニ至テハ費用ヲ顧ミス之ヲ設置セサルヘカラスモノニシテ若シ夫レ獄舍ニ不當苛酷ナキ仁慈ノ制ヲ以テ定メタル制規存セサルハ其囚徒

感化スル能ハス然レモ尤モ寛容ナル懲治ヲ以テ定メタル制規ヲ施行
 スル獄舎ニ至テハ固ヨリ最良ノ獄舎ト爲シ之レニ則テサル可カラザ
 ル事等ノ如キハ余ノ深ク感銘スル所ナリ故ニ余ハソイツラレ、ヒ井ル
 スバリー氏ノ爲ス所ヲ以テ摸範トス蓋シ氏ニ於テハ施体ノ刑ヲ用フ
 ルノ權アリト云ヘモ氏ハ二十五年ノ間之ヲ用ヒサリシナリ然リ而シ
 テ余ハ氏カアルハ子一獄ノ制規ヲ讀了セシ後熟々其制規ヲ考ルニ施
 体ノ刑ノ如キハ獄内常ニ缺可カラサルモノニシテ殊ニ緊要ナル場合
 ニ於テノミ之ヲ用フヘキヲハ余ノ見ル所マダ英國有司ノ説ニ異ナラ
 スト云ヘモ我國ノ人心ヲ察スルニ倫頓府公會ノ目的ハ徒ラニ懲治ノ
 方法ヲ寛ニスルノ外ニ出スト誤解セシ者アルノ恐レナキニアラス然
 レモ余ニ於テハ所謂惡ノ少ナルヲ以テ其犯人ヲ懲治セサルキハ其惡
 増長シテ一層ノ罪惡ヲ犯スニ至ルヘキノ格言ヲ守リ余ノ獄舎ニ於テ

ハ一千八百七十二年以來一層其方法ヲ嚴ニセリ然レモ區々タル罪惡
 ノ如キハ常ニ寛容ノ懲治ヲ用フ蓋シ囚獄幹事ハ囚徒ノ懲治者ニシ
 テ之ヲ懲治スルハ則其當然ノ職務ナル可シト云ヘモ其懲治ヲナスヤ
 大約道德上ノ方法ニ依ラサルヘカラス故ニ苟クモ幹事タルモノハ其
 心ヲ剛毅ニシ其決斷ヲ明瞭ニシ其意ヲ善良ニシ其行狀ヲ高尚ニシテ
 以テ其職務ヲ擔當セサルヘカラサルモノトス豈ニ又重任ナラスヤ然
 シテ我レ自ラ余ノ職務ヲ回顧スルニ一千八百七十二年ノ夏中倫頓府
 公會ニリ歸國以來暫クハ其責ノ重カラサリシモ爾來ハ一層ノ重キヲ
 覺ユト云フモ敢テ過言ニアラサルナリ

○第五 伊太利囚獄上現今ノ景狀

伊太利王國ノ囚獄監事總長マアーテノア、ベルトラニ、ス
 カリア氏述フ

シント、ルースニ於テ万国囚獄公會ノ開筵アルヲ以テ我國囚獄上ノ現
 狀并ニ其改進等ノ報告ヲ該公會へ上呈ス可キノ貴命ヲ奉シ余ハ茲ニ
 昨年ノ政表附録ニ記列セシ者ノ外左ニ掲ル處ノ條款ヲ以テ本年中我
 刑事上ニ於テ改進セシ處ノ者ヲ報告ス可シ然リ而シテ我囚獄會議ニ
 於テハ倫頓府公會以來嘗テ報ス可キ一事有ラス又新々ニ編纂セシ處
 ノ刑法ハ己ニ其草按ヲ進達セシニヨリ該院ニ於テ商議ノ上宜シク
 其取捨一定アルヘキヲ以テ蓋シ該會議ノ如キハ再ヒ之ヲ開筵スルコ
 ナカルヘシ

右刑法草按ニ於テ死刑ハ尙之ヲ廢セス其他ハ終身徒刑拘留ノ刑及ヒ
 追放ノ刑等ヲ設ク然シテ終身徒刑ノ囚徒ハ之ヲ我島嶼中ノ一島ニ遷
 徙シテ最初十年間ハ獨囚制ヲ用ヒ其後ハサーハロン制ノ禁獄ニ附ス
 ルヲ以テ一般ノ規則トシ又有期ノ拘留及ヒ追放等ノ刑ニ處セラレタ

ル囚徒ハサーハロン制ヲ以テ之ヲ待遇スルモノトス其他懲役及ヒ制
 限試免等ノ如キモ亦之ヲ右刑法中ニ設ク然レモ議事院ノ商議ニ因リ
 尙改訂ノ件々モナキニアラザルベシ

流刑ハ之ヲ有期ノ刑トシテ設クヘキノ説アルヲ以テ余ハ此説ヲ駁シ
 テ一ノ冊子ヲ造レリ然シテ當時ニ於テハ輿論モ亦頗ル其方法ヲ稱讚
 スルニ至ル然レモ余ハ其方法ノ漸次尙改良ニ進ムヲ望ム故ニ此冊子
 ノ刊行成ルノ後ハ速カニ其一部ヲ貴下へ呈送スヘシ貴下或ハ之レカ
 爲メ情ヲ感セシムルコトアラソノミ又新々ニ編纂セシ刑法ノ如キモ議
 事院ニ於テ之ヲ一定セシ上ハ是亦速カニ其一部ヲ貴下ニ呈送セント
 ス

我國ノ囚獄上ニ於テハ懲治ノ方法中獄外驅役ノ一事ヲ設ク此數年ノ
 間之ヲ施行セシヲ以テ是ヨリ此獄外驅役ノ如何ヲ陳スヘシ然シテ此

驅役上ニ於テ大ニ其方法ヲ改正シ未タ全ク行ハレザル處アリト雖モ
 其改正ノ商議ニ至テハ已ニ之ヲ確定セリ
 獄制及ヒ獄内驅役等ノ如キハ暫ラシク之ヲ置キ此紙上ニ於テハ先ツ獄
 外驅役及ヒ其驅役ノ方法且徒刑及ヒ徒刑罪ヨリ一層輕キ罪ヲ以テ短
 期ノ刑ニ處セラレタル囚等ヲ驅役スルノ間ニ區別ヲ設ケシ方法等ノ
 概略ヲ辨明セサル可カラス然リ而シテ此等囚徒ヲ驅役スル間ニハ既
 ニ區別ヲ設ケシヲ以テ更ニ當時三ヶ所ノ懲治場即チ一層適宜ノ語ヲ
 下ス時ハ農業懲治場ヲ設ケ之レニ拘留追放及ヒ單一ノ禁錮等ノ刑ヲ
 以テ獄外ノ驅役ナク獄内ニ禁錮セラレタル囚徒ノ内其行狀ノ正シキ
 モノヲ拔擢シテ遷徒スルノ場所トス蓋シ如是拔擢シテ之ヲ遷徒スル
 ハ囚徒ヲ褒賞スルノ方法ニシテ且益其温順勉勵等ヲ鼓舞スル爲メナ
 リ然シテ此等農業懲役場ハピアノサゴルコフ及ヒタスカン島中ナル

カブレー等ノ諸島ニ於テ之ヲ設ケピアノサ島ノ懲役場ノ如キハ已ニ
 其囚徒ノ數七百八人ニシテ本年ノ歲末ニ至ラハ其數八百八人ニ増加シ一
 千八百七十五年ノ歲末ニ及ハハ必ス千人ニ上ル可シ又他ノ二ヶ所ノ
 島ニ於テハ當時其數四百八十人トス因テ此等囚徒ノ全數ヲ計算スルニ暫
 時ノ間此等三ヶ所ノ懲治場ニ於テ其數已ニ千百人ニ及ヘリ然シテ獄
 内ニ於テ鞋履衣類其外緊要ナル物品ノ製造ニ使役スルモノ、外此等
 千百人ノ囚徒ハ總テ之ヲ農業ニ使役シ大約葡萄酒撒攪及ヒ穀物類ヲ作
 ラシメ其驅役ヨリ生スル穀物モ亦其質頗ル善良ニシテピアノサ島ヨ
 リ産出セル葡萄酒ノ如キハ他ニ産出スルモノニ卓越シ葡萄酒商人ト
 云ヘモ頗ル之ヲ稱讚セリ又穀物ノ如キハ囚徒ニ給與スル麵包費用ヲ
 減シ他ノ農業及ヒ藝業等ノ使役ニ至テモ亦獄舎ノ費用ヲ減少スルノ
 便益アリ此他ゴルコフ及ヒカブレー等ノ懲役場ニ於テモ略ホ如此ト云ヘ

此等ノ場所ハ其設立ノ日尙淺キヲ以テ宜ク了察ヲ加ヘ給フヘシ
 又此等ノ囚徒ヲ驅役スルハ預メ其一日ノ賃銀ヲ定メ囚徒ニハ一般ノ
 規則ト其禁獄ノ種類トニ從ヒ定額ノ分配金ヲ給與ス然シテ其分配金
 ハ更ニ之ヲ分テ二種トシ一分ハ囚徒ノ隨意ニ所好ノ食糧若クハ法律
 ニ定メタル額外ノ食物ヲ得ルノ費用ニ充テ一分ハ出獄ノキ囚徒ニ給
 與スルノ貯金トシ他ノ殘額ノ賃銀ハ之ヲ官ニ徵収ス又此等囚徒ハ日
 曜日神慮日祭日其他數度ノ休日及ヒ使役日ノ或ル夜ニ於テモ亦學校
 (他ニ之ヲ掲ク)ニ出席セシメ專ラ農學ヲ教授シ囚徒ヲシテ獨リ器械上
 ノ運轉ノミナラス日々己レノ使役セラル、農業上ノ理學モ亦其普通
 ノ大旨ニ通セシム
 故ニ如此使役ハ囚徒ノ幾分ノ利益ヲ與フルノ如何ニ着眼シ給ハ、先
 ツ此等囚徒ノ三分ノ二ヲ國內ノ尤モ僻遠ナル場所ノ貧民ト市邑ノ漂

流人等ニ過サルヲ了解シ給フヘシ然リ而シテ是等ノ囚徒ニハ其在
 刑中熟練ナル教導ヲシ專ラ囚徒ノ利益ヲ謀リ各其業ヲ定メ禁獄前
 ヲリ農業中一事ヲ財得セシ者ヲハ其事ニ使役シ末々財得セサル者ニ
 ハ其者ニ有益ニシテ且ツ容易ナル一事ニ使役ス故ニ其刑終了ノ日ニ
 至ル迄ハ些少ノ財本ヲ貯蓄シ且ツ一層農事ニ熟達スルヲ以テ歸郷ノ
 後ハ速カニ他人ノ使用ヲ受クヘキノミナラス從テ多量ノ賃銀ヲ受ル
 ヲ得ルニ至ルヘシ
 加之此等農業懲役場ノ囚徒中其刑終リテ己レノ故郷ニ歸ル者其數毎年
 五百人ニ下ラサルヲ以テ此等ノ囚徒ヲシテ農業上ノ理學ヲ了解シ且
 其實際ノ事業ニ熟達セシメ以テ荒陬僻遠ノ場所ニ歸ラシムルハ獨
 リ囚徒自身ノ利益ノミニ止ラス自ラ全王國中ノ農業上ニ一般ノ進歩
 ヲ與フルノ便益アルヲ蓋シ少シトセス

又我國ニ於テハ當時此等囚徒ノ外日々平均凡ソ三十人ノ囚徒ヲシテ
 之ヲ農業上ニ使役ス然シテ其二百人ハ公益ノ爲メ各獄舍内附屬ノ農
 業場ニ使役シテ大約小麥大麥及ヒ青葉等ヲ作ラシメ其他養蠶及ヒ煙
 草ノ耕作等ニ於テモ亦此等ノ囚徒ヲ使役シテ爲メ專ラ其用意ヲナシ
 養蠶場ハ之ヲカレアーリ獄舍内ノ場所ニ設ケ煙草ノ耕作場ハ之ヲ
 アルゲイローノ獄内ノ場所ニ設ケリ然レモ此等ノ場所ハ其設ケ末々
 充分ナラス就中煙草耕作場ノ如キハ其設立ノ日尙淺ク加之之ヲ耕作
 スルニ於テハ間斷ナク其意ヲ注シテ之ヲ培養更植シ且其草案ノ如キ
 ニ至テモ適宜ニ之ヲ繁茂セシメサル可カラサル等ノ難事アリ然レモ
 尙此地保管人ニ附シ有益ノ農業上ニ便益スルモノアリ
 此等囚徒ノ内保管人ノ使役ヲ受ケル所ノモノハ其數平均千五百人ニ下
 ラス然シテ此囚徒ハ或ハ埠頭ノ建築道路ノ修繕等ニ使役シ或ハカレ

アーリー及ヒトルトハルレー等ノ鹽礦ヨリ鹽ヲ聚貯運送スルノ使
 役ニ供シ或ハ鍊礦ノ工業或ハ泥工或ハ私立ノ金屬鑄解所等ノ使役ニ
 充ツ又其大約六百人ハ之ヲ地面所有主ノ使役ニ供ス然シテ此囚徒ハ
 大約グロセト州ニアル耕作地中ノ地主ニ於テ之ヲ使役ス又該州中
 グスカン沼ト稱スル廣大ナル濕地場ノ如キハ之ヲ開墾耕植シ得可キ
 ノ見込アルヲ以テ其開墾ノ事業ニ便益セシメ爲メ政府ヨリ其開墾ノ保
 管人ニ或ル定數ノ囚徒ヲ供シ然シテ其場所ニ於テハ己ニ開墾地ニ近
 ク囚徒ノ寢憩所及ヒ看守所等ニ充ツヘキ家屋ノ建築ニ着手セリ此他
 カルテニア島中ニ廣大ナル濕地場ノ開墾ニ於テモ亦尙他ノ場所ヲ開
 墾スルノ便益ニ充ツルヲメ又政府ヨリ更ニ五百人ノ囚徒ヲ増加シ然
 シテ此囚徒ニ供スヘキ懲役場ノ如キハ己ニ檢査ノ上之ヲ設立ス可
 キ相當ノ場所ヲ撰メリ

凡ソ四千人以上ノ囚徒ヲシテ日々之ヲ有益ノ工業ニ使役スルコトハ己ニ前條ニ記載セシ所ヲ以テ明瞭ナルヘシ然レ而シテ如是之ヲ使役スルキハ則大ニ囚徒ノ惡心ヲ翻シ且怠惰ニ因リ屬々誘惑セラル、惡事ヲ圖ラントスルノ意ヲ制止スルノミナラス漸次將來ノ隆盛ヲ顧ミ煩ル其使役ニ慣レテ自然勞役ヲ愛スルニ至ルヘシ又其身體ノ如キモ獄外驅役ノ囚徒ハ常ニ廣野ニ勞スルヲ以テ獄内禁錮ノ囚徒ニ比スレハ一層強壯ナリ加之其便益ヨリ生セシ賃銀ハ出獄ノトキニ於テ其定額ヲ囚徒ノ所得ニ充テ其半額ハ之ヲ官ニ追徴シ其一部ヲ以テ囚徒ノ養育保護等ノ費用ニ償補スル等ノ便益アリ又此等ノ囚徒ハ各獄内ノ囚徒中ヨリ其行狀正シク且工業ヲ勉勵シ己ニ其刑期ノ半ヲ終リシ者ヲ拔擢セシテ以テ頗ル教化シテ能ク其身ヲ修メ口論爭鬪等ヲ起スコト甚ク稀レナリ

然レモ此等囚徒ノ便益ヨリシテ其尤モ大ナル利益ヲ得ルハ專ラ之ヲ獎勵スルニアリ蓋シ之ヲ獎勵シテ國內ノ未タ嘗テ開墾ニ着手セサル所ノ場所中相當ノ費用ヲ以テ荒野荒産ノ場所ヲ開墾セシムルハ大ニ國家ノ經濟ヲ良クシ繁榮ヲ益スヲ以テナリ
 當時ノ刑法ニ於テハ其刑ノ種類ニ因リ獄外ニ使役スルヲ得サル囚徒少カラサルヲ以テ爲メニ獄外ノ工業ハ之ヲ盛大ニスルノ大ナル妨礙アリ然レモ己ニ議事院へ進達セシ所ノ新刑法ニ至ツテハ其刑ノ種類ニ因リ各々更ニ規則ヲ設ケシテ以テ囚徒ハ公私ヲ論セス之ヲ國家ノ有益ナル事業ニ便益シ一層之ヲ盛大ニスルノ時期ヲ得ルコト蓋シ近キニアル可ク然ル時ハ即チ其開手ノ意ナキニアラスト云ヘモ當時ノ刑法ニ設ケタル妨礙ニ因リ即今未ダ着手シ能ハサル所ノ事業モ亦以テ成就スルニ至ルヘシ

又我國ニ於テハ囚徒上ノ景狀ヲシテ一層之ヲ改進セントスル目的ヲ以テ新タニ一ツノ教育場ヲ設ケ之ヲ囚獄官吏ニ補ス可キ者ニ其職務ヲ教授スルノ場所トシ然シテ之レニ我兵卒中ヨリ其行狀ノ正シクシテ且農業鞋履ノ製造裁縫彫刻及ヒ書記官等ニ補スル爲メ其職務ニ緊要ナル諸般ノ事務ヲ學ハシメ就中農業懲役場ノ事務ノ如キハ特別ニ之ヲ學ハシム故ニ囚獄上ニ於テハ此教育場ヨリシテ大ニ其改進ノ時期ヲ進ノ且獄制モ亦從テ其宜シキ方法ヲ得ルニ至ルヲ敢テ疑フ處ニアラサルヘシ

○第六 和蘭囚獄上現今ノ景況

倫頓府開筵ノ万国囚獄公會ニ派出セシニीडルラント
政府ノ委員官イム、イス、ポールス氏述フ

夫レ我國囚獄上ノ報告タルヤ貴命ノ如ク時期己ニ日下ニ逼リ充分之

テ整フルニ違ナシト雖モ余ハ勤メテ其現狀ヨリシテ倫頓府公會以來改進セシ處ノ概略ヲ報告セントス然シテ其改進セシ功效ノ如キハ未ク以テ立法上ニ顯然タラスト云ヘヒ蓋シ緊要ナルモノニシテ全ク倫頓府公會ノ致ス處トナス然レモ其改進セシ處ノモノハ全ク數年ノ間施行セシ處ノ者ニ異ナルヲ以テ嘗テ如是改進ノ行ハレシコトアルニ非サレハ恐クハ其改進セシモノ、便益ヲ了解シ能ハサル可シ凡ソ囚獄上ノ景狀ハ專ラ其國ニ施行スル處ノ刑法ニ相關スルモノニシテ抑々刑罰ヲ科スル所以ノ本意ハ獨リ全社會若クハ社會中ノ一個ヲ害シタル罪惡ヲ贖フタメノミナラズ又其惡ヲ懲ラシ善ヲ勸ムル爲メナリ故ニ刑法ハ惡ヲ懲シ善ヲ勸ムルタメニ之ヲ設クルモノニシテ若シ其刑罰ノ整ヒ備ラサルハ何チ以テカ其惡ヲ懲ラシ善ヲ勸ムルニ在ラノヤ熟々當時ノ刑法ヲ顧ルニ尙ホ未ク備ハラサル處少カラ

ス嘗テ一千八百十年中暫時我國ノ佛蘭西第一帝國へ附屬セシ際ニ當
 リ該國ニ施行スル所ノ法律モ亦我國ニ行ハレ國內ノ舊法ハ總テ撥弄
 ニ屬セリ然レニ獨リ刑法ノ外他ノ法律ハ之ヲ改訂セス以テ國內ニ施
 行セリ示來刑法ハ新タニ之ヲ設ケン爲メ數次其編纂ヲ圖リシト雖モ
 漸次遷延ニ及ヒ今日ニ於テモ尙全ク其編纂ノ會議ヲ解散セス但シ其
 編纂ヲ落成シテ之ヲ刊行ニ付スルノ時期ハ數月ヲ出ケル可シ然シテ
 輿論普ク此刑法ノ採用ヲ希望スト云ヘニ諸官衙ヲ經由シテ全ク法律ノ
 大成ニ至ル迄ハ又數月ヲ費スヘシ然リ而シテ佛蘭西法律ノ我國ニ於
 ケル尙ホ未ク存スルモノアリト雖モ漸次之ヲ改正シ就中刑法ノ如キ
 ハ大ニ之ヲ改正セシテ以テ蓋シ如是改正ヨリシテ獄制モ亦一層善良
 ニ至ル可シ且ツ其時期モ近キニアルヘキト余ノ期望スル所ニシテ且
 深ク信スル所ナリ

佛蘭西刑法ニ於テハ先ツ罪惡ヲ分ツテ之ヲ三種トシ從テ其罪ニ科スヘ
 キ刑罰モ亦之ヲ三種ニ分テリ然シテ(第一)重罪ハ死刑無期ノ徒刑流刑
 有期ノ徒刑拘留ノ刑枷囚ノ刑追放ノ刑及ヒ公權剝奪ノ刑等ヲ以テ之
 ヲ罰ス蓋シ此等ノ刑ハ總テ加辱ノ刑ニ係リ乃チ犯人ニハ加辱ノ標榜
 ヲ附シ且民權政權等ノ全部ヲ剝奪シ加之一二ノ刑ニ於テハ更ニ擬死
 ノ刑又ハ財産ノ全部ヲ沒收スルノ刑等ヲ附加スル者トス又(第二)輕罪
 ハ感化場ニ禁獄スルノ刑有期ノ時間或ハ民權又ハ政權等ヲ行フヲ禁
 スルノ刑及罰金ノ刑等ヲ以テ之レ罰シ(第三)警察違戾罪ハ警察上ノ禁
 獄及罰金等ノ刑ヲ以テ之ヲ罰スルモノトス然リ而シテ此等三種ノ刑
 ハ近來ニ至ル迄我國ニ存セシト云ヘニ第一種ノ刑ノ如キハ殆ソ
 ト全ク地ヲ拂ヒ死刑徒刑枷囚ノ刑公權剝奪ノ刑准死ノ刑財産ノ全部
 ヲ沒收スルノ刑等ハ已ニ之ヲ廢止シ流刑及ヒ追放ノ刑等モ亦有名無

實ニ屬セリ故ニ第一種ノ刑中尙存スル處ノ者ハ獨リ拘留ノ刑ノミニシテ警察違反罪ノ外今日我國ニ於テハ施行スル處ノ刑ハ僅カニ拘留ノ刑感化場ニ禁獄スルノ刑有期ノ時間一二民權又ハ政權等ヲ行フテ禁スルノ刑及ヒ罰金ノ刑等ノ四種ニ過キス加之拘留及禁獄ノ兩刑間ニ設ケタル區別ノ如キモ亦漸次廢棄ニ屬セントス蓋シ此兩刑ノ間ニ設ケシ區別ハ其異同差少ナラス拘留ノ刑ノ如キハ一層苦難ノ刑ニシテ其犯人ニハ加辱ノ標榜ヲ附シ苦難ノ驅役ヲ科スルハ我國ニ於テ之レヲ使用スト云ヘト此刑ニ處セラレタル囚徒ハ一層苦難ナル驅役ヲ受ケシノ其驅役ヨリ生スル利益ノ分與額モ亦隨テ少ク且一層嚴重ナル制規ヲ以テ之ヲ待遇スルモノトス然レトモ我國ニ於テ實際上此兩刑ノ間ニ施行スル處ノ區別ニ至テハ其異同甚ク微少ニシテ且ツ加辱ノ標榜ノ如キハ總テ之ヲ廢スヘキノ說漸次輿論ノ歸ヲ同フスルヲ以テ其

區別モ亦之ヲ廢止スルノ時期蓋シ近キニアルヘク拘留ノ刑モ亦廢止スルニ至ルヘシ是ニ於テカ更ラニ驅役ノ禁獄及ヒ驅役ナクシテ犯人所好ノ工業ヲ爲セシムル禁獄ノ二種ヲ設クルノ時期ヲ得然シテ驅役ヲキ禁獄ハ公罪ノ輕モ科ノ如キ通常ノ重罪ト同視スヘカラサル種類ノ罪ニ用フルニ至ル可シ

夫ノ我國ノ刑法ハ漸次其刑罰ヲ廢棄シ已ニ如是ノ簡易ナルニ至リシトイヘト獨囚獄ノ施行ニ至テハ益々盛大ニ趣キ然シテ該刑ヲ施行セシハ一千八百五十一年ニ於テアムステルダムノ獨囚獄舎ヲ開創シシヲ以テ其始メトス然レトモ此獄舎ノ如キハ偏ヘニ該制ノ如何ヲ經驗スル爲メニ設ケタルモノニテ且囚房ノ數モ僅カニ二百八個ニ過キサリシニ由リ其施行スル所ノ制限モ亦隨テ狹少ニシテ即チ一千八百五十年ノ法律ヲ以テ混同又ハ獨囚ノ禁獄ニ附シシハ其時ノ景狀ニ因リ

判事ノ意見ヲ以テシ或ハ犯人ノ性質ニ因リ或ハ緊要ナル時ハ裁判廳
 ノ裁判言渡ヲ以テ之ヲ定ム可キノ規則ヲ設ケ然シテ此規則ヲ施行ス
 ルハ獨リ一年以下ノ禁獄ノミニ限ルモノトシ獨囚禁獄ニ附スルノ時
 間ハ判事ノ言渡シタル混同禁獄ノ期限ノ半ヨリ多カラサルモノトス
 故ニ往時ニ於テ獨囚禁獄ノ最長期限ハ半年ヲ以テ其限トス蓋シ一年
 以下ノ混同禁獄ニハ至當ノ時期ナレハナリ然レモ該制ノ漸次盛大ニ
 趣キ隨而囚房モ亦其數ヲ増加セシヲ以テ其時期ヲ増加シ一千八百五
 十四年ニ於テハ二年以下ノ禁獄迄該制ヲ施行シ一千八百七十一年ニ
 至リテハ四年以下ノ禁獄ニ至ル迄之ヲ施行セリ故ニ當時ニ至リ獨囚
 禁獄ノ最長期限ハ二年ヲ以テ其限トシ囚房モ亦漸次増加シテ其數千
 百九十七ノ多キニ至レリ又アムステル、グムレツナト、及ヒロツトルダ
 ム等ニ於テ設クル所ノ巨大ナル獨囚獄モ亦其成就ノ日蓋シ本年申ニ

在ル可ク然シテ此獄舎ニ於テハ一千八百八ノ囚房ヲ設ケ一ハ百八十
 六ノ囚房ヲ設ケ一ハ三百四十四ノ囚房ヲ設ケヘシ此他諸種ノ制ヲ以
 テ設立セシ邑獄モ亦其數少カラス此等ノ獄舎ニ於テハ各々房數七ヨ
 リ乃至六十六迄ノ囚房ヲ設ケタリ
 蓋シ如是キハ倫頓府公會時代ノ景況ニシテ方今モ亦尙如是故ニ我獄
 制ノ尙未ク一定ノ制ニ至ラサルハ余ノ己ニ記列セシ所ヲ以テ明瞭ナ
 ル可シ然リ而シテ獨囚制ヲ施行スルハ國內ノ說殆ント合同シテ之レニ抗
 拒スルモノ甚ダ稀ニシテ且一千八百七十一年ニ於テ其時期ヲ増加セ
 シ事モ亦輿論普ク之ヲ賞讃セリト云ヘモ其施行上ニ至ツテハ尙未ク
 同種一定ノ方法ニ依ラス且其相當ノ時期ヲ定ム可キ說モ亦未ク一ニ
 歸セス又輿論中ニハシラフトン制ヲ主張スルモノモ其數甚ク多ク
 ノ此等ノ者ノ說ニ於テハ獨囚制ヲ短期ノ禁獄ニ施行スルハ從テ之ヲ

拒ムト云へヒ勤メテ之カ施行ヲ制限セントス又クラフトン制ノアイ
 ルランドニ於テ大ニ其効功アリシヲハ其証跡明瞭ニシテ且高位貴官
 ノ説ハ多ク該制ニアリシヲ以テ其影響ヲ受ケタメニ疑心ヲ懷キシモ
 ノモ亦少カラズ又甚シキニ至テハ倫頓府公會ニ於テ輿論ノ該制ニ歸
 セシヲ相シスシテ其數ヲ益シ英國及ヒ亞米利加人等ノ多クハ其說該
 制ニ歸セシヲ以テ獨囚制ハタメニ地ヲ拂フニ至ルヘキノ恐レテ懷キ
 シモノアリ然レモ國內輿論ノ向フ所ニ於テハ如是恐レナキノミナラ
 ス反テ該公會ヨリ一層輿論ヲシテ獨囚制ニ歸セシメント云フヘシ蓋
 シ該公會解散ノ後法官會議即チ法律改正ノタメ法學士ノ相集會スル
 例年會ニ於テ獄制ノ良否ノ商議スル爲メ速カニ其會議ヲ開キ數日討
 論講究ノ上左ノ五ヶ條ノ議ヲ決定シタルハナリ

一 獨囚ノ禁獄ハ特ニ定メタル際ノ外三年ノ間之ヲ科スルヲ得ヘ

シ

二 獨囚ノ禁獄ハ囚徒ノ自ラ諾スルニアラサレハ三年以上ノ時間
 之ヲ科スヘカラス

三 長期ノ刑ト雖モクラフトン制ヲ施行スヘカラス

四 如是際ニ於テハ法ニ適シタル比例ニ基キ囚徒ヲ最長期限ノ獨
 囚禁獄ニ附シ然ル後ハ混同ノ禁獄ニ送ルヘシ

五 行狀ノ正シキ囚徒ハ制限試免ヲ以テ之ヲ放免スヘシ

此等ノ決議ハ其一ヶ條ノ外率テ輿論ノ大ニ歸セシ所ニシテ就中第一
 及ヒ第四ノ如キハ殆ント普ク之ニ歸セシト雖モ獨リ第三ニ至ツテハ
 其論駁極メテ獨リ之ニ歸セシ輿論モ亦他ニ比スレハ其數甚タ少ナク
 其議論中ニ於テハ屢々倫頓府公會ノ討論ヲ引テ之ヲ論駁セリ蓋シ該
 公會ニ於テ頗ル賞讃ヲ得タルクラフトン制ノ良制ナルヲハ獨囚制ヲ主

張スル輿論ニ於テモ大ニ其有益ヲ了認セシヲ以テ獨リ長期ノ刑ニ於テハ其効益ノ如何ヲ論セス之ヲ施行シ得ヘキヲ明瞭ナリ然リ而シテ此兩制ヲ取捨スルノ百說ハ嘗テ該制ノ發起人ワル、チールタル、クラフトン氏ノ言ニ蓋シ該制ハ獨リ之ヲ五年以上ノ刑ニノミニ施行スヘク若シ三年若シクハ四年ノ刑ニ施行スルキハ其時期甚ク短クシテ其効益ヲ得ルコト恐ラクハ難カルヘキノ語アルヲ以テ其論說畧ホ定マリ然シテ該制ハ感化場ノ禁獄ニ處セラレタル囚徒ニ施行スヘカラサルノ決議ニ至リシヲ以テ終ニ此禁獄其徒ハ總テ之ヲ獨囚制ニ附スヘキ輿論ノ決議トナリ然シテ三年迄ハ之ヲ施行スヘキ議ヲ決定セリ猶是カ獨リ拘留ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ就テ何ナル制ヲ施行ス可キノ一議未ダ決セサルヲ以テ又該制ヲ此囚徒ニ施行ス可キノ說起リシトイヘキ輿論ヲ以テ此囚徒モ亦之ヲ獨囚制ノ禁獄ニ附ス可ク然レモ囚徒ノ

自ラ諾スルニアラサレハ其期限ハ三年以上ニ越ユヘカラサルノ議ヲ決定セリ蓋シ此決議ヲ以テ見レハ拘留ノ刑ヲ廢シ更ニ感化場ノ禁獄ト異ナル一方ノ法ヲ設クルニ至ルヘキノ益々明瞭ナリ
蓋シ此等ノ決議ハ全ク會議ノ輿論ニシテ散テ公許ヲ經タルモノニアラスト雖モ我司法卿ニ於テモ亦此等ノ決議ニ參與セラレシヲ以テ去ル二月二十七日司法卿ヨリ獨囚禁獄ヲ施行スルノ時期ヲ増加シ且ツ該制ノ獄舎ヲ設立スヘキノ建言ヲ立法課へ上申セラレ然シテ獨囚制ハ感化場ノ禁獄其期限六年ノ囚徒ニ至ル迄之ヲ施行シ獨囚獄ハ混同禁獄ノ半ニ越ユヘカラサルノ規則ニ照準シ三年ノ期限ヲ以テ其制ヲ施行ス可キ法律ノ草案ヲ呈上シラレタリ然レモ囚房ノ數尙未ダ充分ナラサルヲ以テ混同又ハ獨囚ノ禁獄ヲ科スルハ尙判事ノ意見ニ任スト云ヘキ此規則ヲ廢スルコト蓋シ近キニアルヘシ且該法律草案ノ商議

決定ノ上ハ獨囚制ヲ施行スル獄舎モ亦其建築ノ商議ヲ決定シ速カニ其着手ニハキリ朋僚ナリ然ルモハ則チ我諸州中ノ首タル市邑ニ於テ一ハ房數二百ヨリ乃至二百二十ノ囚房ヲ設ケ一ハ大凡三百ノ房數ヲ以テ更ニ二ヶ所ノ巨大ナル獨囚獄ヲ設立シ然シテ此獄舎ノ建築充分ナル上ハ全ク其制ヲ制限内ニ施行シ獨リ年齡若クハ身体性質等ノ景狀不適當ナルモノ、外感化場ノ禁獄ニ處セラレケル犯人ニ普ク施行スルヲ得ルニ至ルヘシ

拘留ノ刑ニ處セラレタル囚徒ハ右制限内ニアラサルヲ以テ此囚徒ニシラフトン制ヲ施行スヘキ說尙存セリト云ヘル刑法編纂會議ノ制定セシ刑法頒布ノ後ニアラサレハ至當ニ之ヲ決定スルヲ得ス然レモ立法官ニ於テ司法卿ヨリ呈上セラレシ建言ノ採用アル上ハ必ス法官會議ノ決議ノ如ク其規則ノ設ケアルヘク且判事ヲシテ普ク輕罪犯ノ囚

徒ニ獨囚制ヲ施行セシムルニ至ル可シ然レモ該建言ノ採用アルヤ否ヤニ至テハ今之ヲ前言スルヲ得ス蓋シ我政體ノ現狀ヲ視ルニ立法官ノ轉遷其常ナレハナリ然レモ余ノ見ル處ニ於テハ該建言ノ徒ラニ畫餅ニ屬セラレテ終ニハ必ス採用セラル可シトナスヲ以テ如是缺項ノ起ラサル可キハ自ラ信シテ疑ハサル所ナリ

○第七 日耳曼國囚獄論議記錄

シュレーニツク 大學校ニテ万国公法及ヒ刑法ノ大學士タル法學并ニ囚獄制規日報ノ作者フランスポオンホ
ンホルツエントルフ氏曰ク

足下往キニ万国囚獄會議ノ歸結ヲ報告シ以テ其他ヲ日耳曼囚獄事務上ニ及サントノ企望ヲ辨明セリ而シテ足下ノ并ニ余ヲ相望ミニ同意セシメントセシハ蓋シ誤ラサル所ナリ

然ルニ余ニ於テハ今完全ノ報告ヲ編制明示スルヲ以テ實ニ難スル處アリ蓋シ日耳曼ニ於テハ囚獄ノ規律ニ於ケルヤ囚獄ノ公會アリシ時ト其景況相同シキヲ甚タ多クシハナリ此故ニ余ハ其會議ノ事務ヲ記セシ書冊中ノ合成シタル知告ニ憑ラントナ足下ニ委託セサルヲ得ス然リ而シテ吾輩ノ囚人教化ノ依然トシテ進マサルノ實況ヲナスノ次第ニ二個ノ情實アルヘシトス左ノ如シ

第一 其囚獄會議ヨリ直接ノ書ヲ出セシトナキヲ以テ自然其會議モ一定ノ結局ニ達スルニ由ナキニ至テ倫敦ニ出張セサリシ人々ノ中ニハ大ニ思念ヲ興シタリ○其執行ノ事ニ細心熟慮ナル人々ナレハ輒ナ足下ト余ノ相共ニスル説ト殊ニシテマタ其進歩ノ法式ヲ定奪セシトナ勉勵セル吾輩ノ意見トハ實ニ此會議ニ行ハル、説ナリシト辨別シ以テ之ヲ輕忽ニスルヲ得ス○從來其會議ハ歐洲法學士ノ委員

中ニ委託セラレタルモ其辨論ニ至リ何レカ決定スヘキ法式ノ勝優ヲ得ルニ係ハリテハ必シモ其成果ノ如何ヲ計リ難シトセル情態アリタリ○日耳曼ニ關ハレル我カ法方ノ説ト管理セントスル辨説ニハ其會議ノ衆ノ過半ニ於テ囚獄改正良策ノ法式ト思考セルアラハ其多分ノ説ニ一致セントス

第二、我カ日耳曼刑法書ノ合成ニ於テハ完全緊要ナリト考慮セシ此囚人教化ノヲテ其改正ス可キノ良法ト同式ニセゾトスルハ甚タ難キトニシテ尽力ヲ要スル可キトナリ○此國ノ民政及ヒ刑政ハ止ムヲ得サルアレハ共ニ其規則ヲ更正確定スルアルモ獨リ此囚人教化ノヲハ同盟諸國ニ於テハ各州ノ爲ストコロニ任スル所ヲ以テ○尙且斯ル事業ヲ成功セシニ亞合衆國ノ全部ヲ總ヘ其各州各郡ノ囚獄ノ管理ヲ同一ニセントノ規律ヲ設クルヲ謀ルト相似タル課業ナルト足下ニ於テ之ヲ願ミル

其ハ其之ヲ爲スノ難キヲ知ルコト足下ニ於テハ言ヲ俟テタサルヘシ然レモ
 囚獄立法ノ方畧ヲ合同ヲ爲スヲ以テ日耳曼ノ刑法書ヲ大成セントノ
 意見ヲ預察スルニ方今此國ノ治法自然満足ニシテ今其在來ノ成法ヲ變
 更セント思フコト少シ否ラサレハ其囚獄ノ處置タルヤ突然ノ變更ヲ爲
 ント夫レ是レ試驗ヲ爲スハ敢テ真策ナラシト思フ事ノ出來シコトナラ
 總シテ其事情ヲ言ハ、萬國囚獄ノ會議ナルモノハ敢テ盛大貴重トス
 ルニ足ラサル知告ノ根源ナリト熟慮スルカ如キ異説モ更ニ有ルコトナ
 シ○當日耳曼ノ衆庶ハ合同シテ此會議ノ緊要特別ナルヲ認識セリ而
 ノ復タ此成德ナル創業者ヲ視ルコト殊ニ深シ
 到底日耳曼ニ於テハ向來何レノ時日ニカ亞卑斯山外人ヨリ此帝國ニ
 抗シテ戰爭ヲ爲スカ如キ擾亂ノタメニ此安寧ノ改革ヲ爲シ嗣ントス
 ルモ妨碍セラレ、コト行ラント余ノ歎スル處ナリ

○第八 魯西亞ノ囚獄問題ニ對シテ 魯帝國囚獄ノ新法式
 ナ謀ルノ職ニ委任セラレタル此帝國ノ懲治院委員ノ長
 官ダブリユーソルロハツブ侯曰

足下予ニ問フニ倫頓ノ會議以來魯西亞ニ於テ諸囚獄ヲ合一ニスヘキ
 新法式ヲ吾輩ノ設ル所以ノモノヲ以テス○余其查問ニ答フルニ就キ
 テハ聊カ困難トスルコトナシ○何處ニテモ立法ノ大改革ヲナスハ徐々
 ニシテ成功スルモノナリ而シテ吾輩ニ於テハ其方法設立ノ考究ニ至リ
 テ做難キコトアリ是レ全ク其商議ニ監ミ敢テ切要ノ知識ナクシテ其注
 心ヲ致スノ人物多ク殊勝ノ者少キニ由レリ倫敦ニ於テ余ニ於テ此帝
 國ノ委員ノ其懲治法改革ノ方法ヲ設立センニソノ基礎ヲ會議ニ依頼
 シタリキ余ヤ其委員ノ長ナリ○余倫敦ヨリ歸國ノ上更ニ其理事ノ業

ヲ始メタリ○其新法式ヲ始計セシ爲メ十郡ニ在ル諸囚獄ヲ檢査シ之
 レニ其懲治法改革ノ一定ス可キノ法式ヲ施シタリ其法式ヲ試シ爲
 メ此帝國議員ノ會友エム、ソールボツフ、ニ監督セシメリ是則皇帝ヨリ
 一個ノ理事官ヲ設ケテ之ニ委テタリ○此理事官タルヤ余モ亦タ其會
 友ノ一人ニシテ實ニ其職任ヲ竭クスヲ務メ居レリ○當帝國委員ノ發
 起セル懲治方ノ新法式ノ基礎ノ條款ヲ變更セルモノアルニ至リテ出
 發ノ時限迄スル司法政官ノ中ニ一個折衷管理方ヲ設立セントノ意見
 ナ以テ吾カ帝國立法ノ議員タル會友ニ之レヲ委任セルコトハナリタ
 リ○其意見タルヤ未タ商量セラレサルナリ○之レニ同說者ト抗論者
 トノ兩黨アルニ由リ何レカ此儘ニテハ改革ト云ヘルコトニハ至ラサル
 モ稍一個其改革ノ序開キニハナルヘシトス
 前件ノ如キハ魯西亞國ニ於テ方今ノ囚獄問題ニ對セル情形ナリ○別

ケテ前キニ禁錮セシ囚人等ノタメニ或ハ全ク離散セシムルモ有リ又
 一所ニ置キテ之レヲ管轄セルモ有ルヲ豫謀セントス此設立方ニ就テ
 ハ内務政官ニ於テモ吾カ囚獄ノコトニ尽力セント始計セル所有リ
 其條例規則ハ吾カ黨ノ委員ノ管理ニ商議セルコトナクシテ設ケシ所ナ
 ルモ余ノマタ思慮スルコトモ有ルニ由リテ余ハ其事ヲ擔承セヌ○余カ
 保証セル條款トハ多ク合一ナラサルコトアリト雖モ是レ亦一ツ美妙ノ
 方法ニテ切實ノ規例ナリト言サル可カラス

○第九

ニウツシーランド 大東洋ニ在ル英國 所領ノ一大島ナリ 國ノ囚獄問題ニ

對シテ 此國ノオクターゴ地内ダニール地ニアル

牢獄ノ主宰者シエームス、カルドウエル曰ク

余此植民地ニ在ル牢獄ノコトニ就キテ足下ニ其諸般ノ告知ヲ爲サント
 スルモ余ノ職務ノ之レニ難スル所アルヲ以テ余大ニ之ヲ憂慮セリ○

余ニ於テ吾カ直轄セル牢獄ノコニ關ハリテ一二ノ條款ヲ足下ニ送致セントス

該囚獄ニ於テハ能ク其勤工ノ業ヲ營ムヲ爲シリ且其費用ヲ償却セルノミナラス確實ノ利益ヲ生ヌルナリ○下件ノ計算ニテ其成果ノ非常ニ満足セル處アルヲ知ルヘキナリ○千八百七十二年ニ於テ囚人ノ工業ヨリ生セシ所得ハ三万二千四百五十五弗ナリ而シテ其諸入費ノ二万九千三百零五弗ヲ差引其残り三千百五十弗許ハ政府ノ利益ヲ爲シタリ○千八百七十三年ニ於テハ其歲入ノ結果ハ前ニ比スレハ全ク善カラザリシカトモ尙ホ七百九十弗許正味ノ利得アリタリ但シ當地ニ於テハ英國ノ通貨ヲ亞國ノ通用金ニ換ヘテ算計セシ金高ナリ囚人等ノ勤勞モ近頃マダ珍奇トセル方畧ヲ設ケ以テソレニ從事セシメタリ○其方略タルヤ囚人二十三名ノ夥伴ニ役々ヲ添ヘテ毎朝汽車

ニテ之ヲナヤルメルス港ニ送り遣り其日ノ夕刻ニハ歸來スルコトセリ○此者等ニ於テナヤルメルス港ヨリカリース灣并デボーラ灣マテノ海濱ニ沿ヒテ道路ヲ爲ルテ務ムルヲ以テ巖石ヲ打毀テ或ハ切開クカ如キ勞力ヲ爲セリ○右ダニ一シン地ヨリ斯ル遠地ニ於テ囚人ニ其有益ノ仕事ヲ始計ニ足リ今ヤ囚人等ノ成功ハナヤルメルス港ヲ起ルニ至リシハ鐵道造築ノ道ニ於テ一層ノ進歩トナルヘシ何レノ囚獄ニ於テ如斯仕事ヲ爲サシメシメテ其囚人ヲ遠地ニ送ルヲ經驗セシコト有リシヤ余レ未ダ之レヲ知ラス○此經驗ノ事ヲ施シ用ヒテ政府ニ於テ鐵道ヲ造築セシメテ、其指揮ヲ爲スノミニテ低價ニ其乘車ヲ作ルヲ得ルニ至レハ囚人戶外ノ働キニハ廣大ノ使役ナルヲ知ラン且市街城邑ニアル大道ニテ囚人ノ仕事ノ事ニ就キテ當ニウジラント委員ノ申報ヲ爲シテ趣旨モ著名ナルヘシトス○經驗セシニ因テ其事ヲ

爲ントスルニ更ニ難シトナスコナシ其交易ノタメニダニージン地ノ
 南北ニ鐵道ヲ開クニ至レハ余尙ホ他ニ廣ク計策ヲ施ス可キコ有ラン
 ト企望ス其アイボーラ及ヒカリース兩灣ノ膏腴ノ土地ト其港ヲ接續
 センタメ此道路ノ開拓ヲ落成セハ今存在セル居留地ノ便利ヲ謀ルニ
 衆庶ノ利益ヲ振興ス可キコ大ニシテ且道路ノ開クルニ隨ヒ其居留地
 モ愈弘大ニ進ムコヲ得ン○余ハ政府ノ工部ニ於テ熟慮セル趣意ノ事
 業ノ上ニ出テ、之ヲ行ハント志スカ如キハ敢テ爲サ、レトモ勞^ロ爾^ド
 ユルスキン氏ノ名言タル論述中ノ雅言英國ノ大胆者ハ恒ニ其足跡ヲ
 荒蕪ノ地ニ侵入スルコ多クシテ且ツ止ムコナシ而シテ英人ノ本質タル
 所以ノ功用ヲルヤ能ク其荒地ヲ變シテ繁榮開化ノ域トナスト徒^タ此事
 ナ行ハント欲スルノミ
 倫頓ニ於テ前キノ會議ノ時囚獄ノ官吏ニ一種特別ナル專業ヲ教訓セ

ントノ問題アリキ余ノ經驗ヲ反顧スルニ正ニ其意見ヲ斷然行ハント
 スルニ至タリ○牢獄ナルモノハ疾病ヲ受ケシ患者ヲ病院ニ入レテ療
 養スルト同シ理ナルヘシ實ニ如此ノ一法式ヲ設立スルニ當リテハ各
 其課業ヲ專ラニスル官吏ヲ撰マサルヘカラス乃チ法學士說教者醫師
 機械者商法人工藝人等ノ如キ課業ヲ熟練センタメ各自ニ其得意トセ
 ル所ヲ求メテ專ラ其業ニ慣フト比シク囚獄ノ官吏モ其獄事ニ關セル
 專業ノ教訓ヲ求メサル可カラス○其官吏ヲ教導センタメ其專業習慣
 ノ學校ヲ設置シ其專業ノ級ニ從ヒテ囚獄ノ管理ヲナサシメタルヘカ
 ラス凡ソ如斯セハ囚人教化ノ具備ハリテ其條件モ漸次ニ大成セン且
 之ヲ行フニ於テハ囚人ノ教化ヲ合一ニ爲ントノ方畧ヲ求メスト雖^モ
 豈得ヘカラテランヤ而シテ囚人刑罪ノ方法ニ於ケル一種専門ノ課業タ
 ルニ至レハ即チ専門ノ學業トナリ合一トナリテ大成スルコヲ得ヘシ

トス

此越意ニ就キテ復々他ニ余ヲ感動セシムル肝要切實ノ意見トス可キモノアリ○夫レ官吏ノ屬員小給ノ輩タルヤ終ニ却テ政府ノ冗費トナルヲ有リ又獄吏ノ其職務ニ間斷ナク注意シテ敏捷ト温厚ナルヲ要スヘキハ他ノ事務ト同日ノ論ニ非ストス余歳々經驗ノ餘リ此二説ノ胸中ニ存スルヲ甚シ宜ナル哉衣食ヲ給センタメ小給ノ官ニ就キ以テ其身ヲ其微償ノ地位ニ置キ安スルカ如キ人物ニ才徳ナト云ヘルヲハ無キ筈ノヲナリトス○又方今其時々在職官吏ノタメニ預備ノ法ヲ立テ漸次ニ給分ノ加増ヲ爲ス可ク且勤仕艱苦ノ年數ノ多少ニ依リテ其老ノ餘年ニ向ヒ相當ノ供給ヲ爲ソタメ蓄積スルモノ有ラシメタキナリ

○第十 澳太利洲内維多利亞ノ囚獄ノ問題ニ對シテ 同州

メルボルン地ニ於テダーウィットブレイル氏曰ク

下件ニ記セル簡短ノ文言ハ澳太利州維多利亞ニ於テ近頃良法ヲ制成シ且實驗ノ管理方ヲ設置シテ囚獄教化ノ一法式ヲ施行セシユリ同地ニ在ル英國ノ植民地ニテハ罪惡ノモノ實ニ減少セント悦フ可キ知告ヲ先般當書記官ニ宛テ送致セリ是レ則チ其書翰中ニ記載セル處ノ文言ナリ但其書翰中ニハ他ノ趣旨意見ヲ記シテ囚獄ニ就テノ演述ナルヤ非常ニ簡畧ナリシハ眞ニ意外ノヲナレト維多利亞ニ於テ施行セル囚獄教化ノ法式ハブレイル氏ノ先導ニテ之レカ法方ヲ教導セルモノニシテクロフトン法式ト名ク可キ編制方ナリ○其法式ヲ行フヲ僅カニ三四年ナルモ其良法ノ成功タルハ此簡畧ノ文言ヲ以テモ明瞭ニシテ既ニ卓越ノモノナリト着眼セラル、モノト云

フヘシ

余今般因獄検査總官ノ事ト昨年中ノ囚獄改新ノ事トノ報告ヲ進達ス
 ○當維多利亞ニ於テハ人口増々増植セルモ兇惡ノモノハ疾ク減少セ
 シ事實ナレハ喜ヒニ堪ヘサル處ナリ○吾カ政府モ亦恒ニ其法式ノ進
 歩セルト牢舎囚獄ノ管理方ニ拘ハリテ採用ナル可キ報告ノ有リテ
 望メリ吾カ囚獄ハ唯ベントリウチノ獄アルノミ而シテ人口ノ減却セル
 ニ從ヒ其獄舎モ過大ナルニ至レリ總シテ前件ハ吾輩ニ於テ甚ク愉快
 ナリ且神ニ事ヘテ人間ノ爲メニセル事業ヲ此上經驗スルニ於テ求メ
 サル意外ノ善果ヲ致シナハ足下ノ満足ヲナスヤ疑フ容ル、ナシ

大 築 拙 藏 譯

○第十一 印度獄舎ノ景况

馬塔刺州ニ於テサババシ、アイヤ氏ノ意見

東印度所領地ノ獄舎獄式及ヒ獄舎規則ニ干係スル許多ノ
 告知ヲ載セタル書類ハ既ニ去秋アイヤ氏フリヂス、ソノ、スライ、スライ、スヨリ英國共學會
アソシエーションニ呈送セリ而シテ今次ニ掲ケル所ノモノハ輒チ此書類ヨ
 リ抜抄スルモノトス

凡ソ獄舎善制ノ一事ハ一般ノ人民ニ對シ殊ニ獄舎管係ノ人民ニ取テ
 頗ル肝要ノモノト爲スナリ我獄舎ヲシテ整美良善ニ至ラシムルヲ怠
 慢スルニ實ニ宗教ニ反シ仁慈ニ戾ルノ大罪タリ人ニ此道ニ注意スル
 ハ余輩視テ虚徳トナサス必ス今日竭クス可キノ本務トナスナリ若シ
 夫レ余輩此道ニ注意シ人ヲ保管スルキハ必ス亦其人ニ對シテ尽スヘ
 キノ責任アラサルヲ得ス故ニ今日各獄ノ式ヲ按スルニ到底其質刑罰
ヘチ、レ
トホ、レ、ト、レト感化トノ二理ニ歸着ス

印度地方ニ在ル獄舎ノ通計一百八十七一千八百七十二年入獄ノ囚人

總計十八万三千四百三人ニシテ其獄費三百三十一万三千四百九リユ
 一印度地方即チ英貨ニシテ三十三万千三百四十磅トス此他幾多ノ
 小獄アリテ何レモ糺彈中ノ囚人及ヒ一月以内禁錮ノ囚人ヲ入レ置ク
 所トス余レ未タ英國全領ノ各獄ヲ遍視實驗セシニ非ス知ル所ハ僅々
 一二ノ獄式ニ過サルナリ余曾テ馬塔刺州及ヒミツソリー州ノ内ノ數
 獄ヲ實見セリ元來我カ管係スル處ハ市街ノ事ヨリ多ク地方ノ事務ニ
 アリ然レモ我カ曾テ目撃スル所ノ一事ニテ便チ全獄ニ干涉スルモノ
 ナ貴下ニ證明スルコト左ノ如シ
 余レ先ツ貴下ニ對シテ印度地方獄舍囚人ノ景况ヲ説カントス夫レ印
 度人苛刻ノ禁錮ニ處セラル、ヤ否乍チ審官ノ目前ニ在ルモ既ニ手械
 チ受ケ繩鎖ニ繋カレ獄服ヲ與ヘテレテ己レソ入ル可キ獄舍ニ送ラレ
 獄吏ニ引渡サル、ナリ而シテ其獄舍ハ高牆ヲ周ラシタル家屋ニシテ朝

夕囚人ヲ檢閱スル廣地ヲ有シ幾多ノ獄室アリテ夜間囚人五六十名若
 シクハ七十名ヲ合集シ病院ヲ設ケ獄舍ニ接スル二三ノ房舍アリテ囚
 人此内ニ在テ勤工ヲ營ムノ便ニシ又二三ノ閤室一ノ庖廚ヲ附備セリ
 獄吏ノ家屋ハ大抵獄ノ入口ニ在リテ全獄統轄ノ權皆獄監ノ手中ニ歸
 シ獄監ハ此地方在留ノ西洋醫ニシテ此任ニ當ルモノハ百名ノ内九十
 九名迄トス而シテ此獄監ハ月々ノ給料ヲ受取リ恒ニ獄舍ノ近隣ニ居住
 シテ本務ノ外他ニ亦種々ノ職掌アリ即チ此地方ノ病院ヲ管轄シ兼而
 全地方ノ檢官ニシテ病客ノ死後ヲ檢査ス又此地方會社ノ社員ニシテ
 種痘局ノ主宰寒暖ノ書記ヲ掌トリ又總テ近郷貴族ノ治療ヲ私營シ其
 他住スル所ノ事業抄ナカラストス實ニ此任ノ多端繁劇ナルコト以テ知
 ル可キナリ然レハ則チ其人何種有カ勉強スルモ獄舍ノ爲メ竭クス所
 ノ時間毎朝半時間多クシテ一時間ニ過ク可カラズ此時間内ハ監督己

レノ前ニ來ル書類ニ押印シ病院ヲ巡查シ人々ノ安否ヲ尋問スルノ時
 間トス故ニ獄内ノ責任義務ハ全ク屬官獄吏ノ手ニ落チサルヲ得ス夫
 レ此屬官ハ日々四磅十「シルリンク」ヨリ七磅十「シルリンク」迄ノ給料ヲ
 取り而シ此吏ハ歐洲歩隊ノ歸養吏ヨリ撰舉スルモノニシテ大抵老輩
 無學ノ徒率チ酒ヲ嗜マサル者ナシ此ノ如キ輩ニ至リテハ豈ニ能ク仁
 義道德ノ大理ヲ知ルノ理アラシヤ又此獄吏ノ屬官ハ一月ノ給料僅ニ
 三十「シルリンク」ヨリ五十「シルリンク」ヲ得ルモノニシテ或ハ聊カ英語
 ニ通シ或ハ全ク通セサルノ印度人ヨリ撰舉シ他ハ悉ク一月ノ給料十
 「シルリンク」十四「シルリンク」ヲ得ル門監ヲ以テス「囚人獄内ニ來ルヤ直
 チニ工業ニ就キ牆外ニ出ルモアリ出テサルモアリ而シテ牆外ニ出ルノ
 業ハ公路往還ニ在テ道路ヲ修繕シ朝七時ニ出テ、夕四時ニ歸獄ス五
 時半ニ至テ同類五六十人ト共ニ暗黒ノ獄室ニ錠鎖セラレ爰ニ十二時

間休憩シテ後チ再ヒ獄ヲ放タル、ナリ」此室内ニハ謀殺強賊農夫ノ
 輩雜集シ農夫ハ多分騷擾ヲ醸シ及ヒ民安チ害シタル罪人ニシテ其他
 百般ノ罪人雜居ス中ニハ狂客不逞ノ徒アリテ自ラ勇敢ニ誇リ衆ヲ集
 メテ暴舉逃亡ノ術ヲ談話ス此等ハ皆犯罪ノ基ヲ挑發シ聽シモノヲシ
 テ膽ヲ大ニシ法律ヲ輕蔑シ終ニ生涯ヲ誤テ魔鬼ノ界ニ誘導スルノ初
 歩トス「甚シキニ至テハ一室内ニ老少各種ノ婦女雜居シテ之ヲ守ルノ
 獄吏女ニ非ス」男ヲ使役ス以上ノ如キハ實ニ貴下ノ耳目ヲ驚歎悚
 然タラシメサランヤ又此無數ノ人民良善ノ生ヲ得ル能ハサル苦界ニ
 墜チテ斯ル生ヲ終ルノ段ニ至テハ抑々亦歎ス可キニ非ラスヤ獄内ニ
 ハ玩具ナシ詩書ナシ管我カ面ヲ凝眸スルノ事物ナルノミ然レモ此等
 ノ弊ハ必ス此ノ如キ獄ニ免レ難キ事件トス今爰ニ印度獄舎ノ數弊ヲ
 概論スルヲ左ノ如シ

第一獄内需用ノ缺乏 獄内ノ各室ハ夜間六十名若シハ七十名ヲ入ル可シ互ニ相接シテ地上ニ寢臥ス是レ唯囚人ノ健康ヲ害スルノミナラス大ニ品行ヲ紊シ體格ヲ破ルノ大害タルコト毫モ疑フ可ラス人々能ク知ル所トス「印度政府ニ於テ此ノ風ヲ改メントスルノ意既ニ久シト雖其最モ難ノスル處ハ巨万ノ入費ヲ厭フニアリ然レモ此說元ヨリ取ルニ足ラス蓋シ一國ノ稅ヲ徵シテ之ヲ有益ノ用途ニ散スルニ至テハ天下何人モ之ヲ非トスルモノナカルヘシ然ルニ印度人ハ此理ヲ察セズ政府賦稅ヲ費ステ痛ムニ非ラスト雖モ唯無益ニ散スルトノミ思フテ之ヲ悲ムコトナリ」又此習慣ヲ改メントスルノ小碍ハ印度人却テ同襟同臥ノ風ヲ好ムニアリ夫英國政府之ヲ印度人ノ情トシテ聽スモ此民ヲ永ク矇昧無智ノ民タラシムルヲ欲スルニ非シハ之ヲ其他ニ措テ政府必理アリト謂フ可カラス」又罪人ノ獄舍ニ平民ノ負債主ヲ禁

銅スルカ如キハ太々情理ヲ失ス印度ノ獄舍皆然ラサルハナシ」一獄ニ男女ヲ雜集シテ女囚ヲ男ニテ監守スルハ是亦大害トナス所ニシテ印度ノ獄舍率テ然リ」凡獄舍ハ其廊内ニ徒刑場ヲ建築シ需用百般ノ器械ヲ具ヘ學室教房ヲ設ク加之各種ノ田畑ヲ模造シテ人造ノ肥糞ヲ制スルノ術等耕耘百藝ヲ教導スルニ在リ印度ハ元來購ハスシテ地ヲ得ルニ便ナリ故ニ農業ヲ教フルヲ以テ就中肝要トス我等獄表ヲ見ルニ獄ニ在ルモノ農夫既ニ三分ノ二ニ居リ因テ此事ヲ行フモ必ス無用ノ費ニ涉ル可カラス其他若シ囚人放免ノ時既ニ獄中ニ在テ金ヲ得金ヲ貯フルノ道ヲ教ヘシル、キハ無量ノ教化ヲ助ケ莫大ノ利益ト謂フヘキナリ

第二獄舍結構ノ缺乏 凡ソ各獄ハ給俸十分ニシテ有功アリ都督ニ屬シ而シテ此都督ハ獄舍所在ノ地ニ居住シテ自其關カル所ニ時間ヲ費

シ能ク勉強注意スルモノニ非ルヲ得ス此任ニ當ルモノハ囚人ノ進善
 感化及ヒ品行修身ノ教育等悉ク己レノ責任トナサ、ルヲ得ス又相當
 ノ屬官ヲ備使シ懲役各技ノ教師監督無カル可カラス其他注意シテ教
 師ヲ撰舉シ教師ノ任ハ時トシテ囚人ノ品行禮拜ノ道ヲ教授ス
 第三修身ノ教訓ナキハ亦獄舎ノ大害トスル所ナリ印度ノ諺ニ曰ク一
 夕獄ニ宿ルルハ無辜ノ民忽チ惡人トナルニ足レリト蓋シ印度獄中ノ
 景况實ニ見ルニ忍ヒサルアリ是全ク教育宗教ノ教訓ナキ所以ナリ此
 ニツノモノハ惡ヲ善ニ復スノ道タルヲ古來英國ニシロフトン氏ノ獄
 制ヲ用ヒタルニ因ツテ明瞭タリ今從令ヒ少シク變スル所アルモ何故
 此獄制ノ此地方ニ施サ、ルヤ余カ敢テ解セサル所トス
 第四有益ノ勤工教導ノ欠乏 現今ノ獄制ニ於テ深ク獄舎懲役ノ事ヲ
 察スルニ必定勞役ニ因テ若干ノ獄費ヲ減シ且ツ囚人後來ノ利益若干

ナルヲ考フルニ出ルヤ疑ヒナシ囚人ニ巖石ヲ碎キ道路ヲ繕ハシムル
 カ如キニ至テハ利益果ノ抄シ囚人ハ日出ヨリ日没ニ至ル迄一ノ規律
 ナク獄吏ノ鞭撻ヲ受ケ鉄鎖ニ繋カレテ終日勞役ス此勞役ノ仕方ハ唯
 利ヲ加フルノ一途ニ過キス懲役ハ必ス有益ノ道ヲ察シテ以テ教フル
 ニアリ囚人ヲシテ勞役ヲ受ケシムルモ到底其身ノダメージニシテ勉メテ
 働ケハ則チ早ク自由ノ身トナルヲ能ク知ラシメサル可カラス「クロ
 フトン氏ノ獄制ハ最初獄舎ヲ類別シ監督ヲ置キ諸器械ヲ備ヘ教育ノ
 道ヲ開キ遂ニ以テ整美ヲ尽クシ施行セラレタルナリ我カ獄舎モ最早
 之ト比較シテ敢テ耻サルニ至ル可シ必ス現今ノ如キモノニ非ルヲチ
 期ス

第五若輩ノ犯人ニ就テ最モ非トス可キ怠慢 此事實ハ各報中既ニ其
 實證判然タリ現今童兒ヲ處スルニ判事感化場ナキ片ハ多分笞杖ノ刑

チ以テス、鞭杖ヲ用ヒテ此刑ヲ加フルハ刑過レハ乍チ犯人前罪ヲ忘却ス、故ニ感化場ハ各管轄地方ニ必ス一二所ヲ設ケサル可カラス、而シテ童兒處刑ヲ受クル後ハ直ニ其場ニ送リテ教育ヲ受ケシム可シ、國法宜シク茲ニ改革ナカルヘカラス、又判事ハ永時間禁錮ノ少年輩ヲ此法ニ行フノ權ナカル可カラズ、實ニ此法ニ改ムル時ハ貧人流民及ヒ罪人ヲ教化シテ善心ニ復スルコト亦量ル可カラス。

以上枚舉スル件々ハ印度ノ獄舎管理ノ方法ニ於テ最モ甚シキ欠典トス、而シテ貴下ニ於テモ亦敢テ之ヲ回復スル能ハサルニアラス、善制ニ改ムルノ易キヲ察スヘシ、余レ先キニ印度ニ於テ無益ニ若干ノ獄費ヲ散シ、此獄費ヲ有益ニ散スル時ハ若干ノ成果ヲ生スル等細カニ獄表ニ作テ貴下ニ呈セントセシカ、頗ル浩煩ニ涉ルヲ恐テ遂ニ果サス」石シ夫レ獄制ヲ改革シテ嚴ニ行フ時ハ國益實ニ量ルヘカラス、卑賤ノ民間化進

ニ赴クハ國家最大ノ利益ト云フ可キナリ

○第十二 西班牙國獄舎制規ノ景况

西班牙國ノ法學師ドンペードロ、アルミノゴレ、コルチット氏ノ意見

此人ハ著名ノ法學師ニシテ近頃懲治學ト題シタル一書ヲ公行セリ、此書ハ文明國ニテ刊行セル懲治ノ疑件ヲ論シ、而シテ一千八百七十二年英國倫敦ノ万国懲治公會ノ成果トシテ著シタル數書ノ一ナリ、又此書ハ殊ニ罪犯再犯ノ事ヲ論シ、クテリ、而シテ再犯ノ原因ヲ論スル第二編ニハ同氏西班牙國懲治ノ景况ヲ批評シ、人一度罪ヲ犯シ法律ノ處刑ヲ受ケテ後、チ再犯スルハ全ク獄舎ノ制規ニ出ルコトノ疑ナキヲ譯シ、タリ、次ニ舉ルモノハ則チ此第二編中一二條ノ反譯ニシテ現

今西班牙國獄舎ノ制規ヲ論スルモノナリ

凡ソ囚人放免ヲ受テ後チ再犯ノ罪チ累スルモハ其責誰レニ歸ス可キ
 ヤ人民獄制若シハ囚人ノ内河レニ多ク歸ス可キヤ夫レ此疑問アルモ
 ハ則チ今日西班牙國ニ於テ獄舎ト稱スル如キ囚人チ空シク光陰ヲ
 送ラシムル獄制ノ宜シカラサルニ多ク歸スルヲ判然タリ然リ而シテ
 制良善ニ非ルト我カ懲治ノ宜シカラサルト此等ハ悉ク刑法第二篇ニ
 就テ今爰ニ論スル所トス夫レ獄内ニ在テ囚人チ殺傷シ獄吏チ毆撃シ
 逃亡チ企テ其他屢々此ノ如キ殘虐ノ所爲アルハハレニカ、バルセリナ
 タラコナ、及ヒサレトナ等其他ノ各獄ニ於テ曾テ珍事トスルヲナシ此
 等ノ弊害ハ何ニ因ルヤ必竟守衛チ等閑ニシ外人ト接スルヲ准ルシ又
 獄制都督等ノ如キモノヲ置カサルニ非サランヤ然レハ則チ此亂離紛
 擾チ生スルハ其責獄制ノ宜シカラサルニ歸スヘキナリ既ニ斯ノ如シ

ナレハ囚人再犯ノ根原亦何ニ歸スヘキヤ余レ曾テバルセロナノ控訴
 廳ニ於テ事ヲ實驗シ又カンベードロニテ再犯ノ者チ觀ルモ殺場ノ罪
 十二件ノ内其原因獄制チキニ因ラサルモノナシ必ス獄吏ノ性質ニ歸
 セサルナリ獄舎逼任ノ都督ヘルナンテスガムハ及ヒセールカナレシ
 ヤス氏トニ諮テ余遂ニ此説ヲ確定セリ

此篇再犯根原ノ條ヲ論セントスルモハ余レハ恰モ醫官ニ異ナラズ醫
 官ハ患者ノ苦痛ニ拘ハラズ自若トシテ患者救命ノ術ヲ儘サ、ル可カ
 ラス此犯ノ原因テ究ムルモハ宜シク西班牙國懲治ノ獄制チ改ムルニ囚テ
 其弊チ除カサル可カラス「西班牙國懲治ノ景況ニ至テハ先ツ審院ニ於テ科
 スル處刑ノ方法ニ注意ス可シ」然リ而シテ各地ノ習慣ニ因リ其内稍々差違
 アリト雖モ率チ其實況チ示ス「左ノ如シ」囚人處刑チ受ケテ獄ニ來レハ
 則チ官吏ニ對スルノ禮チ了リ一旦獄内ニ送ラレ此處ニテ直チニ先輩不幸

ノ同類ヨリ容貌體質ノ検査ヲ受ケ新入ノ徒ハ後チノ信友ヲ求ムヘキ
 様一時ノ豫備ヲ時ヘ行キ或ハ二三日或ハ一週間ノ用意ヲ具ス而シテ此徒
 ハ全ク先輩ノ同類ト知己ヲ結ビ都督性質ノ善惡鞭撻ノ強弱獄外ノ使役
 ニ當ル者等ノ事ヲ知り僅々八日內ニシテ既ニ其場ノ長トナリ何人ノ目
 前ニテハ黙シ何人ノ使役ヲ受ケ何人ト共ニ月日ヲ送ル可キヤヲ審カニシ
 暫時ニシテ既ニ百事ヲ經驗ス又先輩ノ同類ニ取テハ新入ノ徒ノ長生ヲ
 察シテ其人ノ強弱性質等ヲ了解ス是ニ於テ囚人刑ヲ受クルモ日中ハ遊
 惰ニ送リテ夜間ハ暗室ニ臥シ健康ヲ害シ品行ヲ紊シテ復タ檢束スル所
 ナク永ク歲月ヲ送シルモ人民ニ對シテ裨益ノ事ヲ學フコト非ラス唯惡ヲ
 シテ惡ニ移ラシムルノ道ヲ教フルノミ又囚人最初拘留獄ニ來リ未ク處
 刑ヲ受ケサル内既ニ其場ニ在テ博奕等ノ惡技ヲ學ヒ獄内ニ入りテ明ニ
 之ヲ實行ス爰ニ獄制ナキハ囚人市街ヲ掃除シ勞役ヲナスニ衆人ノ目

前ニ於テ破廉耻ノ所業ヲ働キ日中放役セラル、囚人ノ爲メ世ニ被ムル
 處ノ害抄ナカラス之ヲ要スルニ即チ刑法ニ於テ所爲ス處刑ノ一端修
 教化ノ道ニ至テハ其得失利害推シテ知ル可キナリ
 又爰ニ處刑ノ場所ニハ工藝場商業學校宗教ノ職務清潔ノ検査等ノ設
 ケアリシト雖モ惜ムラシハ此各業寛仁ノ法ニ基テ目今廢止ニ歸シタ
 リ但工藝場アルモ囚人ヲ入ル、ニ非ス却テ國家ニ對シ囚人ニ對シテ
 有害ノ工藝ニ於テハ一モ殘ス處ナシ學校ハ寸功ヲ奏スルモノアラズ
 宗教ハ制限アリテ廣ク施コス能ハス囚人検査ノ一亦遍チク涉ルコトナ
 シ實ニ各事ニ怠慢シ權威ヲ玩弄シ不善ノ所爲ヲ行ヒ商事ヲ營ミ犯人
 チ職務ニ就カシメ囚人獄外ヘ出テ、時間ヲ費ヤシ時トシテハ空シク
 終日ヲ送ルト雖モ之ヲ鞭ツ等ノ一ナシ此等ノ弊害ニ至テハ一モ非ト
 セサルモノナク容ルヌ可キモノナシ余輩未ク數年間適任ノ都督アル

テ聞カス都督ハ皆囚人ノ或ハ無名ノ説ヲ唱ヘ我ハ囚人ノ確定スル説ニ同意ス又獄舎ノ都督屢々遷移ス都督ノ遷轉ハ即チ其人ヲシテ獄學ヲ研究シ囚人ノ百質ヲ知ルノ邊マアラテラシムルナリ」以上ノ件ニハ則チ囚人刑ヲ受ケテ後チ獄中ニアツテ日ヲ經ルノ概略トス夫レ此形勢ヲ熟考スルキハ囚人放免ノ後獄チ出ルニ當リテ能ク有盒ノ賜モノヲ齋ラシ得ヘキヤ元ヨリ難ノスル處論ヲ待タサルナリ今又爰ニドシ、シヨースマリヤ、カナレシヤス氏ノ証明スル説ヲ述フ同氏ハ獄舎ノ都督ニシテ曾テ獄舎ノ整美ナラサルヲ慨歎シテ云ク今日ニ於テモ我カ獄ノ景况ハ一千八百三十六年僧侶ヲ轉移セシメテ悦ヒ獄外ヲ守ルニ實ニ看者ヲシテ戰慄恐懼セシム寢室ハ寂寞慘擔ノ房室ニシテ極メテ不潔汚穢種々ノ責具ヲ備ヘ更ニ囚人安全ノ爲メ必需ノ具ニ非ルナリ」又房室不足ノ時ハ老少有罪無罪ノ差別ナク共ニ雜共シテ寢室ニ出入

シ面ノ食堂ニ出ル合標アルノ外他ニ規則ト謂フモノナシ夫レ人民保護ノ任ニ當ル者此ノ如キ獄内ニ在ル者ヲ如何セシ豈ニ歎ス可キニ非スヤ

カナレシヤス氏ハ西班牙國諸獄ノ都督タリ曾テ其學ニ長シタルヲ以テ政府命シテ西班牙國ノ各獄巡察ニ委員ニ任ス故ニ全氏七月間各獄ヲ巡察シ自ラ經驗スル處チ一冊子ニ記載シテ其功業ヲ著ハサントセシカ惜ムヘシ其編成ヲ止メテ終ニ果サス同氏ハ素ト歲月ヲ獄學ニ費ヤシ頗ル有功ノ師タルヲ以テ必ス此人ヲ以テ獄ヲ論スルノ証例トナスニ足レリ

斯テ同氏「ドルセロナ」ニ於テ懲治監ノ職員ニ任シ又一書ヲ著シテ云ク凡ソ西班牙國獄舎ノ壓制ハ獄中ニ惡風ヲ傳染シ易キノ一トス今日西班牙國ノ獄舎ヲ觀ルニ悉ク拘留獄ニ變シ囚人罪決ノ者各種ノ男女老若皆

此獄ニ拘留セラレ而シテ獄舎ノ不潔驚愕ニ堪ヘス其景況ヲ記セントスルモ既ニ記者筆力ノ及フ處ニ非ラズ佛國ニ於テハム城ノ記事ニ精シキモノハ果シテ亦西班牙國獄舎ノ景況ヲ了知ス可シ西班牙國ノ獄室ハ童兒惡風ノ傳染ヲ防クニ由ナク又男女老若ノ別居アルニ非ス「童兒罪ヲ犯シ入獄ノ期限最小ナルモノハ三月間ヲ以テス此三月間則チ先輩其者ノ性質ヲ知り惡道ニ導キ罪犯ヲ教フルニ餘アルノ時間トス」又囚人獄易ヨリ獄前ノ入ト通スルニ便ニシテ内惡外惡ト共ニ奸惡ヲ謀ル「ヲチ容易ニス又此處ニハ娼妓及ヒ臟物ヲ需ムル者來リテ囚人ヲシテ新罪ヲ企テ逃亡ノ術ヲ謀ラシム此他ノ惡弊言ハント欲スルモ既ニ儘スニ違アラス以上ハ則チ我カ獄舎壓制ノ悲歎ス可キ眞情トナス所ナリ近頃亦此事ノ証人ドン、コンセブシナン、アレナル、デガルシヤ、カラスコ、氏ノ記スル數條アリ其文左ノ如シ」夫レ西班牙國獄舎ノ景況ハ實ニ悲歎

ニ堪ヘサルナリ蓋シ犯罪ノ種類ハ我カ風俗習慣ノ暴戾ナルヲ憚シ我カ無智矇昧ナルハ實ニ悲歎スヘキノ一事トス而シテ我カ獄則ハ更ニ義務廉耻ノ事ニ注意スル「ナシ」然リ而シテ此獄則チ以テ我カ一般ノ人情ニ適スルヤト云ヘハ決シテ然ラス既ニ他事ハ改革ヲ加ヘテ百事進歩ニ趣キ凡テ文明國ニ擬シテ事ヲ理メント欲ス然ルニ獨リ我カ獄制ニ至テハ依然トシテ變セズ是レ唯人民暴惡ノ原因ニシテ善性ヲ滅シ惡道ヲ助クルノ用ヲ爲スノミ今獄内ノ犯罪著ニ至テ詳悉縊スル「ヲチ欲セズ然レモ言ハント欲スル所ノ事ハ西班牙國獄舎ノ實況ニシテ其情ヲ知ル者既ニ審ニスル所タリ故ニ我亦爰ニ論スルヲ欲セス拘留獄ニテ行ハル、不品行ノ惡弊アル間ハ囚人一旦我カ刑法ニ囚テ處刑ヲ受ケ既ニ其期ヲ了リテ後チ如何ニシテ善民ニ回復スルモノヲ得ルノ理アルヘキヤ又處刑ヲ受ケタルモノ其罪ニ償ハントメ獄ニ下

ルニ何ノ心意ヲ以テ行ク可キヤ此兩款ノ第一問ニ答フルニ曾テ我カ
 心中ニ感銘スル先例ヲ援テ示スト左ノ如シ余レ曾テ代言人トナリテ
 實驗ヲ歴タルコアリ即チ余一家族ノ母ニ箴言スルコトニ管リタリ元來此
 母ハ貨幣贋造同類ノ罪ニ因テ處刑ヲ受ク然ルニ此母ニ二人ノ男兒ア
 ルヲ以テ母ノ信友ニ托セラレ長兒ハ十二歳ナリシカ其家ニ存テ手巾
 竊盜ノ罪ヲ以テ亦縛セラレ既ニ放免ヲ受ケタリ其後余ハルセロナ
 控訴院ノ報告副官トナリ在職十二年ノ間此童兒ニ就テノ犯罪ヲ書記
 スルコト既ニ十二件ニ及ヒ二三ハ竊盜他ハ皆強盜ノ罪ヲ以テス而シテ犯
 所ノ罪ニ至ツテハ悉ク再犯ノ前犯罪ノ刑ヲ完了セシモノナシ實ニ此
 兒童ノ如キハ獄舎若クハ尙ホ一層甚シキ環境ニ到テ一生ヲ終ルヘキ
 ヤウ天賦定メラレタルモノト云フ可キナリ然ルニ其次兒ニ至テハ行
 狀善良全ク長兒ト相反シタリ是ニ於テ余意ヲニ長兒ノ此ノ如クシテ

次兒ノ此如ク性質相反對スル所以ノ者ハ長兒初メテ入獄ノ時獄弊ノ
 爲メ善性ヲ失ヒ惡心ヲ生シタルニ出ルコト萬モ疑フ所ナシ故ニ次兒若
 シ獄ニ入ル時ハ亦果シテ善性ヲ破ルヘキナリ
 我西班牙國獄舎内部ノ結構ニ至テハ其精細ナルハ記スルニ遑マアラス
 但シ其概略ヲ論スルハ各種ノ囚人混淆シテ少長ノ區別ナク終身刑
 ヲ受ケタルモ亦僅カ兩三日ノ懲治刑ヲ受ケタルモ共ニ相接シテ時期
 暫クノ處刑チーニス別室處刑ノ徒モ敢テ別室アルニアラス公然重罪
 ノ徒モ偶マ私欲ニ迷フテ犯罪シタル良商モ共ニ雜居シ十八歳乃至二
 十歳ノ童兒ハ屢々諸獄ヲ遷轉シタル者ト混淆ス夫レ犯人ヲ教化セシ
 メントスルニハ悖理ノ此ヨリ甚キ者無カルヘシ必ス罰ニハ之ニ勝ル
 良法アル可キナリ然レハ是レ余輩數年間歷ル所ノ形況トス疑ヲ以テ
 未ダ全ク尽シタリト云フ可カラサルノミ

我獄舎設立ノ主意ハ元來囚人ノ功勞ニ因テ獄費ヲ償フニ足ラザレハ以テ成ル丈ケ獄費ヲ減省スルニ注意スルノミ各獄多クハ工藝場ノ設ケ至テ小ナリ囚人群ヲ成シテ徒ラニ日ヲ送り或ハ輪集シテ遊戯歌舞ニ或ハ各國互ニ相ヒ通シテ新罪ヲ企テ獄外ニ住來スル使丁ニ托シテ通信ヲ圖リ獄則ヲ察シ囚人ヲ危急ニ陷ラシム此等ノ弊害ハ全ク安リニ獄費ヲ減セントスルニ歸スル所トス又獄内ニハ刀劔銼ノ類其他總テ逃亡殺傷ノ用器乏シカラス若シ夫レ獄内ニテ新罪ヲ企テタルヲ以テ其証人ニ立ツモノアリ或ハ罪犯審斷ノ判事アルキハ恐惕暴威ヲ歴見シ他日ノ放免ノ後必ス復仇ノ意アルヲ以テス此ノ如キ獄制ヲ接スルキハ遂ニ成果何レニ歸スヘキヤ蓋シ新犯ヲ挑發シ初犯初刑ノ後再犯ヲ容易ナラシムルノ功アルニ過キサル也

囚獄管理ノ不定ナルハ獄舎設立ノ道ニ於テ必ス弊害ヲ生ヒサルヲ得

ス蓋シ處刑ヲ受ケテ其刑ヲ完了スル者ハ單刑ヲ受ケタル二三ノ囚人ニ過キス多クハ共善ノ言ニ托シ或ハ獄舎ヲ閉ツルノ根原ニ因リ或ハ種々他ノ事故ニ因テ囚人ヲ此刑ヨリ彼ノ刑ニ移スヲ常ニ絶エルトナシ

余曾テ獄舎ノ簿記ヲ閱スルニ八年間處刑ノ徒ヲ十年間ニ移シタル紙數三枚有餘ニ及ヒタリ

夫レ此習慣ノ因テ起ル處何ニ歸スヘキヤ又何ノ功驗ヲ生スヘキヤ囚人ノ位置屢々變スルキハ必ス毎時新クニ心中ヲ擾動シ屢々逃亡ノ機會ヲ與フルヲ以テ遂ニ又變遷ノタノ數多ノ刑ヲ加ヘサルヲ得ス此等ハ悉ク制規ニ害ナキヲ得ス我カ國殊ニ然リトス蓋シ我國ニ於テハ獄舎ノ幹事各々隨意ニ法律ヲ會得シ囚人處置ノ習慣方法ヲ擅行ス然レハ則チ囚人屢々諸獄ヲ遷轉スルニ至テハ從令ヒ素ト良性善心ヲ具フ

ル能ク教化シテ善行シ赴クヲ得ヘキヤ蓋シ難スル處トス」囚人屢々居テ遷スルハ犯人功業ノ新談ヲ聽キ耳目ヲ新タニス而シテ愛ニ善ヲ勤ムルモノナク同類屢々變スルルハ惡心ヲ培養スルノ外他ナシトス」現今各師ノ一人曾テ名言アリ云ク西班牙國ハ全國ヲ以テ獄舎ト倣スト此言實ニ然リ蓋シ西班牙國ノ獄舎ニテ大赦恩免處刑交換ノ弊ユリ遂ニ獄舎ノ人民全國ニ散居シ而シテ政体ノ變遷アルルハ則チ犯人ノ爲コ之ヲ祝スルコト實ニ此國ノ一奇事ト爲ス可キ也

有名ナルボンチウイール氏大赦ノ權利ハ公平償罪ノ各式ニ反スルノ確言アリ又ヒランギーリベンサム、ヘツカリヤ、及ヒ自餘ノ者大赦ノ權利ニ抗論シ而シテ若シ同氏等西班牙國ニ於テ此弊害ヲ實驗スルヲ得ルルハ之ヲ駁スル一層劇ニ渉ル可キナリ蓋シ此權利ヲ公明正理ニ行フハ大ニ又人民ノ公理ヲ助クル所アル可キヲ以テナリ是レ西班牙國ニ於

テハ法律不十分ニシテ裁判ノ方法亦極メテ正確ナチサレハナリ」然ルニ此大赦ハ國民ノ依頼審院ノ思ニ因テ益々増加ス少シク懲治學ニ長シタルモノト雖ヒ此仁慈ヲ行フキハ必ス因テ生スル處ノ弊害アルヲ察セサル可カラス然レハ則チ無根ノ仁慈ハ既ニ利益ノ源ト爲ラス却テ害惡ノ泉源トナルナリ

西班牙國獄舎制規ノ景況ハ既ニ本文ニ記スル加ク寔トニ悲歎ニ堪ヘサルト雖ヒ此國ドン、ペードロ、アルミンゴレ、コルテット氏ノ如キ記者アル間ハ遂ニ又獄則改革ヲ待ツノ期アルヘキナリ

○第十三 澳地利亞獄舎ノ景況

英國ニ於ケルフロレンス、ヒール氏ノ意見
 フロレンスヒール氏ハ著名ナルビルミンシハム、ノ録事マ
 ツン、ダーヘン、ポート、ヒール氏ノ女ニシテ其同胞ロサモ

レト、ヒールト云フ女ト共ニ一千八百七十二年澳大利亞州
 ニ到リ其地ニ遊フ事殆ント二年間其間此地方ニ在ル英國
 所領ノ懲治場ヲ巡見スルノ機會ヲ得タリ于時同氏英國ヲ出
 帆スル前無テ余ノ同氏此地ニ遊ハ、其獄舎ニ就テ目撃經
 驗スル所ヲ余ニ談話アランコヲ需メタリ故ニ近頃同氏歸
 國ノコトヲ知り己ニ此書ヲ著ハスノ半ハナレハ頗リニ約ノ
 如ク其報ヲ得ンコトヲ希望セリ同氏切ニ我カ望ヲ承諾シテ
 具サニ獄舎ノ景況ヲ歴見シ此書ノ成功ヲ促カシタリ而シテ
 全氏ノ書翰中ニ在ル如ク成功ノ爲メ必需ノ諸具ハ既ニ其
 前英國ニ達シタリ其書翰ノ文即チ左ノ如シ
 謹テウエーンス氏閣下ニ呈ス貴下曾テ我カ遊歴中澳大利
 亞ニ在テ目撃スル獄舎ノ景況ヲ一書ニ著ハサシテ欲シ

タリ因テ余レ今貴下ニ此書類ヲ呈進ス余レ未ル外スマニ
 ヲノ地方ニ到ラスト雖モ我カ同胞ローヌモントハ暫ラク
 該地ニ駐リ其間所ノ獄舎ヲ巡見シテ即チ我ニ其地獄舎
 ノ形勢ヲ送致セリ此地ニハポートアルシヨルノ大獄ト其
 他數多ノ獄舎アリ元來此大獄ハ數十年前英國ヨリ遷移ス
 ル犯人ノ爲ニ設クルモノニシテ此獄ニ殘留スルモノ今尙
 ホ一百五十余人何レモ未タ刑期ヲ了ラサルモノナリ然レ
 ハ貴下知ル如ク本國ノ罪人ヲ此地ニ遷スコトハ既ニ制禁ト
 ナリタル故ニ現今ハ唯土地ノ犯人ノミ處刑ノ爲メニ置ク
 モノトナリ我輩偏ニ犯人ノ少ナカラシムコトヲ希望ス我報告
 ハ獄表太ク少ナキヲ遺憾トス奧地利亞政府ヨリ我カ爲メ
 ニ補益スル所ノ公書類數多ナリト雖モ遠航郵送ノ爲メ遂

ニ此書ニ因テ我ヲ助クルノ期ニ到達スルヲ得ス

甲 ウィクトリア州ノ獄舎

ウィクトリア州ノ殖民地ニハ通常ノ獄舎十ヶ所一ハメルボルン府ニ在リ他ハ皆州内ニ散布ス而シテ處刑ノ制三法アリト雖ヒ究竟一途ニ歸スルモノナリ此獄ニハ懲役處刑ノ男囚ノミチ入レ而シテ拘留ノ時間ヲ六級ニ區別シ功標ヲ以テ漸ニ上級ニ進歩スルヲ得最初四級ノ者ハペントライシノ獄舎伊呂波ノ分局ニ在テ處刑ヲ受ケ第五級ノ者ハメルボルン府ヲ距ル一四里ニシテ、ウヰリヤム、スタウン、ノ沖ニ碇泊スル二艘ノ船獄中ニ入り又第六級ノ者ハ正サニ獄ト認ム可カラサル一舎ニ入りテ處刑ヲ受クルナリ而シテ此五六ノ兩級ニアルモノハ公業ニ使役セラル、ナリ

一千八百七十三年十月十八日余メルボルン府ヲ距ル一四里ノ地ニ

設ケタルペントライシノ獄舎ヲ巡見セシニ獄内ノ景况整備清潔ニシテ能ク空氣ヲ通シ便宜ヲ能クシ獄室ノ數六百囚人一名毎ニ一房ヲ專ラニシテ「伊呂波」ノ名稱アル三舎ニ分配ス爰ニハ獄監ノ居館アルノ外(當時ノ獄監ハナナルジ、ナリハント、ジコ、シカノ氏ナリ)官吏ノ宿所病院及ヒ軟弱ノ囚人工藝ノ小舎等アリテ四方周ラズニ牆壁ヲ以テシ衛舎ヲ設ケテ番卒裝銃ヲ携ヘテ常ニ警衛ス而シテ此内廊ト外廊トノ間ニ十七「アクレス」ノ廣地アリ此地囚人ノ耕ス處ニシテ獄用牛馬ノ枯草及ヒ蕃薯ヲ除クノ外囚人費用ノ高粱ヲ培養ス
完全ノ功標式マイクシステム既ニ行ハレテ月々功標ノ數九箇(勞役ノ爲メニ充ツルモノ)三箇工藝行狀ノ爲メ三箇及ヒ一般行狀ノ爲メ三箇トス而シテ第一級ノ外上級ニ昇轉スル前各級ノ囚人若干ノ功標ヲ得第一級ニ於テ功標ノ欠數ハ第二級ニ於テ償ハサルヲ得ス「行狀不善ノ徒ハ得ル所ノ標數ヲ減

シ又非常ノ善行ヲ顯ハスモノハ一日十二箇ヲ得ヘシ但シ第一級ノモ
 ノハ此多數得ル能ハス一級ノモノハ唯九個ヲ得ルノミ
 囚人得ル處ノ標數ニ因テ處刑ノ内多少赦免ヲ得ルヲ得ル高度ニ從テ
 得ル處ノ權利亦益々大ナリ「第四五六級ニ於テ得ル處ノ功標九箇毎ニ
 必ス恩金ヲ賜ハリ一「ペンス」ニ「ペンス」四「ペンス」ノ差違アリ此恩金ハ囚
 人放免ノ時合シテ本人ニ給與ス」又高級ノ者ハ煙草茶砂糖ノ類ヲ給
 與シ殊ニ本人ノ自由ヲ増加ス然レモ是レ第五第六級ノ囚人ニ施スニ
 非ス此兩級ノ處刑ハ十二月ヲ過キス（此囚人ハ高級ニ達スルノ時ナシ）
 或ハ再犯ノ者ニ行フコトナシ
 第一級ノ囚人ハ「伊」号ノ分局ニ在リテ運動ノ爲メ日々一時間獄室ヲ出
 ルノミ但シ醫官ノ命アルノ外此運動モ入獄ノ後第三日迄始ムルヲ能
 ハス此級ニ在ル者ハ入獄後最初一月間ハ一ノ工藝ヲ與ヘラレス學業

ヲ受ク書籍石筆ヲ用ユルノ外ナシ此一月ヲ歷テ初メテ稿ヲ編シ獸毛
 ヲ剪リ靴ヲ造リ衣ヲ繕フノ使役ヲ受ルナリ而シテ「伊」号ノ分局ニアル時
 間ハ通例三月ヨリ六月間ニシテ惡行アレハ延ヒテ九月ニ及ブコトア
 リ
 又「呂」ノ分局ニハ第二級ノ囚人アリ此輩ハ群ヲ成シテ工藝シ禮拜堂ニ
 至リ各々獄室ニ在テ飲食ス「又」波」ノ分局ニアル第三第四級ノ者ニ至テ
 ハ群ヲ成シテ飲食工藝シ而シテ學校及ヒ禮拜堂ニ至ルナリ又第五第
 六級ハ其中間ノ級ニ在ル者ハ「ウ」イリヤムスタウンニ至ルナリ
 ペント、ライジ、ノ獄舎ニハ帽工木工縫工履工鍛工鉄工毛工織工等ノ工藝場
 アリテ一千八百七十二年ニハ政府ノ歲入六千六百四十五磅トス是皆
 現ニ懲役人ヨリ得ル所ノモノニシテ工藝ノ全價一万九千二百十二磅
 囚人平均ノ員數七百四人其入費ノ全價三千百七十九磅トス

商法ノ教師ハ獄吏ニ非ス又毎ニ獄舎ノ廊内ニ住ムモノニ非ラス而シテ此教師及獄監ノ監察間斷ナシト云フヘカラス然レモ囚人知ラズニ監察ヲ受ケ官吏不在ト雖モ覺ヘズ監守セラル、所アリ

囚人ノ衣服ハ政府ノ印證B十Dノ徴シアルノミニテ他ハ通例工夫ノ衣服ニ異ナラス而シテ其衣類ハ染布ノ襯衣白色ト股引鼠色ノ着襟卷甘簿樹^{ハネダン}ノ帽子及ヒ雨天ノ節ハ粗造長寛ノ「フラチル」製ノ表衣ヲ用フルナリ但シ霖雨ノキニ至テハ戶外ノ工藝ヲ止メ驟雨ノ時ハ一時隠舎ヲ設クルナリ

官吏囚人ヲ待ツノ舉動ハ頗ル懇親ニシテ毎ニ苛酷ノコトナク慈仁ヲ專トス故ニ囚人モ亦眞實ニ工藝ヲ營シ囚人ノ容貌恒ニ怡然タリ

余慮フニ懲役ノ時ハ晝餐受學ノ外七時間ヨリ五時間トス獄室ハ午後八時若クハ九時迄瓦斯燈ヲ點シ囚人ハ石筆ヲ用ヒ三書ヲ讀誦ス一ハ

宗教一ハ教育一ハ慰勞ノ書トス學校ハ暖季間開キ懲役人ニ就テハ冬季三月間之ヲ閉ツルナリ」大ナル書見所アリテ囚人ノ縦覧ニ供シ此場ニハシツケンス、サウケレ、スコット氏等ノ書籍ヲ備フ或ハ又各僧ノ撰學スル耶蘇天主教等ノ聖書アリ又囚人中ニハ常ニ支那人絶ユルコトナシ然ルニ此場ニハ支那ノ書籍ナキヲ以テ支那文ニ翻譯シテ獄門ヲ示シ耶蘇教ヲ聽問セシムト云フ而シテ各囚人此獄ニ來ル時ハ先ツ各信スル所ノ宗教ヲ演ブルヲ例トス(囚人ノ尊敬ニ因テ又「ベカン」教タルヲ演ブルコトヲ得ヘシ然レモ余察スルニ入獄ノ囚人ハ必ズ獄内ニ行ハル、宗派ノ何レカヲ守ラサルヲ得ス)而シテ囚人一且其數ニ入りテ後ハ之ヲ離レントスルモ其離レントクテ乞フ僧徒ト改定セントクテ望ム僧徒ト兩僧同意ノ上ニ非レハ改宗ヲ許ルサル、ナリ「意フニ「ベガン」教ヲ離レントスル輩ニ至テハ爰ニ同宗ノ僧徒ナキノ難事アラシカ」爰ニ各宗

ノ三僧アリト雖ヒ我カ此獄ヲ巡見セシ時ハ未ク時ニ宗教禮拜ノクメ
 設ケタル別室アルニ非ラス食堂ノ一隅ヲ閉チテ時ニ此レニ假用セリ
 又獄内ニ樂器ヲ備ヘ奏樂場ヲ設ケタリ病院ハ空氣流通シテ頗ル爽快
 ナリ之ニ接シテ大ナル遊廊ヲ設ケ好景美觀ヲ極メ全ク病客ノ爲メニ
 ス工藝ヲ怠レハ則チ勞役功標ノ損失トナルナリ故ニ疾病ニ仍ルモノ
 極メテ少シトス又醫官ハ獄ノ廊内ニ住居ス
 獄内懲治ノ房室ニアリテ全ク暗黒ニナスヲ得然レヒ此室ヲ用フル
 一甚ク稀ナリ蓋シ功標ノ損失及ヒ蒸餅ト水ノミノ製食ヲ與ヘ室内ニ
 拘留スルヲ以テ獄内ノ刑既ニ十分トナスヲ以テナリ然レヒ亦衛舎ノ
 番卒ハ兼テノ命ニ因テ逃亡ノ囚人ヲ直ニ砲撃スルノ權アリ曾テ聞ク
 ニ囚人一度ヒ獄ヲ越ヘテ逃亡スルキハ之ヲ再捕スルヲ一甚ク難キヲ
 以テ自然逃亡ヲ防クニハ廢法ヲ用ヒサルヲ得スト云フ一千八百七十

二年ニハ懲治人逃亡隱匿セシ者九名ニシテ再捕セシ者ハ其内七名ニ
 過キスト云フ番卒ハ清潔ノ坐席ヲ構ヘ其内ニハ囚人ノ造リタル美麗
 ノ彫像及ヒ書籍等ヲ列テタリ

一千八百七十三年十月二十九日余ウイリヤムフタウンニ於テ中等ノ
 獄舎二所ヲ巡見セリ

余先ツ船獄ニ至リクリ以前ハ囚人多分群集シテ寢臥シタルニ目今ハ
 各々一室ヲ構フニ至リ室ノ大サハ大洋第一等蒸氣船ノ四名ヲ入ルハ
 船室ニ比スヘク而シテ空氣ノ變更極メテ能シ我カ此船獄ニ至リタルハ
 ハ獄室未タ人造ノ燈火ヲ引クノ設ケナシ房室錠鎖ノ時期ハ午后六時
 タルヲ以テ閉室後日光ノ入ル時間甚ク少シ是ヲ以テ當時人エノ開明
 チ引クノ用意頗ル盛ナリ而シテ囚人皆會食ス
 囚人ハ皆ヤツラ河口ノ埠頭ヲ築キ以テ溝水ヲ深クシ水利ヲ便ニスル

ノ使役ニ供セラレ船獄ヨリ數丁距リタル海岸ニ至リテ巖石ヲ切出シ
 運車ヲ以テ之ヲ波戶塲ニ運ヒ其レヨリ小船ニ積入レ修築ノ塲所ニ搬
 送ス囚人ハ外見通例ノ工夫ニ異ナラス唯囚人タルヲ示ス政府ノ印證
 服上ニアルノミ石工場ハ別ニ圍牆ナク番卒裝銃ヲ携ヘテ之ヲ守ルノ
 ミ又囚人學業ヲ許ルサレラス然レヒ余意フニ書見塲ニ至テ書ヲ讀ムト
 ナ得ヘキナリ

余又船獄ヨリ第六級ノ囚人ヲ一見センカ爲メウイリヤムスタウンノ
 造船塲ニ至リタリ然レヒ時間ニ乏シキヲ以テ遂ニ精シキ其塲ヲ見ル
 トナ得ス此塲ノ囚人ハ平常ノ工夫ト共ニ使用セラレ約定ノ備役ヲ爲
 シ約定人ハ囚人ヲ見テ平民ト均シク之ヲ待ツ此囚人ハ土地ヲ平ケ丘
 陵ヲ崩シ石片ヲ以テ孔雀ヲ填ムルトナ務ムルナリ居ル所ノ家屋ハ獄
 ノ如キモノニ非ス但勝手ニ出入スルヲ得サルノミ蓋シ之ヲ安リニ

許ルサ、ル所以ノ者ハ畢竟其近傍ニ罪ヲ犯ス者アル時外方ヨリ疑念
 ナ受ルヲ防クニ外ナラサルノミ

全ク懲役ト認ム可カラサル第六級ノ囚人ハ遂ガニ輕易ノ工作ニ使役
 セラレ而シテ所得ノ施金ハ他人ニ比スレハ唯半高ヲ受クルノミ

放免囚人扶助會社暫時施行セラレタリ然レヒ愛ニハ婦女ノ會社ナク
 全ク男子救助スルノミニ干係セリ」ベントライシ、及ヒウイリヤムスタ
 ウン、ニ於テ既ニ行ハル、獄舎ノ制規ハ其方法全ク一千八百五十七年
 英倫ニ於テ行ハレタルウチルテン、コセフトン、氏ノ設立管理スルモノ
 ト比較シテ敢テ讓ラサルナリ余意フニ此式ヲ用ヒテ成功ヲ遂ケタル
 ハ偏ニ賢明ナルシエンカン氏ノ効ニ歸スル處トス

一千八百七十三年十月十九日余メルボルン府ニ至リテ其府外ニ在
 ル獄舎ヲ巡見セリ「愛ニハ此地方ニ於テ懲役ノ處刑ヲ受タル各婦教化

ニハ既ニ年齢老ニ過キタル婦人、各種ノ少女、此府ノ審斷ヲ經テ二年以上ノ處刑ヲ受タル男女再犯人或ハ未タ保證アラサルニ因テ審斷ヲ待ツ囚人及ヒ狂人、軟弱人、又ハ収養場ノ保護ヲ受可キ命ヲ受ルト雖モ未タ其場ニ遷ラサル貧民或ハ未タ居所ヲ求メ得サル窮民等皆獄舎ニ集居ス此ノ如ク種々ノ人種聚マルルハ元ヨリ其類ヲ分クンカ爲メ廣席ヲ與フルト最モ肝要トス然レモ我カ巡見ノ日ハ蓋シ五百人以上ノ囚人僅カニ二百十二ノ寢室アル一獄中ニ混居シ女囚ハ殊ニ一室ニ三名ツ、同居シ日中ハ尙ホ多ク群居ス故ニ困窮軟弱ノ婦モ其處刑ヲ受ケタルモノト同居シ女工ニ使役サル、婦人モ一月間ノ處刑ヲ受ケタル者ト混居セリシコソカレ氏此獄舎ノ形勢ヲ觀テ其宜シキヲ得サルヲ慨歎シ必ス改革ヲ加ヘンコトヲ欲シタリ

囚人ヲ十分ニ類別スルコトノ難キハ即チベントテイシウエイリヤムスタ

ウソ、ニ於テ專ラ行ハルニ懲役婦人功標ノ獄制ヲ妨グルニ似タリ此獄舎ニテハ此獄制行ハル、ト雖モ有名無實有限ノ度ニ行ハレテ唯其規則ニ從フノミ「爰ニハ一モ中等ノ獄舎ナク婦人所得ノ施金ハ男囚懲役ニ因テ得ル所ノ半高ヲ以テ定ムルナリ

女囚ノ内或ハ獄内ヲ掃滌スルモノアリ而シテ洗衣場モ大ニ改革ヲ加ヘタルト見ヘタリ庖厨ノ業ハ全ク男囚モ委シテ男囚女餐ヲ女獄ニ搬送ス(察スルニ暫期刑ノ男囚ナランカ)又男囚ノ懲役人ハ別場ニ在リ石工ニ使役セラレ多分ハ能ク勉強ス又若輩ノ囚人ト他囚ト別室ニ在テ此輩ノ爲メニ受學教育ノ設ケアリ

獄内ニ太ク清潔ニシテ病院ノ結構亦善良トス爰ニ獄内ノ需用公平ナラサルモ大ニ改革ヲ加ヘタリト云フ

乙 ニュー、シヤウス、ウエーカス、中シトチー、府ニ在ル「ダーリン

グスホルスト「獄舎」ノ景況

ニユー、シヤウス、ウエールズ、中ニハ大小ノ獄舎殆ソド三十面、其内大ナルモノハシドチー府ニ在ル獄舎トス此獄舎ハ男女各種ノ囚人ヲ入レ即チ第一ハ我本國ノ犯人ト同様懲役カ處刑ヲ受ケタル囚人第二ハ懲役ニ處セラレスシテ暫時ノ處刑ヲ受タル禁錮人第三ハ童兒トス此童兒中ニハ頗ル幼若ノ者アリ童兒ハ多分成男ト別居ス「此獄舎ハ此府繁盛ノ一地方ターリングスホルスト」ニ於テ高燥ノ場所ニ建築シ獄名亦此地方ニ依テ稱クルナリ「此獄舎ハ數度ニ増築スルモノニシテ其軌摸一定ナラス然レモ多少獄内ニテ四方ヲ通看スルヤウ作りタルモノナリ獄内ハ清潔ニシテ順序甚タ好ク一千八百七十三年十一月一日我カ此獄ヲ巡見セシ頃ハ囚人ノ數殆ソド五百名ニシテ既ニ其人員獄室ノ數ニ超過シ自然一室ニ三名ヲ入レタル所アリ此輩ハ蓆ヲ敷キタ

ル木製ノ寢臺ニ上リテ各個ニ臥シ獄監ハロルト、マクレーン氏此如ク過多ノ群集ニ害アルヲ歎シテ之ヲ防カン爲メ獄舎ヲ一層廣大ニ爲サソコチ欲シタリ

囚人ハ集會シテ飲食工藝ヲ禁錮人ハ獄内ニテ工作シ又懲役人ハ全ク受報ノ業ヲ勤メ婦女ハ舊索ヲ解キ(一日ノ課二斤トス)縫工ヲ營ミ其内功技ノ徒ハ尙ホ美工ヲ勤メ小兒ノ衣ヲ縫習ス又男囚ノ懲役人ハ交番輪轉獄務ヲナスノ外快裕清潔ノ商業場ニ於テ種々ノ勤工ヲ營ミ其業就中蓆ヲ造ルニ在リ余察スルニ此等ノ輩皆實意ヲ以テ工藝スルモノナシ蓋シ若シ獄吏ノ鞭撻最モ烈シキニ囚テ然ルナリ囚人業ヲナスモ互ヒニ接近シテ密話ヲ爲スニ容易ナリ時トシテ其者ノ外餘人アラザルコアリ此輩商法教師ノ監督ヲ受ケ而シテ此教師ハ獄吏ニ非ルナリ「又囚人ノ衣服ハ我カ本國囚人ノ衣服ニ類似シ稍々我カ本國囚人ノ形狀アルモ半ハ、此着衣ア

ルニ歸スル所トス」南澳地利亞ノ獄舎ニ於テ見ル男囚ノ善貌ナルモ此地ニ於テハ更ニ見ルコトナシ若シ處刑ノ満期近寄ル時ハ男囚皆毛髭ヲ延ハスコトヲ許ルサレタリ死刑ニ處セラレタル囚人ヲ入ル、獄室六處アリ蓋シ死刑アルハ獄舎建造ノ時ニ制定スル所ノ刑ニシテミナ獄舎ノ廊内ニテ行ヒ既ニ現今其數大ニ減シタリト云フ」マクレーン氏半ハウオルタルコロフトン氏ノ式ニ擬シテ現今ニ獄制ヲ行ヒタリ第一級第二級ノ懲役人ヲ他獄ニ徙ス迄ハ「ダーソレックスホルスト」ノ獄内不服ノ徒多クシテ日々算定スレニ違アラス同氏云ク受學ノ爲メ男囚ヲ獄室ヨリ出シタルハ實ニ安全ナラスト」方今ノ學校ハ唯日中ノミ至ルヲ許ルシ而シテ若輩ニシテ無學ノ徒ノミ行キ教ヲ受ルナリ若輩ノ囚人ハ囚人全數ノ殆ント四分ノ一トス」又女囚ハ學校教師ノ教ヲ受ケ女吏毎ニ出席ス又爰ニハ放免囚人扶助會社ノ如キモノアラス唯二三ノ姉女時ニ女囚ヲ

巡回シテ放免ヲ受ケル後營生ノ道ニ就クコトヲ注意スマクレーン氏ハ男囚ニモ亦此事ヲ行ヒタリ然レニ意ニ隨テ救助シ施シテ有益ナルコトヲ思量スルキハ則チ隨テ之ヲ施シタリニユーシヤウスウエールスニ於テハ一旦囚人トナリタルモノヲ忌避スルノ風アリ然レニ敢テ之レカ爲メ其者ノ營業ヲ妨クルニ非ス」一旦囚人トナリ放免ヲ受タル者鑛業ニ就ク者最モ多シ是ニ因テ遂ニ再ヒ獄ニ歸ラサルモノ太々稀レニシテ出獄ノ後復タ罪ヲ得ル者尠ナカラス然レニ囚人處置ノ方法既ニ改革ノ端緒ヲ開キタルヲ以テ數年ヲ待タズ放免囚人ノ行ヒ必ス善ニ赴クヘキナリ」日没ノ後ハ囚人悉ク無燈ノ獄室ニ錠鎖セラレ以テ守衛ノ獄費ヲ省キ又囚人書見ヲ許サル、ト雖ヒ一切筆墨ノ類ヲ與ヘズ此具ヲ與フルハ必ス惡言ヲ書クノ恐レアルヲ以テナリ」懲役人ノ食糧十分ナリト雖ヒ禁錮人ニ至テハ其量少ク暫時ノ處刑ヲ受ケタルモノ

ハ漸ク肉食ニ就ク一一周間ニ一回トス烟草ハ男囚ニ與ヘラル、ト雖
 此品行不正ノキハ又忽チ奪回シ毎月友人ニ會スルノ自由モ行狀不正
 ノキハ亦乍チ禁止セラル、ナリ我カ此獄舎巡見ノキハ功標ノ獄制稍
 ヲ行ハル、ト雖此未ダ十分ノ整備ニ至ラス然レ此行狀善良ナル時ハ
 處刑ノ各年ニ於テ禁錮ヲ短縮スルコト二月ニ及フコト得之ニ反シテ一
 日善行ヲ失スルキハ二日ノ放免ヲ虚ウス此獄舎ニハ處刑ノ獄室六處
 アリテ時トシテハ全ク室内ヲ暗黒ニ爲スコト得而ノ偶々之ヲ男囚ノ
 處刑ニ用フルコトアリト雖此決シテ女囚ニ用フルコトナシ男囚暗室ノ拘
 留ハ七日間ニ止リ囚人室内ニアツテ鐘ヲ鳴ラスノ便宜アリ而ノ日々
 僧徒番卒ノ巡察ヲ受ケ此室内ニ拘留セラル、童兒モ亦此ノ如ク爲
 ルニナリ蓋シ此地ニハ男囚ノ教化場ナク又工藝學校ニ於テハ犯罪ノ
 兒童ヲ入レサルヲ以テナリ余獄監ニ對シ曾テ禁錮ノ處刑ヲ受ケテ教

改心セシ兒童アリシヤ之ヲ尋問セシ時同氏嚴ニ一人モナキノ言ヲ以
 テ答ヘタリ犯罪ノ狂人モ亦此獄ニ繋カレ時トシテハ犯狀ナキ狂人モ
 亦不幸ニシテ此獄ニ拘留セラル、ナリ然レ此是レ一ハ兼テ改革アラ
 ノコトヲ希望スル法律ノ缺典ト一ハ地方官ノ中時トシテ此不幸ノ民ノ
 爲メ本府ニ適當ノ家屋アルコトヲ知ラスシテ安全保管ノ爲メ獄ニ送ル
 ニ歸スル所トス

丙 南澳地利亞「アデレーテ」獄舎ノ景況

此地方ニハ六月以内ノ處刑ヲ受ケタル男女十名ヨリ十二名ヲ入ル可
 キ小獄三所アルノ外又二所ニ獄舎アリ一ハアデレーテ、府ヨリ六七里
 離レタルヤシラ、ニ在ル懲役場トス此獄ハ男囚ノミニ用ユルナリ又一
 ハ各種ノ女囚ト六月以内ノ男囚ヲ入ル、アデレーテ、獄舎トス一千
 八百七十三年余此マテレーテ、ノ獄ヲ巡見セシニ石造ノ建築頗ル美ニ

ノ一千八百四十四年府外一里ノ處ニ設ケタリ余此獄ニ至リシキハ獄
 内ニ在ルモノ男囚六十六人女囚二十八人トス
 囚人ハ皆別室ニ寢臥シ日中ハ群集シテ工作シ元ヨリ男女ヲ區別ス缺
 テ喧噪有害ノコトヲ言ハサレハ談話スルコトヲ妨ケス獄室ハ良善ニシテ
 男室最モ全備シ男室ハ地上ニ石ヲ敷キ女室ハ板ヲ以テス而メ男ハ釣
 床ニ眠リ女ハ板上ニ寢臥ス以前ハ男女共全ク板上ニ臥セシト雖モ近
 頃改テ板上ニ蓆ヲ補益シリ全獄ノ結構日中ノ女室ト其側面ヲ除クノ
 外他ハ悉ク全備清潔トス食糧ハ十分ニシテ一日一名ニ獸肉一斤ヲ與
 フ男囚ノ衣服ハ染色ノ下着白色ノ股引ヲ着シ又女囚ハ工夫ノ衣服ノ
 如キ頗ル便利ノ着衣ニシテ其色暗黒ナリ囚人一般ノ容色歡喜快樂ノ
 風アリ官吏囚人ヲ待ツニ甚ク懇切ヲ盡セリ南澳地利亞ニハ犯罪ノ者
 絶テナク囚人中我カ本國囚人ノ如ク品行ヲ破リタルモノ唯一人ヲ見

タルノミ又獄内囚人ノ大半ハ微罪ヲ犯シタル暫期處刑ノ徒ニシテ多
 シハ亂醉シテ犯シタル罪トス而シテ其内或ハ本港碇泊ノ水夫アリ又ハ
 水夫破約ノ証アルヲ以テ船長ノ依頼ニ由リ出帆ノ期日迄入獄セラレ
 タルモノアリ男囚ハ全獄ノ飲食ヲ調理シ蓆及ヒ囊袋ヲ造リ舊索ヲ解
 キ巖石ヲ碎キ土地二十「ア」ノ「ス」ヲ耕耘ス而シテ此地ニ培養スル撒攪
 リ油ヲ製造ス此土地ハ獄外ニアツテ番卒アリト雖モ銃ヲ携ヘサルナ
 リ蓋シ囚人逃亡シテ後ヲ再捕セラル、時ハ五年ノ懲役ニ處セラレ而
 シ此ノ如ク人口少ナクシテ人々多少互ニ相知ル土地ニ在テハ再捕ス
 ルモ亦果シテ容易ナリ暫期處刑ノ囚人ニ在テハ必ス逃亡ノ患ナシト
 ス我カ此獄ヲ巡見セシキハ男囚ヲ使役シテ盛ニ獄ヲ廣ムルノ舉アリ
 此使役ニ當ル者ハ工藝不熟ノ徒ニ充テ又女囚ハ一切ノ洗衣ヲ掌リ或
 ハ男囚ノ衣類ト己ノ衣類ヲ送り或ハ舊索ヲ解キ一日ノ課六斤トス近

來功標ノ獄制行レテ日々三標ヲ得可ク而シテ此功標ニ大中小ノ別アリ
 テ番率ヨリ各囚ニ分與ス然レモ未タ此標ヲ以テ囚人ノ行狀精細ノ證
 ト認ル能ハス此他又煙草ヲ給與ス蓋シ善行ヲ獎勵スル爲メニシテ六
 月以下所刑ノモノニ賜給ス又永期處刑ノ女囚ハ善行ニ因テ時期ヲ短
 縮シ囚人ハ談話スルヲ得ルヲ平常ト異ナルヲナシ元來獄制ノ目的ト
 スル所ハ囚人獄ニアル間專ラ整肅ヲ守ルニアリ却テ再犯ヲ防クノ道
 ニ乏シトス故ニ再犯ノ徒少ナカラストス獄内一ノ禮拜堂アルモ甚ク
 惡風ヲ存シ宗教ハ各宗隨意ニ教導シ日曜日各僧宗教ヲ施シ多分ハ天
 主教ノ徒ニシテ僧徒時々之ヲ巡見ス又學校教師ナク女囚ハ二三ノ女
 教師ノ巡見ヲ經テ教育ヲ受ルト雖モ男囚ニ至テハ教育ヲ受ケルヲナ
 シ唯二三人ノ書籍アルノミ男囚ハ朝六時ニ起キ女囚ハ稍々遲シトス
 而シテ夕六時ニ至テ室ニ入り錠鎖セラレ、ナリ使役實行ノ時間ハ室ヲ

整ヘ發テ喫スル等ノ時間ヲ除キテ一日殆ント八時間トス夜間ニ至テ
 ハ一モ職業アルコトナシ此ノ如ク囚人ヲシテ十二時間ヲ空シク送ラシ
 ムル惡弊ノ根原ハ全ク獄室燈火ノ費用ト夜間守衛ノ費用トヲ厭フニ
 在リ

丁 南澳地利亞「アイキリーキ」懲役獄ノ景況

南澳地利亞ニ於テ男囚ヲ入ル、獄舎ハヤカラニ在リ(六月以上處刑ノ
 犯人)此地ハ「アデレー」テ府ヨリ六七里距リテ地質巖石ノ海岸ニ近キ高
 燥ノ場所トス時トシテ此獄ヲ「ストツカー」ト稱スルコトアリ然レモ「ツ
 イキリーキ」懲役獄ト云フヲ以テ正稱トス此獄舎ハ獄室一百七十二刑
 四房ヲ區別シ一千八百七十三年八月二十日我カ此室ニ至リシキハ囚
 人ノ數八十八名トス其内大半ハ二十五乃至四十五歳ノモノ、ミニ
 囚人ノ年齡本國ニ比スレハ遙カニ長シタリ此徒多クハ西澳地利亞

スマニ一及ヒニユーシヤウス、ウエールス、ヨリ來ルモノニシテ前キニ我
 カ本國ノ犯人タリシ一ハ年齡長シタルヲ以テ推シテ知ルヘキナリ而
 ノ此輩飲食寢臥テ異ニスト雖ヒ工藝ノ作ハ皆群集ス故ニ一ノ大ナル
 工藝場ヲ以テ足レリトス蓋シ割烹調理清掃等ノ外戸内ノ工業ハ大抵
 衣ヲ縫繕スルノ一事タルヲ以テナリ「寡數ノ囚人ニテ商法教師ヲ備使
 スルハ入費過大ニ涉ルヘシ」囚人ハ率テ巖石ヲ碎キ土地二十「アクレス
 ヲ耕耘ス獄内需用蔬菜蕃著ノ外一切此地ニ於テ生セサルナシ余既ニ
 小麥培養ノ美園ヨ目撃セリ」アデレーデノ獄ニ於ル如ク此獄舎ニ於テ
 モ囚人ノ容貌爽快歡喜ノ風アリテ官吏囚人ヲ待ツニ甚タ懲勸實意ヲ
 尽クシ余見テ實ニ驚歎セリ「懲役獄ノ幹事（職掌殆ント我カ本國ノ幹事
 ニ異ナラス）ブースバイ氏ノ説ハ元來囚人ヲ勞役シテ平人ノ如ク扱ハ
 ントスルニ在リ而シテ此説ヲ實地ニ行ハントスルニハ囚人ノ健全ト獄

内ノ犯罪少ナキト囚人保生ノ費價半高ヲ現金ニテ得セシムルトニ歸
 セサルヲ得ス又戶外ノ勞役ハ獄ノ構外ニ在リテ行ヒ而シテ永期ノ處刑
 或ハ終身處刑ノ徒多キヲ以テ逃亡ヲ防クコトヲ肝要トセリ然レニ終
 身處刑ノ犯人輕易ノ脛鍊アルト二三ノ銃ヲ携ヘタル番卒アルト及ヒ
 囚人ノ衣上ニ印ス數箭アルトノ外平常ノ工夫ニ非ルヲ見スモノナシ
 我カ見ル所囚人一度ニ斧ヲ揮フ時ハ官吏チ一撃ノ下ニ斃ス「最モ容
 易ナリト雖ヒ當時ノ官吏任職ノ後一千八百六十九年獄制ヲ改革シテ
 ヨリ未ク此ノ如キ暴舉アルヲ聞カサルナリ既ニ我カ貴族囚人中テ往
 來スルモノ一ノ惡言ヲ聞カス一ノ非禮ヲ見ス悠々自由ヲ得シハ全ク囚
 人善行ノ確證ト云フ可キナリ」獄舎ハ一百三十六ノ獄室アル本獄ハ美石
 ヲ以テ建築スル三十六室アル新築ノ翼舎トヲ以テ成リ而シテ此石材ハ
 皆職工ノ差圖ヲ受ケテ囚人ノ切出ス所トス「又獄内ハ最モ全美清潔ト

地上ノ獄室ハ石ヲ敷キ本獄ハ稍々暗クシテ日光ノ入ルコト少ナク一
 層ノ獄室ハ板ヲ張り各室ノ囚人板上ニ蓆ヲ敷テ寢臥ス而シテ番卒夜ニ
 至レハ日衣ト引替ニ夜服ヲ渡シ各室皆鐘ヲ具ヘテ囚人非常ノキハ之
 ヲ鳴ラシテ番卒ヲ招呼スルノ便ニス新入ノ囚人ハ翼舎ニ入り他ノ囚
 人來ル迄此場ニ止マリ他囚來ル片始メテ本獄ニ遷リ絶テ新入ノ徒ト
 接スルコトヲ准ルサス處刑ヲ受ケル各囚ハアデレノ獄ニ於テ常衣
 ヲ着タル寫眞ヲ取りヤタラニ着シテ後ヲ再ヒ獄服ヲ着タル處ヲ寫眞
 ス其寫眞ハ悉ク一冊ニ纏メテ其背面ニ姓名年齢相貌犯罪處刑ヲ細記シ
 其人相ヲ一書ニ記載シ得ル所ノ履歷ヲ詳ニス
 此獄舎ニ於テ簡單ノ功標式ヲ行ヒ此功標ハ囚人ヲ勉勵スルタメニシ
 テ一日三個ヲ得ルヲ以テ規則トス而シテ番卒長ヨリ之ヲ分與シ必ス獄
 舎都督ノ檢印ナカル可カラズ男囚ハ功標記ヲ見示セラル、コトナシ然

レ此時々得ル處ノ標數ヲ聞クコトヲ得又囚人ハ幹事ニ存意ヲ演フル事
 ヲ得テ各囚皆割符ヲ所持ス縱令何程微細ト雖モ終身刑ヲ受ケタルモ
 ノ、外功標ハ囚期ヲ短縮シ處刑交換ノキハ前刑中ノ勉強ヲ追算ス間
 斷ナク勉強スルキハ處刑期ヲ減スルコト殆ント三分一ニ及フヘシ
 男囚ノ衣服ハ唯一具ノミトス故ニ之ヲ濡ス時ハ着替ナク乾カスノ難
 事アルヲ以テ大雨ノ時ハ戶外ノ工藝ヲ停止ス然レ此ノ如キ休業ハ
 功標ヲ得ルノ機ヲ亡フヲ以テ甚ク人心ニ違反ス又獄内虛病ヲ爲スモ
 ノ極メテ少ナシ醫官日ニ獄舎ヲ巡見シ病院ハ頗ル快室トス囚人獄内
 ニテ金ヲ得ルコト能ハス放免ノ時唯二磅ヲ施與セラル、ノミ又南澳地
 利亞ニ於テハ放免ヲ受ケタル囚人ニ對シテ一ノ弊害アリト云フ是レ
 放免ノ後囚人職業ニ就クコトヲ難シトス然レ近頃ウエルトンプラツ
 少氏ノ設立スル囚人扶助會社行ハレテヨリ大ニ良質ノ囚人ヲ救助セ

リ爰ニ難ノスル所ハ男囚ノ教化乏シキニ在リ實ニヤタラノ獄舎ニ於テ
 囚人ノ善行ナルコトハ却テ放免ヲ得タルモノニ勝リ縱令尙一層ノ教化
 ヲ欲スルト雖モ行狀ノ善ナルニ於テハ余カ正ニ感銘スル所トス蓋シ
 十八歳以下ノ囚人ハ他囚ト別ニシテ日曜日ノ外教師每霄其者及ヒ長
 年無學ノ徒ヲ教授ス行狀善キ者ハ諸器全備ノ學室ニ入テ讀書スルコ
 ト許ルナル、ナリ」同ノ獄室ハ人工ノ燈火ナキヲ以テ日没スレハ則チ
 業ヲ營ム能ハス囚人夏季ハ六時冬季ハ七時ヨリ一時間工藝シ再ヒ九
 時ヨリ一時マテ又二時ヨリ六時マテ此二期ノ内各々四分一時間煙草
 ノ休息ヲ取テ工藝ス工藝ノ休止ハ必ス爲サ、ルヲ得ス蓋シ某ハ勞役
 中ニ在リ某ハ休息中ニ在ルコトヲ監督スルノ難事アレハナリ」然レモ煙
 草ヲ用フルハ各々隨意タリトス煙草ハ定則ノ割合アリト云ヘ給與
 スル處ノ量太ク不同トス爰ニハ一ノ宗教ナシアラレド、府ノ獄舎

ニ於ケル如ク各種ノ僧徒勝手ニ巡見シ日曜日ノ宗務ハ囚人ニ對シテ
 強行スルノ風アリ然レモ此輩眞意ヲ以テ教禮ニ從事ス又囚人ノ工勞
 ニ因リテ建築スル一ノ美麗ナル禮拜堂アリ獄内ノ處刑ハ一室ノ獨囚
 チ命シ都督ノ命ニ因テ或ハ暫期或ハ偶々暗室ニ入ル、コトアリ非常ノ
 時ニ至テハ巡見ノ判事ト協議決定シテ一月間毎ニ室ヲ異ニシテ三月
 間ノ禁錮ヲ命スルコトアリ

戊 ニュー、シヤウス、ウエールス、内「バラマツタ」獄ノ景况

一千八百七十三年十一月十二日余バラマツタノ獄舎ニ至リタリ此獄
 余ハシド子一、府ヲ距ルコト十四里ノ地ニ設ケタリ此獄舎ハ男囚ノミ
 チ入ル、所ニシテ即チ此獄ニアルモノハ懲役人第二級ノ者ト及ヒ
 此地ノ禁錮人トシ我カ此地ニ至リタルトノ現員一百六十九人トス懲
 役第一級ノ男囚ハ此府ヲ距ル三四十里ニシテベリマノ獄中ニ在ルト

雖に余未タ此地ニ至ラス此輩多クハ鬱快ノ狀ヲ顯ハスト雖に一ハ是
 レ囚人ノ獄衣ニ囚ル所トス
 囚人ハ時トシテ一室ヲ專有シテ臥スコアリ或ハ時トシテ一室ニ三名
 同居ス而シテ午後五時ヲ過クレハ錠鎖シ獄室ノ戸牖ハ甚ク高通例ノ室
 ニ比スレハ日光ノ減スルコト遙カニ早シ囚人ノ食糧十分ニシテ毎日無
 骨ノ煮肉十「チノス」トス此獄舊則ノ遺風今ニ存シテ囚人時々互ニ囚輩
 ノ代人トナリテ食糧ヲ検査シ其分量ト品位ノ善惡ヲ點檢ス然レに都
 督ノ言ヲ聞クニ今日ハ獄吏獄則ニ從テ一切餐食ノ責任アルヲ以テ此
 事今ハ無實ニ屬スト云フ

囚人ノ職業ハ獄内ニテ行ヒ石工鍛工縫工履工製本等トス

已 タスコニヤ獄舎ノ景況

其一 ホバルト府ニ在ル「カスカデス」獄舎ノ景況

此獄舎ハ元來本國ヨリ遷徙セル女囚ヲ入ル、クマニ建築スルモノニ
 シテホバルト府ヨリ僅カ離レテモント、ウエソングト山ノ麓ニテ
 美麗ノ溪澗ニアリ

然ルニ此獄ヲ以テ既ニ最初ノ趣意ヲ用フル能ハサルニ至リ遂ニ女囚
 ノ懲役場男女貧民ノ収養場孤兒及ヒ懶惰ノ童兒保監ノ場又ハ童兒ノ
 教化場等ニ用ヒタリ其場所頗ル廣濶ニシテ此各場ヲ一構内ニ設クル
 ヲ得可ク恰モ天然此ノ如キ場ニ定メタルカ如シ

然ルニ余クスマニヤニ在ルノ時間乏シキヲ以テ獄ヲ巡見スル甚ク倉
 卒ヲ極メタリ奧地利亞ノ他獄ニ於ケル如ク此獄舎モ亦清潔ニシテ女
 囚ハ洗衣縫工ヲ營ミ殊ニ洗衣ノ業ヲ專ラトス此業我カ曾テ巡見セシ
 他獄ニ比スレハ其方法ニ至テハ大ニ進歩シ而シテ洗衣針工ヲ營ムモノ
 ハ皆群集シテ其業ニ就キタリ然レに獄舎大ニシテ各婦皆一室ヲ有シ

テ寢臥ス

此獄舎ニハ學校ナリ又各室ハ人工ノ燈火ヲ點セテ每夕六時ニ至レハ各婦室内ニ錠鎖セラル、ナリ
童兒ハ他ノ囚人ト別居ス然レモ他囚ノ注意ヲ受ル所アリ實ニ童兒ノ囚人太々少シトス

其二 ホバルト府ニ在ル懲治檻ノ景況

此獄舎ノ元來英國ヨリ遷移スル犯人ヲ入ル、爲メニ設ケタリト雖モ今ハ則チ暫時處刑ノ懲治場トシテ使用ス獄内清潔ト云ヘモ囚人ノ類別至テ少ナリ既ニ信用ヲ得タル囚人ハ官吏ノ撰拔ヲ受ケテタスコニヤ政府附屬ノホバルト方ニ在ル園囿官及廳庭園其他政府ノ所有地ニ出テ、工作シ此地ニ信友アル老囚ハ獄外ニ於テ使役セラル、コナシ是レ逃亡ノ恐アルヲ以テナリ此輩ハ構外ニアツテ使役ヲ設ケス或ハ

群集シテ巖石ヲ碎キ或ハ殘虐破廉耻ノ犯人ハ各々別レテ工作ス此獄舎ニハ學校又獄室内人工ノ煙火ヲ點セテ午後六時ニ至レハ各室皆獄内ニ錠鎖セラル

第十四 比耳時國囚房獄ノ構造

獄舎檢官長ステーヘンス氏ノ意見

ステーヘンス氏此獄舎ノ説ヲ刊行シテ余ニ送リタリ然ルニ比耳時國獄舎制規ノ實況ヲ觀ルニ或ハ未ク足ラサル所アリト雖モ率チ獄舎構造ニ干係スル要領ヲ説明スルモノトス而シテ元來囚房標ノミニ管係スル要領ヲ詳明スル趣旨ト雖モ論スル所ノ事多クハ各獄ニ適當ス此書實ニ懲治ノ疑問アルモノ讀テ必ス益ナシト云フ可カラス唯爰ニ論スル所ヲ以テ未タ完ク同氏ノ書ヲ盡セタリト云フ可カラス僅カニ其一ニチ

舉ルノミ然レモ亦大半同氏論スル所ノ要領ヲ得タリ而シテ其
詳細ナル論ニ至テハ同氏ノ書ニ讓リ爰ニ贅セス

第一 獄舎ノ位置

凡ソ獄舎ヲ造ルコトハ開濶ノ地カ若クハ都府ノ近傍ニ建築シテ必ス府
内ニ設クルコトナカルヘシ是レ一般ノ公論トス蓋シ場所ハ高燥ノ地ヲ
選ヒ人家ト遠隔シテ淡水ニ乏カラス成丈ケ北風ヲ避ケ西方ノ濕氣ヲ
防キ我カ地勢ニテハ宜シク東方南方ノ氣ヲ受ルヲ以テ囚人ノ爲メ最
モ良トス又水氣ヲ引カサル土地ヲ避ケ以テ石炭質或ハ砂質ノ地ヲ擇
フヘシ地表ハ若干ノ斜度アリテ常ニ水氣ノ流通ヲ良クシ而シテ必ス急
流ニ過ク可カラス

第二 獄内一般ノ排置

獄舎ノ特ニ目的トスル所ハ其内部ノ排置ヲ宜シク定ムルニアリ而シテ

懲治場ハ其中央ニ於テ聚會スル數多同一ノ翼舎ヲ設ク可シ又拘留獄
ト三舎ニ區別シ即チ一ハ處刑前男囚ノ室一ハ審斷ヲ待ツ男囚ノ室又
一ハ各種女囚ノ室トス又或ハ獄舎ハ番卒懲治人ノ爲メ或ハ審斷ヲ待
ツ囚人ノ爲メ或ハ警察規則ヲ犯シタル囚人ノ爲メ并ニ病囚負債主ノ
タメ各室ヲ異ニシテ守ルモノアリ然レモ敢テ翼室ヲ増スヲ良シトス
ルニ非ラス蓋シ翼室ヲ過多ニスルハ悉ク能ク囚人ヲシテ健全安康
ナラシムルコトノ難キヲ以テナリ

第三 獄室

通常ノ獄室ノ外爰ニ特ニ設クル三室アリ一ハ暫時處刑囚人ノ爲メニ
設クルモノニハ病囚ノ爲メニ設クルモノ三ハ不服燥急ノ囚人暫時禁
錮ノ爲メ及ヒ心病囚人ノ爲メニ設クルモノトス而シテ通常室内ノ廣サ
ハ長サ十三「フット」濶サ八「フット」高サ十「フット」ニシテ一零四零立方ヲ

以テ最小ノ室トス第一種ノ獄室ハ通常ノ獄室ト其大サヲ同シ第二種
病囚ノ爲メニ設クルモノハ少クモ一、五零々立方ニシテ建築ヲ異ニシ
空氣流通ノ器械ヲ設備ス「又第三種ノ獄室ハ獄内ニ散布スルモノト考
フ可カラス各獄ニ於テ必ス此種ノ獄室數多ヲ設ケテ成丈ケ他室ト分
隔セシム各室ハ皆日光ヲ受ケ必ス互ヒノ通信ヲ防クヘキヤウ建築ス

第四 獄舎暖氣ノ流通

爰ニ獄舎ヲ暖ムルニ其方法ニアリ一ハ英式即チ「ペントノウエール」ノ
獄式ニシテ此式ハ元ト比耳時ノ囚房獄ニ用ヒラシタルモノニシテ毎
ニ良功ヲ奏セス暖氣ノ配分甚タ不同トス「其二ハ温水管ヲ用ヒテ暖氣
ヲ獄内ニ送ルニアリ此法曉氣ヲ通スルニ極メテ不同ナシ此式ハ他ニ
勝リテ暫時ニシテ溫度ヲ増減スルヲ得囚人退去スルハ直ニ低度ニ
下ラシムルノ便利アリ各式ヲ試ルニ我レ此式ヲ以テ最良トス是レ「ロ

「ロウエーン」懲治獄ノ式トス然レモ此獄ニ用フルモノハ獄床ノ下溝ニ
筒管ヲ置カス之ヲ床上十八「インチ」ノ處ニ置キテ鉄箱ニ収メ鍵ヲ以テ
固定ス此箱ハ室内ノ一隅ニ於テ小孔ヲ穿テ又他隅ニ近クシ空氣ヲ通
セシム而シテ此筒管ハ囚人互ヒノ通信ヲ防ク可キヤウ設置ス

第五 獄内空氣ノ變更

「ロウエーン」ノ懲治獄ニ用フル空氣變更流通ノ式ハ全備シテ他獄ニ
見ルモノ、如キニアラス都テ獄室ハ新鮮ノ空氣允滿シテ更ニ惡臭ア
ル可カラス（此式ハ曾テステーヘンズ氏ノ詳記スルモノアリト雖モ其
說今茲ニ冗長ニ記載スルニ違アラヌ又能ク簡ニ論スルヲ能ハサルナ
リ）

第六 獄窓

我獄舎ニ於テハ多分室窓ヲ十分ニ開キ置ナリ是レ囚人健康ノ爲メ良

善ナルコトハ必ス忘ルヘカラス空氣ハ成丈ク多ク獄内ニ送ル可シ窓ハ潤サ三「フート」八「インサ」高サ二「フート」四「インサ」タル可シ

第七 獄舎ノ戸錠

獄室門戸ノ製作ニ至テハ一モ論スル所ナシ然レヒ其錠鎖ニ至テハ未タ十分ト云フ可カラス囚人室内ヨリ戸ヲ開キタルコト既ニ抄カラズ錠ハ二重ノ轉回ヲ要ス可ク而シテ戸ハ必ス鍵ヲ用ヒサレハ閉ツル能ハサルヤウ作ルヘシ又餐食ヲ室内へ入ル、ノ小窓ハ必ス堅ク回送スルヲ要セス強ク壓ルキハ抗抵少ナキヲ要スヘシ戸ハ高サ六「フート」四「インサ」幅二「フート」半トス

第八 圍房

今日「ローウエーン」ニ於テ用フル如キ定着不動ノ圍房ハ製作既ニ盡シタリト云フヘシ圍房ハ到庭十分ノ方法ヲ極ムル能ハス余意フニ近頃

我カ囚房獄ニ於テ用ユル轉移自在ノ動箱ヲ用フルヲ良法トス可シ而シテ此式ニ於テハ獄室ノ一隅ニ場所ヲ据ヘ戸ヲ以テ之ヲ掩フコトヲ希望ス又偶々此式ニ於テ不便トスル所アリ即チ一室ヨリ他室ニ談話スルヲ得ルニアリ蓋シ湯水樋ニ滿チテ之ヲ除去セントスルキハ兼テ隣室トノ間ニ話管ノ設ケアルヲ以テナリ此不便ヲ避ケントスルニハ同一ノ除去管ヲ以テ三室ヲ合スルニアリ此新式ノ圍房ヲ作ラントスルニハ除去管ノ數ヲ重複ス可シ現今ノ所ニテハ一管ヲ以テ六室ヲ除去スルニ足レリトス

第九 獄内水ノ配分

水ヲ獄内ニ分配スルニハ次ノ條目ヲ要スヘシ第一水ハ全ク各翼ヲ異ニス可シ第二壓水筒ホリスポンハ必ス運動圈ノ下リ在テ各翼ノ端末ニ設置ス可シ第三屋下ニ在ル水槽ハ中央ヨリ獄圍ノ方ニ斜メニシ通管ヲ以テ送

ヒニ連接スヘシ第四水槽ハ各々六十乃至八十「ガロン」ノ水積チ有ス可シ第五漏管ハ結末ノ水槽ニ設ケ而シテ之ヲ獄室ノ内部ニ向ケ其レヨリ漏斗ニ流出シ「ム」可シ第六數多ノ水槽アル廊下ハ修繕ノ時水ノ分配ヲ妨グテルヤウ十分高シテ廣濶ナルヘシ而シテ水槽ハ霜雪ノ及外ニ設置スヘシ第七養水筒ハ獄室ノ中央ニ置キ暖水爰ニ水管送ルノ便ニス可シ此水筒ハ非常ノ時獄園ノ水筒ニ水ヲ送り翼舎ノ水槽ヲ補益ス可キヤウ裝置ス可シ此裝置ヲ以テ實ニ獄内ノ水配十分ノ式トシ又危難ヲ防クニ足ル可キナリ

第十 燈火

獄舎ヲ設置スルニハ多ク瓦斯管ヲ土中ニ埋ム此裝置ハ未タ危嶮ナシト云フ可カラス實ニナス可カラサルニアラスト云ヘヒ古來瓦斯管ノ位置ヲ安全ニスルコト最モ難ノスル所トス修繕ノ時ハ壞崩ノ難必ス起

ル可カラス「此管ハ成丈ケ見ユヘキヤウ置キ而シテ各室ノ戶外ニ在ル嘴栓ノ外囚人ノ望ミニ因テ第二ノ嘴栓ヲ室内ニ置シ「アリ」點火ハ十孔アル一處トス然レヒ十分ノ燈火ヲ輝カスヘシ高サハ大抵三「フート」ヲ度トス瓦斯ハ十分燈光ヲ欲スル時ノ外大嘴栓ヲ開テ其増減ヲ定ムルコトナシ是レ最モ經濟ニ干係スルノ一事トス「廊下ノ燈火ハ獄室ノ燈火ト異ニスヘシ而シテ中央ニ近キ獄室ノ外燈火ニ就テハ別ニ論スルコトナシ

第十一

スコーキングチニワア
通話管

此管ヲ設置スルニハ瓦斯管ト接スルヲ避ルコト最モ好要トス蓋シ石炭ノ亞鉛鉄ニ觸ル、ハ甚タ善カラス此管瓦斯管ト接スルヲ防カサル時ハ則チ酸化シテ所々錆チ生シテ腐蝕ス而シテ此腐孔ヨリ多少瓦斯管ヨリ發散スル所ノ瓦斯ヲ吸收ス可シ此ノ如キ話管ヲ用フルハ甚タ不良

ト六

第十二 運動園

運動園ハ長サ十四若クハ十五ヤルト幅ニヤルト半乃至三ヤルトタル
ヘク而シテ此園數ハ獄舎囚人ノ五分一トス此園中ニハ草木ヲ培養シ又
獄翼ノ間ハ同シク樹木ノ植付ケタリ草木ハ健康ヲ養フタノ最モ有用
ノモノニシテ草木ノ綠葉ハ空中ノ炭素ヲ吸取リ人体有害ノ原素ヲ除
去スルノ效アリ世人能ク知ル所トス

第十三 及ヒ 十四 禮拜堂及ヒ談堂

此二條ニ就テステーヘンス氏ノ説ハ余輩ノ論ニ適セサルヲ以テ今茲
ニ論セス

第十五 浴室

浴室ハ此床ニ設ケ水積十分ニシテレアシムル氏ノ温度二十五度ニ沸

騰セシムルヲ得ル暖水器ノ裝置ヲ備フヘシ而シテ或ル新式ノ獄ニ於テ
密内ニ浴室ヲ設ケタルハ甚タ奇ト云フ可シ浴室ノ數ニ至テハ必ス惜
ム可カラス蓋シ新入ノ徒ニ浴ヲ與フルノミニ非ス尙ホ時期ヲ定メテ
全獄ノ各囚ニ浴ヲ與ヘサルヲ得サレハナリ

第十六 獄舎ノ構墻

獄舎ノ要害ヲ固フセントスルニハ周圍ノ墻壁及ヒ獄舎管理ノ爲メニ
設クル家屋ハ必ス他ノ建築ト分隔セサル可カラス而シテ獄外ノ家屋ト
本獄トノ間ヲ分チ墻壁ハ此ノ家屋ノ右ヨリ起テ之ヲ全用スルニ内部
ノ家屋ト接スルコトナク左ニテ連合ス可キヤウ造ル可シ周圍ノ墻壁ハ二
十「フート」ヨリ少カラス而シテ支柱ヲ以テ之ヲ監牢ニスルルキハ則チ之ヲ
外方ニ設ケ通路ハ必ス一門タル可シ

第十七 新説

涵渠鐘及ヒ家具等ニ至テハ從前ノ釣床ヲ鉄臺ニ換ヘタル外別ニ論ス
 ル所ナシ實ニ從前ノ釣床ハ囚人ノ健康ヲ害シ婦人ニ取テハ殊ニ甚シ
 トス新式ノ鉄床ハ健康便利經濟ニ就テ其利益量ル可カラス新式ノ床
 ニ至テハ更ニ室内ヲ紊スコトナシ蓋シ日中ハ轉揚シテ寢具ヲ其内ニ
 収貯ス又扱ヒニ便ニシテ室内欲スル所ノ一所ニ置クヲ得是ヲ以テ室
 内ニテ廣積ヲ取ハ職業ヲ營ムヲ得可シ又價ヲ論スルハ利益最モ
 著ルシ蓋シ釣床ハ附屬品共一具ノ定價二十五(フランク)トシ鉄床ハ唯十
 四(フランク)トス加之ナラス釣床ニ比スレハ供用久シキニ堪フルヲ以テナリ

第十八 庖厨燒餅洗衣場及ヒ病院

此章ニ至テハステーハンス氏比耳時ノ獄舎殊ニ(ローウエー)ノ獄舎
 ニ於テ論スル所ノ數評ニ讓テ精シク爰ニ述ヘス唯同氏其數評ノ意ヲ
 摘テ爰ニ演フルヲ左ノ如シ即チ曾テ經驗スルニ此各業ハ獄舎周圍ノ

外隅ニ置キ且ツ廣所ヲ與フルヲ緊要トス而シテ此各場ハ地上ニ設ケ
 テ獄ノ中央ト通路ヲ以テ連接シ通路ノ側面ハ惡氣ノ内ニ達スルヲ防
 シヘキヤツ造ル可シ又此業ヲナス各所ノ通路ハ獄舎ノ翼室及ヒ入口
 ノ道ト同面ニシテ鉄道停舎ニテ用フル如キ三輪ノ運車ヲ以テ多量ノ
 物品ヲ四方ニ運送スルニ便ナル可シ此ノ如キ運車ヲ用ヒサル時ハ絶
 エス幾多ノ囚人ヲ役セサルヲ得ス

第十九 貯藏場

囚房獄一般ノ規則トシテ貯藏室ハ其屬スル職業所在ノ場ニアラサル
 ヲ得ス故ニ窖中ニ温室器ヲ置ク時ハ便利ノ爲メ燃料ノ貯所ヲ其傍ラ
 ニ設ケサル可カラス此貯所ハ暖器ヲ設ケタル場ト連接シ需用ノ燃料
 ハ聊カ運送ノ勞ナリ孔穴ヨリ直ニ貯所ニ投入ス可シ又運車ヲ用意シ
 テ石炭ヲ貯所ヨリ暖器ヲ裝置スル場ニ運フノ便ニスルモノアリ又庖

廚燒餅塲等ハ地上ニ設ケテ其貯藏室ハ之ト連接シ而シ其所ニ貯藏スル物品ハ少シモ難事ナク其製塲ニ運送スルニ便ナル可シ

第二十 結末

以上論スル所ノ意見ハ各業ノ實驗及ヒ日々實行シテ目撃スル所トス而シ偶々足ラサル所アリテ之ヲ補益スルノ術ヲ示スト雖モ是トシテ未タ實行シタルニアラス唯考按一通ノ目的ト爲スニ過キス若シ夫レ「ローウエーン」ノ懲治獄ノ全ク其説ニ從ツテ行フ時ハ獄監ハ唯三十六名ニテ足ル可ク現今ハ其人員四十五名アリ又獄監ノ雜費年ニ一萬、フランクヲ省クノ外各種ノ職業頗々良善ニ赴クヘシ且ツ之ヲ施行スルモ囚人分配ノ趣意ニ逆フコナク中央ノ監督ヲ以テ獄中ノ全部ヲ守ルニ足ル可キナリ

○第十五 佛國懲治上ノ現狀

北村信義譯

夫レ佛國ハ近年ノ國亂ニ沮喪セズ頗ル人心ヲ得シカ爲メ專ラ意ヲ人民ノ疾苦ヲ匡救スルニ注キ二年半前ヨリ他邦古來ノ經驗ヲ參照シ汲々トシテ懲治上改正ノ業ニ着手セリ

初メ千八百七十一年書記官ノ躊躇セシヲ千八百七十二年万国囚獄大公會ヲ開筵スヘキ準備ニ着手セシ時ニ當リ佛國政府ハ首トシテ之ヲ賀シ而シ專ラ其書記官ヲ獎勵シタリ
是ヨリ先キ千八百六十九年該政府ハ著顯ナル小會ヲ開ケリ然レ問題ノ數ハ其盛舉ニ比スレハ甚ク狭少ナリ即チ放縱ヲ受ケタル囚人ニ對スル職分ノ如何及ヒ之ヲシテ再ヒ罪ヲ犯サ、ラシムルニ如何ナル方法ヲ用フルヤ二件ニ過キス然レモ其後那破翁帝敗亡スルニ及ンテ該會モ亦從テ中絶スルニ至レリ

其後更ニ大統領シイルス氏ノ任シタル宰相エム、デレムカー氏内務卿
エム、ラムブレツナ氏及ヒ囚獄幹事長エム、セイラント氏等我公使ト協
力シテ他ノ紛議ヲ排シ終ニ新ニ囚獄小會ヲ開筵ス可キノ議ヲ決シ問
題ノ如キハ前日ニ比スレハ更ニ廣大ナル款件ヲ起シタル即チ佛國ノ
便益ニ基キタル囚獄制規及ヒ其改正ニ關スル總則是ナリ

(千八百七十二三年)ノ冬季タウインソウイル候ノ名ヲ以テ國會ヨリ出
シタル布令ニ據リテ見レハ該國ハ十五名以上十九名ニ過キザル委員ヲ
以テ成ル可キ小會ヲ開筵スルニ由リ國會議員ノ列在ラサル懲治上熟
練ノ士民ヲ募集セリ

是ヲ以テ佛國ノ名望アル數輩ヲ募リ以テ該會ノ員ニ充テタリ就中エ
ム、フアウスマンヘリー氏ボチウイルデ、コルサンギー氏チヤールス、ル
カー氏ドロームノベレンセル氏デ、アレセンセー氏等ヲ始メ此他數氏

ハ二年半餘此事業ニ苦心セシ輩ナリ
是ニ於テ該會ハ懲治上ノ事ニ付其意見ヲ討論セシ爲メ善ク米英兩國
ヲ始メ大陸諸州ヨリ其參列ヲ請ヒ而シ佛國ヨリ參集スル者百有餘人
ニ及ヘリ

此全員ノ内數名ハ曾テ外國ノ囚獄ヲ視察シ小會ニ於テ多少裨益アル
事情ハ渾テ之ヲ該會ニ報告セリ

該會ハウエルセルニ於テ開筵シ而シ一週間二回ノ議事ヲ開キ其議
事ノ時間ハ三時若シハ四時間トス而シ該會ニ於テ實証ヲ擧ケ論シタ
ル議事及ヒ各國囚獄ノ報告及ヒ此他此議事ヲ開キタル趣意ヲ論シタ
ル數件ヲ掲ケタル簡明ナル報告等ヲ纂輯セル小冊七八部ハ今既ニ公
布セリ

抑該國ノ起シタル問題ノ如キハ遍ク練熟完全ナル事實及ヒ論說ヲ援引

シ以テ確立スルモノニテ今該國ニ於テ仁慈ヲ施スノ趣意ニ基キ開筵
 セシ賢明ナル所ノ小會ニ於テ議シタルモノ、如キハ未ダ曾テ内外ニ
 於テ見サル所ナリト云フモ蓋シ過キタリト云フ可カラス
 余ハ先ニ小會ニ參列中該會ノ副書記官ト此報告ヲ増補スル爲メ該會
 ノ結果及ヒ該國囚獄トノ實況ヲ申送ス可キノ約ヲ結ヒタルト云ヘ
 未ダ此約ヲ遂クルヲ得ス蓋シ是レ該會ニ關スル公務ノ多端ナルニ因
 ルノミ故ニ余ハ開明各國ニ於テ此事務ヲ認メテ最モ貴重ナル者トナ
 シタル如ク佛國人民及ヒ政府ニ於テモ疾ク之ヲ認メソフヲ欲シ乃チ
 其速カニ着手ノ舉動ヲ示スニ充分ナル此概報ヲ致セリ
 ○第十六 大英國囚獄改正ノ形況
 英倫ヨリ得タル五通ノ文書及ヒ蘇格蘭ヨリ得タル一通ノ文書ハ皆既
 往ノ形跡ヲ記シタルモノニテ該國囚獄ノ現狀ヲ明記シタルモノニ非

ラス

タルラツク氏ハ千八百七十二年ニ開キタル囚獄大公會ノ影響ト題セ
 ル簡略ナル文ヲ著ハシ專ラ該會ニ於テ英國ニ奏スル所ノ功績ヲ稱揚
 セリ

其文中英國學務會社ノ委員内務卿アル、エー、クロス公ニ謁シ囚獄改正
 ノ爲メ小會開筵ノコトヲ政府ニ説カンコトヲ請ヒタルニ同公之ヲ納シ極
 メテ懇篤ナル應答ヲ與ヘラレタル旨ヲ記載セリ

右内務卿ニ謁見セシハ實ニ昨年六月二日ニシテ右委員ハロルドハム
 アトソン 舊名シヨンペ

チ首トシワルトルシロフトンバルウホク、ベークル、
 シー、ダブリウ、ハスタンングストロムウアット、ゼームス、マ
 フレデリック、ヒール、セームウル、チウロレ、ゼー、エーブンム
 ルアル、スペルリッング、ゼームスマツクルランド及ヒ大書記
 シー、ダブリウ、ライ

アルス其他法律博士等ノ貴紳數名ナリ
此謁見ニ於テ爲ス所ノ議事ハ余ノ躊躇セズシテ公告セシトテ期望ス
ル所ノモノナリ

抑々此舉ニ於ケルヤ縣獄及ヒ邑獄ニ於テ施行スル懲戒治改正ノキニ
當リ自餘ノ條目ニ於テモ蓋シ默遇セサル可シト雖モ就中目今人心ノ
趨向スル所ハ到底刑役ヲ廢止セザレハ別ニ適宜ナル法ヲ設ケテ之ヲ
一變シ更ラニ工藝生産ニ關スル業役ヲ起スニアルハ照然タルカ故ニ
從來定ムル所ノ課役時間ニ更ニ一時若シハ二時ヲ増加シ而シ之ニ課
スルニ數種ノ藝業ヲ以テスルノ議ヲ決スルニ在リ即チ其議事ノ次第
左ノ如シ

ロルドバムプトン、ハ委員ヲ選舉スヘキノ請ヲ受ケ傾然トシテ之ニ
從事シリ蓋シ同氏等ノ謁見ヲ爲セル目的ニ至テハハスナングス氏

詳細之ヲ辨解ス可キニヨリ同氏ハ簡略ニ之ヲ演舌スヘキ旨ヲ陳述セリ
然レモ今ヲ去ルニケ年前開明諸邦ノ獄制上ノ事ヲ議セシカ爲メ普
ク米國及歐洲各國ヨリ數名ノ委員ノ派出ヲ請ヒタル万国大公會以
降大ニ全氏等ノ志望ヲ振起シ終ニ今日同氏等ノ望ム所ハ囚人ヲ懲
罰スルノ點ニ在ラスシテ現ニ英倫及ヒ威爾士内ニアル通常ノ獄内
ニ於テ施行スル所ノ懲戒上ノ事ヲ議セシトスルニアル旨ヲ開陳セ
リ且ツ衆員ハ之カ爲メ小公會ヲ開クノ議ヲ決セシトテ同氏ニ托セ
リ
先ニ同氏ハ囚人懲罰上ノ小公會ニ臨ミタルコトアルカ故ニ現今行ハ
ル、所ノ懲罰法ハ多ク該會ノ議ニ係レリ於茲同氏ハクロス氏ノ此
謁見ノ須要ナルヲ認メラシメト政府ニ於テ迅速ノ着手ヲ希望ス
ル意見ヲ開陳セシトテ請ヘリ

ハスチングス氏曰ク抑々茲ニ臨會セシ學務會社ノ委員タルヤ實ニ
ロルド、ハムプトンノ演舌セシ如ク大英國内ノ縣獄及ヒ邑獄ニ於テ
施行スヘキ懲戒上ノ事ヲ公議討論スルノ目的ニシテ全ク獄制中彼
是ノ條件ヲ改正スル爲メニアラスシテ其總則ヲ議スル爲メ小公會
ヲ開キ而シテ政府參考ノ爲メ該會ニ於テ爲ス所ノ議事ヲ報告セント
欲スルニ在リト

先之ロルド、ハムプトンノ主張シテ開キタル万国大公會ノ外此要件
ヲ議セシカ爲メ一會同ヲ開キ英倫及ヒ威爾士ノ各地及ヒ蘇格蘭ノ
一部ヨリ前ニ大公會ニ參列セシ判事ヲ招集セリ抑々此會同ヲ開キ
タル所以ハ該公會ニ於テ縣獄及ヒ邑獄懲戒法ニ關スル須要ナル議
ヲ起サ、リシニヨリ右判事ハ甚々之ヲ遺憾トシ乃チ頃日更ニ之ヲ議
セシカ爲メ此會同ヲ開キ終ニ前掲シタル所ノ事件ヲ小會ニ於テ議セ

ンヲ請フニ至レリ

今茲ニ會同セシ人員ヲ舉ケンニ皆ナ空理論者ニアラスシテ實地經
驗ノ士ナリ即チ愛爾蘭囚獄長ワルドル、クロフトン氏十五年間印度
ノ獄長タリシドクトル、ムウアット、氏一時蘇格蘭ノ獄監タリシフレ
デリツシ、ヒール氏クロ―セストルサイルノ代議者タルベルウツクペ
―クル氏カムブリツチノスベルリング氏マンチョストル、ノブレムチ
ル氏ミツドルセツキス、ノマルシヤル氏リルレー、ノサエウロン氏ノ
如キ是レナリ就中ロルドハムプトン及ヒ同氏 ハスチ
ンクス
トルサイルノ經驗ヲ以テ辨論セリ

小公會ニ於テ議セントスル要目ハ即チ左ノ三件ナリ

第一 目今大英國内ノ縣獄及ヒ邑獄ニ於テ施行スル處ノ制規ノ差
異○初メテウチンサイルニ於テセキセトルノ縣獄及ヒテウチン

ホルトノ邑獄ノ如キ現ニ施行スル所ノ懲戒ノ方法ニ付テ著明ナル差異アルヲ同氏カ識認セシトニ當リ同氏等殊ニ甲ハ工藝ノ業ヲ課セラレ乙ハ苛酷ナル驅役ヲ課セラル、如キ自ラ寬嚴ノ法アルヲハ發見シタリ蓋シ此法アルニヨリ茲ニ同縣内ニ於テ甲乙ノ囚人均ク三ヶ月若クハ六ヶ月ノ刑ヲ受ク可キモ其役ニ至テハ甲乙甚タ差異アル如キ處刑上大ナル偏頗ヲ生シタリ

因テ同氏等ノ所論ハ各獄ヲシテ總テ均一ナル法則ニ歸セシムルハ實際行フ可カラサルヲタルニ因リ強テ之ヲ要セスト雖ヒ又當時ノ現狀ヨリハ稍均一ニ歸セシムルノ法則ヲ設ケンヲ欲ルニアリ

第二 英國内ニ設置セシ囚獄ノ數ハ過多ナリト雖ヒ其囚人毎日平均ノ數ハ僅少ナルカ故ニ假令如何ナル成規ヲ適用スルモ蓋シ行

ハレサルト云フニ關スル事○初メ同氏ハ獄監ノ報告書ヲ得既ニシテ其表ヲ閱見セシトニ當リ同氏其弊害ノ測ル可カラサル度ニアルヲ發見シタリ即チ英倫及ヒ威爾士ニ四十五ヶ所ノ囚獄アリテ其毎日平均ノ囚人ハ五十名ニ過キサルト是レナリ

故ニ同氏ハ此弊害ヲ防ク爲メハ一獄ニ五十名ヲ定度トシ而メ一獄五十名ニ越ヘサルキハ其囚獄制規ノ効ヲ奏シ能ハサル所以實際熟知ノ輩ニ於テハ明瞭ニスル所タルヲ保セリ

抑々何ノナル所以ヲ以テ囚獄ノ數ハ過多ニシテ囚人ノ數ハ僅少ナリト云フ乎

今英倫及ヒ威爾士内ニ囚人ノ數毎日平均二十五名ニ過キサレ囚獄二十七ヶ所アリ又囚人ノ數毎日平均十名ニ過キサレ囚獄二十七ヶ所アリ又囚人ノ數毎日平均十名ニ過キサレ囚獄十ヶ所アリ

就中ナウエルトソノ囚獄ハ毎日平均僅ニ一名半ナリ
クロス氏曰ク

一獄ニ幾許ノ官吏アルヤ
ハスタンクス氏曰ク

余ハ之ヲ確答スルヲ得ス然レモ法律ニ依レハ都督介保人法教師
外科醫等ヲ要ス可シト雖モ思フニ尙ホ自餘ノ官吏アリ且ツ其費
用ニ至テハ大獄ヨリ小獄ニ於テ費ス所甚タ大イナリ
クロス氏曰ク

右雜費及ヒ供費ノ高ヲ審ニシタルヤ
ハスタンクス氏曰ク

之ヲ審ニセリ

ナウエルトソニ於テ囚人一人半ニ供スル費用ハ一人ニ付百二十磅ナリ

カルヂガンス、ニ於テ八人ニ費ス處ハ一人ニ付凡ソ八十磅ナリ
ビユウマリス、ニ於テ九人ニ費ス所ハ一人ニ付六十四磅ナリ
ホルド、ニ於テ二十一人ニ費ス處ハ一人ニ付五十二磅ナリ(シント、
アルハンズ、ニ於テ三十九人半ニ費ス處ハ一人ニ付四十四磅ナリ
カルマルセンニ於テ十五人ニ費ス處ハ一人ニ付六十一磅ナリ
曾テ同氏ノ了知セシ處ニ據レハ各獄概テ囚人一人ニ付二十磅乃
至三十磅ノ間ヲ以テ支給セリト是ニ由テ之ヲ觀レハ此ノ如キ小
獄ニ於テ費ス所ハ其間ク所ヨリ四倍或ハ五倍ノ上ニ在ルヲ昭々
タリ
故ニ今議セント欲スル處ハ此ノ如キ僅少ナル囚人ニ工藝ノ業ヲ
課スルニ果シテ其益アルヤ否ヲ決スルニアリテ其施行ス可キ懲
戒法ノ果シテ能ク行ハルヘキヤ否ヲ課スルニ非ラス

又轉シテ蘇格蘭ニ於テハ囚人ノ數平均五十人ニ過キサル囚獄五十三ヶ所アリ

又平均二十五人ニ過キサル囚獄四十六ヶ所平均十人ニ過キサル囚獄三十四ヶ所アリ就中此等ノ囚獄ニ至テハ毎日平均一人ニ過キサルナリ此地北極地方ニ至テハ廢却シ能ハサル囚獄數ヶ所アリ、チルク子一、囚獄ノ如キ即チ是ナリ

然レモ前條蘇格蘭ノ囚獄ノ如キハ既ニ獄監ノ復命書中ニ甲乙接近ノ獄ニ至テハ總テ之ヲ合併スルニ若カサル旨ヲ具申セルカ故ニ無論之ニ從フチ善トス

故ニ會社ハ此ノ如ク數ヶ所ノ小獄ヲ設置スルハ却テ弊害ヲ生シ加フルニ其費ス所ノ金額ハ巨大ナルヲ認メノヲチシロス氏ニ懇請セリ

蓋シ往時ハ囚人ヲ甲地ヨリ乙地ニ押送スルノ不便アリシカ故ニ此ノ如クナルモ敢テ其害ナシト雖モ當時汽車縱横ノ日ニ當リテハ此ノ如キ不便ハ全ク地ヲ拂フニ至レリ

又昨秋同氏ノルフ^{トク}地方ニ於テノルウ^{ガツ}チ、邑獄ノ外尙ホ四ヶ所ノ囚獄アルヲ發見シ一旦愕然シ、既ニシテノルウ^{ガツ}チ、ニ至リ其城寨ニ入りタルキニ當リ同氏ハ茲ニ四十人乃至五十人ノ囚人アケテ該囚等ノ「^デリ^{ード}シル」^メ獄^ヲニ於テ懲役ノ爲ニ從事スル至難ナルノ狀ヲ目撃セリ

先ニ便宜ニ囚リ合併セシ^ン府獄^ヲ除キ該地ニ尙ホ三ヶ所ノ囚獄アリ今之ヲ合併スルキハ一箇相當ノ囚獄ヲ設立スルヲ得可シ又リン^コル^ン、地方ニ於テハ總計七ヶ所ノ囚獄アリテ囚人一名ノ費用ハ一百廿五磅ナリ

前條ノ如ク囚獄ヲ合併スルニハ到底強壓ノ處置ヲ施サ、ルヲ得サルノ駁議ヲ受ケタリト雖モ前日ロルド、ハムプトン及ヒ同氏カ府縣ノ二獄ヲ合併セシメテ説明セシ如ク同氏ハウナルセストル、地方ヲ擔當シテ既ニ實驗セシメアルヲ以テ之ヲ保任ス可キ旨ヲ述ヘタリ

又ペーソル氏シロス氏ニ向テ曰クグロ―セストルサイル、ニ於テ七ヶ所ノ囚獄ヲ合セテ一ヶ所ニ減省シ其費用ニ至テハ現今過半ヲ減少スルニ至レリ

以上論スル所ノモノハ囚獄上巨害タルノ一事ナリ

憶フニ往日犯罪者ノ夥多ナルモ當テハ此ノ如ク數獄ヲ設クルモ妨ケナカリシカモ然レモ今日ニ至テハ犯罪者ノ數漸ク減シテ其半ニ至レリ

シロス氏曰ク

右ハ兩三年以來ノ事ナルヤ

ハスタンクス氏曰ク

然リ實ニ兩三年以來英國各地ニ於テハ犯罪者ノ數頗ル減少セリ故ニ小獄ノ如キハ總テ之ヲ廢却スルモ妨ケナキニ至レリ

第三 囚獄内ニ於テ施行ス可キ課業ノ事○前日會社ハ委員ヲ派出シ各獄ニ於テ課スル所ノ業ニ比スルニ其役夫ノ得ヘキ每週賃金ノ差等ノ賤下ナルヲ具申センカ爲メシロス氏ニ謁見セシメタル旨ヲ述タリ

シロス氏曰ク

右委員ハ之ヲ細論セシテ只如何ナル故ニ一箇ノ課業即チ藪薈職ノ一課ヲ起シ而シテ各役ノ區分ヲ別タサルヤ論センノミ

ハスヤングス氏曰ク

會社ハ今日其所見ヲ吐露フルヲ欲セスモテ之ヲ小公會ニ附シテ
論議スルヲ欲セリ蓋シ全氏等ノ之ヲ小公會ニ附セント欲スル所
以ハ役夫ノ議ニ關スヘキ委員ノ所見ヲ贊成センカ爲メナリ
元來各獄ニ於テ施行スル所ノ課業ニ於ケルヤ當時施行スル處ヨ
リ往時ニ於テハ一層數種ノ役ヲ設ケタリ

又氏ハ大イニ千八百六十六年ノ決議ヲ主張スルノ人ニシテ嘗テ自
ラ謂ラク若シ其決議ヲシテ實際ニ行ハシメハ果シテ便益アリト信ス
ルヤ故ニ其改進ノ効ヲ奏スル不適當ナルヲ論及セサルヘシト云ヘ
リ
又刑役上工藝役ヲ課スルノ制限及ヒ囚徒ノ宣告ヲ受ケタル日ヨリ
三ヶ月ニ至ル迄ハ之ヲ課セサルヤ否ヲ討議スルコトヲ以テ須要ナリ

トス

同氏ノ論述セル趣意類テ此ノ如シ於是同氏ハ更ニ大英國内ノ縣邑
兩獄ノ制規ヲ討議センタノ全員ニ代リデクロス氏ニ小會開筵ノ
議ヲ評決センコトヲ請求セリ

ブレムチル氏ハ稍々ハスヤングス氏ノ説ニ異ル所ノ論旨ヲ發セリ蓋
シ氏ハ其經驗ニヨリ囚獄課役ハ概テ工藝役ヲ課セサルコトセリ
而シテ其巨益ヲ起スハ宜シシ理財ノ方法ヲ考ヘ專ラ囚徒ヲ感化セシ
ムルニアルカ故ニ各地ノ景狀ニ從ヒ囚徒ノ勞役ニ酬ユル今日ヨリ
一層厚カラシムルニアリト云ヘリ

前條ノ如キ工藝役ヲ課スル所ノ囚獄ノ費用ニ就テハ邦内至大至要
ノ囚獄ニ於テ老功ナル囚獄事務官カ法律ニ原キ編制シタル表ニ於
テ其事瞭然タルカ故ニ氏ハ必ス左ノランカサイル、ノ四獄表ヲ以テ

理財感化兩結果ノ要點ヲ示スナル可シ

獄名	囚一人一人ニ付一ケ年ノ費用	囚一人一人ニ付一ケ年ノ給與金	囚一人一人ノ現費
キルクデール	廿三磅二「シルリ ング」	二磅一「シルリン グ」十一「ヤンス」	三十磅十八「シル 二」
ランカストル	三十磅一「シル」 「ペンス」	四磅五「シルリ ング」	十五磅十五「シル 六」
アレストン	十九磅二「シル」 「ペンス」	七磅十四「シル」 「ペンス」	十一磅六「シルリ ング」
サルフチャード	十八磅二「ペンス」	八磅二「シル」十 一「ペンス」	九磅十七「シル」 「ペンス」

此表面ニ掲ケタル四ヶ所ノ囚獄ハ總テ河地方ニ設立シ而シ理財ノ方法ニ因リ其得ル所ノ利益ハ皆ナ均一ナリト雖モ其囚徒一人ノ費用ニ至テハ各獄大ニ差異アリ即チ其多寡ヲ言ハシニ甲囚獄ノ費用ハ乙囚獄ノ費用ヨリ多キコト二倍ナリ假令ハキルクデールニ於テハ囚人

一人ノ現費ハ二十磅十八「シル」三「ペンス」ニシテサルフチャードニ於テハ僅ニ九磅十七「シル」二「ペンス」ナリ且囚徒給與金ノ如キハサルフチャードニ於テハ八磅二「シル」十一「ペンス」ニシテキルクデールニ於テハ僅ニ二磅一「シル」十一「ペンス」ナリ之ニ由テ是ヲ觀レハ到底理財ノ結果ハ囚徒ヲシテ生産役ニ服セシムルニアルコト疑ヲ容レサル所ナリ又該役ヲ課ス可キ規則ヲ設ケタル囚獄ニ於テ再犯囚ヲシテ之ニ服セシムヘキヲ討論スルハ最モ須要ノ件ナリ而シテ今此ノ如キ必要ナル課役ヲ以テ給與スル所ノ金額ヲ公示セシニ再犯囚ノ得ル所ハ僅少ニシテ初犯囚ノ得ル所ハ甚ダ夥多ナリ即チ左ニ掲タル四囚獄比較表ヲ以テ之ヲ見ルヘシ

獄名	初犯囚一人ノ給與金	再犯囚ノ給與金
サルフチャード	八磅二シル十一ペンス	十五セント
ブレストーン	七磅十四シルニペンス	二十九セント
ランカストル	四磅五シルリング	三十一セント
キルクデール	二磅一シル十一ペンス	四十一セント

該表ニ依リテ見レハサルフチャード獄ニ於テ給與スル所ノ額最モ過大ナリ即チ一人ニ付八磅二シル十一ペンスナルニ再犯囚ノ得ル所ハ僅ニ十五セントナリ然レモ多ク必要ナル役ヲ課セサル所ノキルクデール獄ニ於テハ其給與金僅カニ二磅一シル十一ペンスニシテ再犯囚ノ得ル所ハ四十一セントノ多キニ上レリ即チ前獄ヨリ多キ

ヲ殆ント三倍ナリ

此ノ如キ差異アルヲ以テ各獄ニ於テハ理財勸善兩全ノ要役ヲ課スルヲ必要トナスナリ

然リト雖モ政府若シ小會開筵ヲ許可スルキハ此ノ如キ不平均ハ該會ニ於テ總テ之ヲ平當ニ決議シ到底此等ノ不當ハ地ヲ掃フニ至ル可キヲ保ス

元來前條ノ如キ結果ハ總テ囚獄都督ノ其制規ヲ施行スルニ當テ常ヲ奏スル所ノモノタリ蓋シ該官等ノ衆說ヲシテ今日ヨリ一層ノ好果ヲ得ヒシムルニハ宜シク囚徒ノ課役ヲシテ一層ノ自由ヲ與フルニアリトス

ヒール氏ハ前ニ獄監ノ職務ヲ奉セシ人ニシテ其實地ノ經驗アルヲ以テ自ラブレムチル氏ノ說ノ適當ナルヲ保証セリ

元來氏ハ工藝ヲ以テ最上ノ課役ナル旨ヲ主張シ而シテ該役ハ改進ノ一大田圃ナリト信用セリ

又氏ハ今ヲ去ル三十余年前グラスゴウ、ノ全備獄即チ生産役ヲ課スル處ノ囚獄ニ於テ六ヶ月ノ入獄ヲ命セラレタル犯人ヲハ總テ自費ト定メ諸般ノ借料ヲ除クノ外其食料ヲ始メ俸給及ヒ此他諸般ノ費用ヲ償フ可キトセリ之レカ爲メ自費囚ノ再犯ハ甚ク僅少ナリシ旨ヲ述ヘタリ

又氏ノ所論ニ云フ凡ソ大ニ經濟ノ利ヲ得ルニハ工藝役ヲ課スルニアリト雖モ囚徒ヲシテ改心セシメ勸善感化ノ而益ヲ起スハ實ニ生産役ヲ課スルニ如カストセリ

氏ハ又前キニ其年報書中ニ氏ヲシテ其管スル地方ノ囚獄ヲ整頓セシメハ其費用ノ如キハ今日ノ比ニアラサラシムヘシ云々ト記載セシ

旨ヲ陳述セリ

從前氏ハ極メテ短期ニ處シタル囚徒ノ外他ノ丁年ノ囚徒ヲ以テ總テ自費トスルヲ良法トナスノ說ヲ吐露セリ而シテ其說ハ適當ナルマシユルデユ、ケイレノ論ニ因リ今ハ徒刑ニ處シタル囚徒ニノミ此法ヲ適用スルコトス

米國ノ數獄ニ於ケルヤ囚徒ヲシテ總テ自費ヲ以テ支給セシムルノミナラス其法果シテ懲獄ノ効ヲ失ハスシテ尙ホ若干ノ餘贏ヲ生セリ

於是クロス氏ハ元來此件タル已レ曾テ其着意セシ所ナリト雖モ政府ニ於テ如何ナル決議ニ歸スルヤ即時之ニ答フルヲ得ス然レモ固ヨリ黙過ス可カラサル件タルハ斷然疑ヲ容レス余ハ假令ヒ今日ノ會同ヲ爲サ、ルモ久ク憂慮セシ所ナリト陳述セリ

○雜件ノ部

○第一 永存万国囚獄小會ノ事(譯文)

(イ) 千八百七十四年六月二十五日二十六日及ヒ二十七

日ニ於テ亞米利加合衆國新約克州ノドクトルワイテ

ス氏ヲ議長トシブルツセルノ司法卿官宅ニ於テ開筵

セシ懲治場改正小會ノ記

本會ニ參列セシ人員ハ米國ノドクトルワイテス氏伊國ノベルトラ

ニスカリア氏埃國ノドクトル、フレ―氏瑞西國ノドクトルガイラウ

ム氏佛國ノロインン氏蘭國ノボルス氏白耳萬國ノステウエンス氏

等ニシテ日耳曼國ノパロンフツンホルチエンドルフ氏ハ所勞魯國ノ

ソロヒユツフ候ハ未着英國ノシーダブリニウハスサングス氏等ハ欠

席ス

第一條

本會ヲ開クノ前先ツ司法卿デ、ランツヘール氏ニ小會開筵ノ
祝賀ヲ述ヘク、此時白耳義國囚獄監長ステウエンス氏諸員ヲ伴ヒ
司法卿ニ接見セシメタル後ドクトル、ワイテス氏ハ衆員ニ代リ白耳義
政府ノ委員ニ向ヒ該政府ノ憤勵シテ本會ヲ起シ以テ衆ニ遇セラレ
タルノ辱キヲ謝シ併テ諸員ノ企望スル諸件ヲ演舌セリ

於是司法卿ハ万国小會諸員ノ親シク該國ニ參會セシヲ喜ヒ併セテ

本會ニ於テ充分ナル好結果ヲ奏センコトヲ期望スル旨ヲ應答セリ

第二條

右終テ議長ハ政府ノ該會ノタメ設ケタル會場ニ至リ午前第
十時ニ於テ會議ヲ開キ左ノ演舌ヲ爲シタリ(演舌文ハ末編ニ掲ク)

第三條

是ヨリ先キ議長ハ英國滯在中當時倫頓万国大會ノ議長タリ
シ、タルナルフツン候ニ謁見スルノ機會ヲ得タルニ當リ候ハ該會ニ
於テ此小會ヲ開クノ件ニ付殊ニ力ヲ盡シタルコトヲ右議長ヨリ本會ノ

諸員ニ示サソフヲ請求セラレタル旨ヲ申告セリ

第四條 議長ハバロンフチンホルトセントルフ氏ノ本會ニ參列スル能ハカル事故及ヒ異日大會開筵ノ基礎ニ關スル意見ヲ記シタル書簡ヲ朗讀セシメタリ

第五條 議長ハ伊國囚獄幹事長カルドン氏ノ送リタル書翰ヲ朗讀セシメタリ但シ氏ハ其政府ニ代リ千八百七十二年中ノ該國獄事表ヲ本會諸員ニ送付セリ故ニ議長ハ氏ニ此恩贈ノ謝詞ヲ述フ可キ任テ受ケタリ

第六條 議長ハ司法卿ノ制定セシ白耳義國民刑兩表ヲ諸員ニ配付セリ

第七條 又議長ハ佛國州獄ニ關スル法案及ヒドロームノベレンセル氏ノ編集シタル報告書ヲ配付セリ但シ該書ハ本會諸員ノ爲メニス

ル所アルカ故ニ前キニ氏ヲシテ之ヲ送付セシメタルモノナリ

第八條 ベルトラニ、氏ハ英倫及愛爾蘭懲治法及流刑論(即チ處刑論)ト題スル二文ヲ本會ニ進付セリ

第九條 ドクトル、ガイラウム、氏ハ瑞西國囚獄上ノ事ヲ記シタル一篇ノ文及ヒ、キューン、氏ノ記シタル瑞西國囚獄制規ニ關スル議案ヲ本會諸員ニ配付セリ

第十條 ロインソノ氏ハ佛國司法省政表局長兼刑事戶籍調理局長エミール、イウエルチー氏ヲ該會ニ紹介セリ故ニ議長ハ衆ニ代リ氏ノ親シク本會ニ參會シタルヲ喜ヒ併テ氏ノ此學ヲ贊成セソフヲ演舌セリ
第十一條 イウエルチー氏ハ其曾テ參列セシ萬國政表公會ノ永存小會ヨリ依頼ニ因リテ編シタル再犯論及ヒ歐洲懲治法ヲ本會ニ呈セリ

第十二條 ベルトランスカリア氏ハ期日ヲ違フコトナシ其任ヲ全フシテ編製セシ万国懲治表ニ關ス報告并該表ノ書式ヲ添テ之ヲ本會ニ送付セリ但シ氏ハ現今各國ニ於テ用フル處ノ諸表ヲ照査シタル上右書式ヲ編製シテ本會諸員ニ送付シ各政府ノ之レニ登記セシムルヲ請ヘルナリ於是白耳義、丁抹、和蘭、ホンガリ、伊太利、サキソニー、及ヒ瑞典ノ各國ハ氏ノ請ニ應シテ其書式ニ登記シテ之ヲ返付セリ而シテ此他ノ各國ハ異日之シカ登記ヲ誤ラスシテ速カニスルヲ期セリ因テ氏亦之ヲ其編製セタル表中ニ登記シテ本會ニ出シタリ

本會中イウエルチー氏ハ万国政表公會ヨリ裁判表ニ關スル規則案ヲ編制ス可キノ任ヲ受ケ政表囚獄ニ公會ニ於テ裁判及ヒ懲治兩表ニ關スル議ハ各々同一ノ決議ニ歸スルヲ要スル所以テ辨明セリ但シ氏ハ能ク此事務ニ適フノ人タルヲ以テ專ラ是等ノ事務ヲ助ケ加

フルヲ再犯ニ關スル疑問ヲ本會ノ衆議ニ付シ充分ナル復命ヲ致サシカ爲メ佛國司法卿ノ命ヲ奉シ爰ニ參會セルモノナリ

氏ハ固ヨリ利害ヲ獨任シテ刑事戸籍年表及ヒ刑事戸籍法ニ關スル説ヲ懇々辨論セリ

ドクトル、フレ、氏ハ警察表ノ欠ク可カラサル事及ヒ之ヲ製表中ニ詳細記載スヘキ説ヲ發セリ

本會ハ衆議ノ上左ノ決議ヲ爲シタリ

第一 本會ハベルトランスカリア氏ノ功勞ヲ厚謝シ其編制セル表ヲ収領シ以テ之ヲ公布セシムルヲ請ヘリ

第二 前キニ、ベルトランスカリア氏ノ請ヒニ應シタル各國政府ニ其謝詞ヲ述ヘ而シテ其請求ノ趣意ノ未ダ尽サ、ル所ノモノヲ以テ更ニ本會ニ代リテ之ヲ各國政府ニ通達ス可キ旨ヲ議長ニ

托セリ

第三 本會ハ、ステウエンス氏ヲシテベルトラン氏ノ後職ニ任セシム而シテ氏ハ之ヲ奉シ前任ノ事務ヲ擔當セリ因テ獄事表中改正増補ノ事ニ付協議ヲ受クルルキハ之ヲ辨明シ能ク各國ノ表ヲ整頓スルコトヲ勉メ往々各國ヲシテ一定ノ書式ニ歸セシム可キノ責ニ任セリ

第四 イウエルチー氏ノ再犯ニ關スル論說ヲ稱揚シ氏ニ之ヲ答謝シタル後本會ハステウエンス氏ニ其再犯上ノ疑問ニ關スル所ノ事件ハ宜シクイウエルチー氏ト協議擔當セノコトヲ請ヒ更ニ又イウエルチー氏ニ向ヒ其續イテ將來ノ會議ニ參シ獄事表ニ關スル議ヲシテ政表囚獄ノ兩公會ニ於テ各々同一ノ決議ニ歸セシムルノ任ニ當ランコトヲ請ヘリ

第十三條 異日囚獄改正万国大公會ヲ開ク可キノ問題ハ衆議ノ上之ヲ開クヘキコトニ確定セリ

第十四條 該會ヲ開ク可キ時期ハ千八百七十六年ト定メタリ

第十五條 該會ノ設制及ヒ衆議ニ付スヘキ問題ニ關スル諸規則ノ草案ヲ起ス可キ件ハフナン、ホルトゼントルフ氏ボルス氏及ヒステウ

エンス等ニテ開筵スヘキ内會議ニ附セリ

第十六條 ドクトルフレー氏ハ万国囚獄大會及ヒ其永存小會ニ體スル規則ノ條目ニ掲載シタル一篇ノ文ヲ本會ニ出シタリ

第十七條 内會議ヲシテ小會ノ衆論ヲ知ラシメンカタメパロン、フランホルトゼンドルフ氏ノ來書及ヒドクトルフレー氏ノ出シタル文中ニ記載シタル數件ヲ討議シ皆ナ之ヲ内會議ニ附シテ其參考ニ供シ

タリ

第十八條 本會ニ於テ前キニ龍動府大會ニ參會セシ各國ヨリ其委員ノ派出ヲ仰キタルニ大ニ其裨益ヲ得タルヲ以テ自后公會ヲ開クニ當テハ今爰ニ參列セサル所ノ各國政府ニ通シテ其委員ヲ參會セシメノヲ請フ可キ旨ヲ議長ニ托セリ但シ衆議ノ是ニ決セシハ此舉ヲシテ益々公正ニ歸セシメノカ爲メナリ

第十九條 次回ノ大公會ニ於テ果ソ好結果ヲ得可キノ目的タルカ故ニ其衆議ニ附スヘキ問題ノ如キハ勉メテ相像空理ニ出ルノ論說ヲ省キ宜シク實地公益上ノ論議ヲ以テセサル可カラス但シ其問題ノ如キハ一部或ハ二部ノ簡畧ナル報告書ヲ製シ以テ之ヲ該會開筵ノ數ヶ月前ニ印刷公布ス可シ

第二十條 本會ハドクトルフレー氏カ具狀セル所ノ三局ヲ設置スヘキ議ニ決セリ即チ刑政局懲治事務局兒童ニ關スル豫防及ヒ感化事

務辨理局是ナリ

第二十一條 大會ノ舉ハ力メテ其實効ヲ期シ人心ヲ正道ニ導クヲ以テ其要務ト爲スカ故ニ普ク懲治場改正ニ着手セン各國政府ヨリ其委員ヲ派出爲シメ以テ該會ヲ起スヲ肝要ナリトシ及ヒ諸員ノ吐露スル所ノ論議ニ付キ同意不同意ヲ表スルニハ「エース」(可)及ヒ「チース」(否)ノ二語ヲ以テ其人ヲ分ツト定メタリ

第二十二條 大會ニ於テ用フヘキ國語ニ關スル問題ハ該會ヲ開クヘキ場所ノ確定ニ至ル迄之ヲ未決ニ附セリ然レモ小會ニ於テハ其用フヘキ國語ノ如何ト其用ヒサル所ノ國語ノ如キモ并ニ定メサルヘカラストセリ是レ蓋シ龍動大會ノ本志ニ反シ異日開ク可キ大會ニ於テハ其定ル所ノ國語ヲ辨シ能ハサルモノハ該議ニ參セシメサルノ意ナリ

佛國ノブウルチー氏ノ本會ニ送リタル書簡ハ懇々該件ヲ論シタル
モノナルカ故ニ參考ノ爲メ之ヲ内會議ニ附セリ

第二十二條 本會ハトクトルワイチス氏ニ一篇ノ表ヲ著ハシテ龍動
公會以降宇内各國ニ於テ懲治場改正ニ着手セシ其進歩ノ景况如何
ナルヤヲ報告センコトヲ懇請セリ但シ本件願シハ千八百七十五年ノ
報告書中ニ包含センコトヲ

第二十四條 次回ノ大會ヲ開ク可キ場所ニ付テハ姑ラシ其開筵ノ議
ヲ起シタル政府ニ於テ確然之ヲ請求スルヲ待テ決定ス可キコトシ
此問題ヲ内會議ノ衆議ニ附シ決定ノ上之ヲ公告スヘシ

第二十五條 内會議ハ其擔任ノ事務ヲ盡シタル後少ナクモ次回ノ大
會開筵ノ一ヶ月前其衆議ニ付シタル諸件ノ決議ヲ小會ニ列シタル
諸員ニ報告スヘシ

第二十六條 本會ハ明年八月ガラント、デョナーチスバーデン、ノブルツ
サール、ニ於テ再會ヲ開クヘキ議ニ決セリ故ニ議長ハ再ヒ諸員ヲ招
集シ且ツガラント、デョナーチ、ニ在ル司法卿及ヒブルツサールノ懲治
場幹事エツケルト、氏ニ書ヲ送り其會同ノ事ヲ通知シ而シテ雨氏ノ親
ク此議ニ參シ以テ此舉ヲ贊成センコトヲ請フヘキノ任ヲ受ケタリ

第二十七條 ベルトラニスカリア氏ハ龍動大會ニ參會セシ各國及ヒ
此他懲治上進歩ノ景狀ヲ記シタル報告ヲ得ント希望スル所ノ各國
ニ其報告ノ任ヲ負フ一個ノ報告者ヲ定ムルハ欠ク可カラサル件ナ
リト思考シ氏ハ月報即チ(萬國小會諸員ノ衆議ヲ以テ公布スル所ノ
懲治上改正ニ關スル萬國公報)ト題スルモノヲ編制シ之ニ其編者ノ
姓名ヲ附シ以テ公布ス可キノ説ヲ起セリ但シ該書中ニハ各國ニ於
テ制定シ及ヒ編者ニ送付スル所ノ公文、法律、規則、公令等ハ渾テ掲載

シ總テ佛文ヲ以テ之ヲ記ス可キトス小會ニ於テハ衆議ノ上氏ノ
說ヲ稱賛シ氏ニ之ヲ編制スルノ任ヲ擔當セシメタリ既ニシテ本會
ハ氏ノ能ク此任ヲ奉スルノミナラス總テ其編制ニ關スル費用上ノ
事ヲモ擔任シシヲ厚謝セリ

於是氏ハ各國ヨリ送付スル所ノ文書ノ翻譯ヲ一々擔當シ能ハサル
ヲ以テ此公報ニ關スル所ノ通信ハ總テ佛文ヲ用ヒンコトヲ請求セリ
但シ此方國公報者ハ龍動大會ニ列シタル諸氏及ヒ此他懲治上ノ議
ニ關スル者等凡ソ其文讀アル者ニ限ルヘキコトトス

第二十八條 本會ハ其特選議長ドクトルワイチス氏ニ其勞ヲ謝シタ
リ

第二十九條 各員ハ此記文ヲ撰シ而シテ之ヲ朗讀鈐印シ本會ハ則チ六
月二十六日午後五時ニ於テ閉鎖セリ

於フルツセルス千八百七十四年六月二十六日

議長

ワイチス

書記官

ベルトランスカリア

ロイソン

フレン | 各印

ポル

ガイラウ

ステウエンス

イウエル

追加

第三十條 ソロヒユツブ候ハ終會ノ後ニ參着シ而シテ此記文ヲ讀誦シ
且ツ懲治上改正ニ關スル所ノ所見ヲ掲ケタル書ヲ本會ニ出サシ

ヲ請ヒタルニヨリ更ニ今夕ステウエンス氏ノ居館ニ於テ其讀會ヲ開キ及ヒ明日ルーツエーンノ懲治場ヲ臨鑿シ同所ニ於テ最終ノ會議ヲ開クヘキ議ニ決シタリ

第三十一條 前上ノ決議ニ從ヒ諸員ハ午后八時ステウエンス氏ノ居館ニ會シソロヒユツブ候ノ出シタル書ヲ熟讀シ而シテ印刷シテ他日大會設立ノ事ヲ議スヘキ爲メ開ク所ノ内會議ニ付シテ之ヲ討議セシメテ請ヘリ

第三十二條 ルツユニーンノ會議ハ懲治場幹事ノ公館ニ於テ開場セリ此會ニ於テ、ソロヒユツブ候ハ本會ノ記文ヲ讀誦シ總テ本會ノ決議ニ歸シタル諸件ニ同意ノ旨ヲ述ヘタリ然レモ候ハ「コングレンス」公ト云フ義ナル語ヲ「コンフエレンス」ナル語ニ變換スヘキコト及ヒ懲治上ノ事タルヤ刑法上ニ關係スルカ故ニ宜シク之ヲ參照シテ議ス可キ説

ヲ述ヘタリ

第三十三條 ドットル、ワイチス氏ハ諾威國キリスナアナ懲治場幹事ペートルセン氏ノ送リタル書翰ヲ本會ニ出シリ但シ此書翰中ニハ氏ノ重要トスル万国大會ヲ他日開筵ス可キ議ニ關シタル意見ヲ記シ加之大會ノ開筵場所及ヒ時期ニ關スル意見ヲ記シタルナルカ故ニ之ヲ内會議ニ付セリ此他丁抹國ノブリユン氏ノ送リタル書翰モ亦同伴ヲ記シ且ツソロヒユツブ候ヲシテ丁抹瑞典兩國ノ委員ヲ兼任シシメタル旨ヲ記セタルカ故ニ是亦内會議ニ付セリ

(ロ) 千八百七十四年六月二十五日白耳義國ブルンセルス、ニ於テ開キタル萬國囚獄小會開筵演舌文

議長

萬國囚獄小會諸君ニ白ス

先キニ余輩ハ此地ヲ以テ特ニ會同ノ場所ト選定シタリシニ果シテ今日爰ニ參會シ該地ノ空氣ヲ呼吸スルヲ得タリ抑々白耳義國ニ於テ本會ヲ起シタルハ實ニジョンホーワルト氏ヲ以テ其起創者ト云フ可シ然リ而シテ囚獄改正上ノ首唱者タル同氏ノ主張スル所ハ其會ヲ創定セシモノヨリ一層高尚ナル業役ヲ課セント欲スルニアラスシテゼーント、ノ囚獄ニ於テ其目撃研究セシモノニアリ蓋シ該國ハ全世界ニ此良舉ヲ擴充セシ嚆矢ニシテ是レ全ク其名ヲ永ク万国ニ輝カシタル一人即チウイレーン侯十六世ノ功ニアリトス元來侯ハ專ラ力チ人民ノ智識ヲ發達スルニ盡シタル聰明英智ノ大臣タリ回顧スレハ今チ去ル一百年前初メテゼーントニ懲治場ヲ開キ有益ナル制度ヲ設ケタルカ故ニ遂ニ今日ニ至リ万国チシテ漸ク囚獄上ノ事務ヲ整頓スルノ志氣ヲ起サシメタリ抑々其趣意トスル所ハ何ンヤ即チ最モ注意シテ囚徒

ヲ感化スル、事囚獄内ニ於テ心思ヲ改良スルヲ、其改良ノ爲メ課役教育及ヒ宗教ヲ設ケルヲ、囚徒ヲシテ勉強善心悔悟心ヲ起サシムル爲メ其刑ヲ寛ニシ及ヒ金額ヲ給與スルヲ囚徒ヲシテ革面セシムル可キ課役時間中ニ其囚徒ノ心思ヲ善良ニ導クヲ、獄内ニ數種ノ業ヲ設ケ囚徒ヲシテ其放解ヲ受ル後生、計ノ道ヲ立テシムル爲メ專ラ其囚徒ヲシテ技藝ニ達セシムルヲ、時宜ニヨリ囚獄制規ノ廢ナルモノニ代フルニ仁慈ノ法ヲ施ス可キヲ幼囚ノ再犯ニ於テハ短期ノ繫獄ニ處セスシテ更ニ長期ノ繫獄ニ處ス可キヲ放蕩不頼兇惡ナル幼童ヲシテ專ラ智識ヲ磨キ自ラ良心ニ復シテ勉強心ヲ起サシムル可キ教育ヲ施スニハ豫シテ其心情及ヒ容体ヲ考ヘ工藝學校若クハ兒童感化場ニ入レテ之ヲ教育ス可キ事是レナリ然リ而シテ余輩ノ今日名聲隆盛ナル此國ノ都府ニ參會セル所以ハ即チ此懲治上ノ疑問ヲ講明シ而シテ其理ヲ究メント欲スルニアリ實ニ余輩

ハ此舉ノ如ク進歩セヨヲ慶賀シ爾來倍々此舉ノ感大ナラソヲ期望ス
 前キニ龍動公會ノ開業タルヤ極メテ緊切ナル舉ニシテ本會ニ於ケルモ
 亦其決議ニ基キテ設立セシ所ナリ
 實ニ其舉ハ毎歲人智ノ開進ヲ表シ加之懲治上ノコヲ研究シテ其改正
 ナ行フ可キ器具クルカ故ニ龍動公場ニ於テハ余輩ノ希望セシ如ク果
 ソ著明ナル功績ヲ顯ハセリ今之ヲ枚舉セハ廣ク各國ヨリソノ委員ヲ
 派出セシゾソノ其委員ヲ派出シタル政府人民各社ニ於テ得タル裨益
 及ヒ該會ニ參シタル諸委員ノ智識ヲ開達セシ事并ニ現今將來ニ成動
 ス可キ結果ノ美ヲ見ルコトノ如キ皆是レナリ殊ニ本會ノ如キモ亦其一
 結果ニ基ク所ノ者ニテ第一ニ萬國懲治表ノ簡明ナル書式ヲ制定スヘ
 キ職ニ任シ第二ニ本會ハ萬國ノ利害得失ヲ察シテ懲治場改正ニ關ス
 ル諸般ノ事務ヲ整頓スヘキ職ニ任セリ是ヲ以テ本會ノ書記官ヘルト

ランスカリア氏ヲシテ普ク開明各國ニ求メテ採録スヘキ獄事表ノ書
 式ヲ編製シシメタルニ氏ハ此任ヲ奉シ大ヒニ刑事製表者タルノ名譽ヲ
 得タリトセリ

然リ而ソ本會ニ於テ議ス可キ第一ノ問題ハ次回ノ萬國囚獄大會開筵
 ノ件ニシテ之ヲ開ク可キヤ又開ク可カラサルヤヲ決スルニ在リ余ハ
 請フ此問題ニ關シ本會ノ議員タル蘭國ノホルス氏ノ送付セシ書簡ノ
 要領ヲ左ニ掲ケ以テ先ツ衆ニ示サレヨヲ
 夫レ公會ヲ開クノ大主眼タルヤ人心ヲ振起シ大イニ感得スル所アラ
 シムルニ在リ余熟々惟ルニ此目的ハ實ニ龍動公會ニ於テ充分暢達ス
 ルコトヲ得タリ即チ該會ノ結果ハ彼我ノ自由實ニ限ラス自ラ治外政權
 チ以テ統治スル所ノ諸州ニモ波及シテ既ニ全世界ニ遍キニ至レリ實
 ニ該會間接ノ結果ハ此ノ如ク瞭然タルヲ以テ見レハ余輩ノ盛舉ハ果